文部省

教員檢定試驗問題集

家事裁縫科

初回ヨリ拾九回マデ

普通教育學會編輯

近世受驗全書

最新形袖珍携帶至便○一冊價拾五錢全十冊一圓廿五錢○廿冊二圓六十錢○卅冊三圓六拾錢○郵稅每冊二錢宛

巾學校、師範學校、高等學校、高等女學校、其他是等の學校に在學せらるゝ諸氏及び普通學を修めて以て之が試驗に應ぜられんとする準備の爲めに缺くべからざるは蓋し本書の外之あらざるべし本全書は斯道專門家の孰筆に成りしものにて繁閑宜しきを得たる表解的に編成せられたるものなるも簡潔に過ぎて事理明晰を缺くが如き嫌なく文章は平易にして說明は親切を旨とし且つ携帶至便の最新形にして製本の堅牢紙質の佳良なるは勿論無二の低價世に流行する書類と潔同せらるるなかれ。

各篇書目

日本歷史　全上下
四洋地理　全上下
四洋地理　上中下
外國地理　全上下
東洋地理　全上下
化學　全上下
地文學　全上下
物理學　全上下
動物學　全上下
植物學　全上下

讀物　全
日本史　上下
西洋史　上中下
東洋史　上下
代數學　上下
平面幾何學　全上下
作文法　全
英文典　全
國體文典　全
立體幾何學　全
作文及會話　全

英國　チャールス、スミス氏原著
日本　上野　清譯補

新撰大代數學講義

全一冊（◎洋裝金文字入◎紙數一千五百頁◎正價壹圓五拾錢◎小包拾五錢）

現今代數學は數學全科目の大部分を占め數學の知識及び應用は代數學に因るに至れり而して代數書中に於て最も正確に最も簡明に最も完全に新知識を得へき最大便利の書は「チャールス、スミス」氏の大代數學書とす故に現今中學卒業程度の學生或は數學研究者の爲めに世に行はるゝ書は同氏の法式によらざるものなし本書は講述者が多年の經驗によりて「スミス」氏の最新版大代數書に增補講義せられたるものにして一般受驗生及び數學專門自修者の爲めに代數學の要領を精細に講述し原書の欠を補ひ且つ最初に於て代數學の摘要を示したり故に原書の出版元倫敦「マクラミン」會社の承諾を得て廣く代數學の必要を世に知らしむるの便利を與へられたり依て本書を「新撰大代數學講義」と題せり是れ講述者の自稱の題名にあらざるなり。

第七回家事科試驗問題

一　衣服と身體との關係を說き各種地質の得失を擧ぐべし
二　日常の食事に於て食物を配合するには如何なることに注意すべきものなりや
三　家屋の間取に就きて注意すべき要件を擧ぐべし
四　一家の金錢の出入を記載するに用ゐる帳簿の種類を擧げて其記入の方法を示すべし

以上四題（午前）

一　斷乳期前後の手當方を問ふ
二　小兒に與ふる玩具は如何なる心得を以て撰ぶべきや又之を以て教育上補益あらしむるには其教導の方法如何　以上二題（午後）

第七回裁縫科試驗問題

一　中巾縮緬　長サ四丈巾一尺三寸
　右の巾にて女物羽織衣一、同被布袤一の裁方積り方を記せ且裏に用ゐる布は何尺を要するか
一　紐下二尺二寸五分の八巾遣ひ袴を製するに布何尺を要するか裁方并に縫方の順序を記すべし
一　白絹半反にて四つ身小袖半身を縫はしむ

第八回家事科試驗問題

一　衣服の保存に關する心得を詳述せよ

明治

259-152

●近世受驗全書

[illegible]編纂

一最新形類參携帶至便◎一冊價拾五錢全十冊〔二圓廿五錢◎廿冊二圓六十錢◎卅冊三圓六拾錢〕◎郵稅每冊二錢宛

他學校、師範學校、高等學校、高等女學校、其他是等の學校に入學せらるゝ諸氏及び普通學を修めて以て之が試驗に應せんとする準備の爲めに缺くべからざるは蓋し本書の外之れあらざるべし本全書は斯道専門家の執筆に成りしものなれば簡明にして要を得たる表解的に編成せられあるものなるを以て繁閑宜しきに適し事理明晰を缺くが如き嫌なく文章は平易にして説明は親切を旨とし且つ携帶至便の新形にして製本の堅牢紙質の佳良なるは勿論無二の低價を以て世に流行する書類と混同せらるゝなかれ。

——全各篇書目——

日本歴史	全
日本地理	上下
四洋歴史	全
外國地理	上下
[illegible]	上中下
化學	全
[illegible]	上下
文學	全
數學	全
[illegible]	全
[illegible]	上下

鑛物學	全
日本史年表	上下
西洋史年表	上下
東洋史年表	上中下
代數學	上下
平面幾何學	上下
三角術	全
作文法	全
英文典	全
國文典	全
立體幾何	全
作文及會話	全

英國チャールス、スミス氏原著
日本　上野清閲補

●新撰大代數學講義

全一冊〔◎洋裝金文字入◎紙數一千五百頁◎正價壹圓五拾錢◎小包拾五錢〕

現今代數學は數學全科目の大部分を占め數學の知識及ひ應用は代數學に因るに至れり而して代數書中に於て最も正確に最も簡明に最も完全に新知識を得べき最大便利の書は「チャールス、スミス」氏の大代數學書とす故に現今中學卒業程度の學生或は數學研究者の爲めに世に行はるゝ書は同氏の法式によらさるものなし本書は講述者が多年の經驗によりて「スミス」氏の最新版大代數書を增補講義せられたるものにして一般受驗生及び數學專門自修者の爲めに代數學の要領を精細に講述し原書の欠を補ひ且つ最初に於て代數學の摘要を示したり故に原書の出版元飴數「マクラミン」會社の承諾を得て廣く代數學の必要を世に知らしむるの便利を與へられたり依て本書を「新撰大代數學講義」と題せり是れ講述者の自稱の題名にあらざるなり。

第七回家事科試驗問題

一　衣服と身體との關係を說き各種地質の得失を擧ぐべし

二　日常の食事に於て食物を配合するには如何なることに注意すべきものなりや

三　家屋の間取に就きて注意すべき要件を擧ぐべし

四　一家の金錢の出入を記載するに用ゐる帳簿の種類を擧げて其記入の方法を示すべし

以上四題　（午前）

一　離乳期前後の手當方を問ふ

二　小兒に與ふる玩具は如何なる心得を以て撰ぶべきや又之を以て教育上裨益あらしむるには其教導の方法如何

以上二題　（午後）

第七回裁縫科試驗問題

一　中巾縮緬　長サ四丈巾一尺三寸

右の巾にて女物羽織表一、同袖布表一の裁方積り方を記せ且裏に用ゐる布は何尺を要するか

一　紐下二尺二寸五分の八巾違ひ袴を製するに布何尺を要するか裁方幷に縫方の順序を記すべし

一　白絹半反にて四つ身小袖中身を縫はしむ

第八回家事科試驗問題

一　衣服の保存に關する心得を詳述せよ

明治 39 9 14 内務

二 食物調理の目的を説き其方法の重なるものに就きて得失を擧ぐべし

三 居住すべき土地の撰擇に就きて注意すべき點を列記すべし

四 出入金の一覽表を作る方法并に理由を記述すべし

五 次の諸項を日記帳に記入すべし

四月十九日	松の鉢植但鉢とも	金壹圓七拾錢
仝 二十一日	醫師の車夫への心附	金貳拾錢
仝 二十二日	湯錢	金七錢三厘
仝 二十五日	古障子賣却代	金壹圓拾五錢
仝 二十六日	菓子一折 但某氏への進物	金壹圓
仝 二十七日	袴仕立代	金參拾五錢
仝 二十八日	遺失金	金五拾錢
仝 二十八日	石油一罐	金九拾七錢
仝 二十九日	家族一同王子行に付費用	金四圓參拾錢
仝 二十九日	生命保險會社への拂込金	金壹圓五拾貳錢

右五題（午前）

六 船數の必要なる所以及び之に關する心得を問ふ

七 幼兒の德育上家庭に於て注意すべき諸件を列擧して其概略を說くべし

右二題（午後）

第八回裁縫科問題

一 裁縫を教授するに雛形を用ゐると實物を用ゐるとの可否を問ふ

二 巾一尺、丈二丈四尺八寸二分にて八巾遣ひ馬乘袴の裁方積り方を記し且出來上り寸法を明細に記すべし

三 巾九寸五分丈五丈け七尺（兩面物）

右の布にて十二歲、六歲の女兒袷表一枚づゝ及十歲の女兒羽織表一枚を裁合せんには其積り方如何

但袷には相當の腰上けを見積るべし

四 男物單羽織半身を縫ふべし

五、二尺巾の金巾三尺にて子供洋服の極簡易なる物を裁縫すべし

但雛形なり裾がけをミシンにて縫其他は假縫のまゝ

第九回家事科試驗問題

一 衣服の目的を說き且つ其選び方に關する要件を列擧すべし

二 食品の原質中蛋白質脂肪及び澱粉の人體に於ける効用を說き之に該當する食品を配合して常食の獻立二例を作るべし

三　家家を建築するに當り壁及び天井に飾さそ注意すべき事柄を擧げよ

四　家計簿記の効用を記述すべし

五　家計簿記に必要なる各種帳簿の目的を記すべし

右五題　（午前）

六　小兒生齒期の狀況及び手當方を問ふ

七　幼兒をして言語を練習せしむるには如何なることに注意すべきや

右二題　（午後）

第九回裁縫科問題

一　合服の生徒（たとへば尋常三四年或は高等一、二年）を教授する場合には如何なる順序方法を以てすべきや

二　片面もの二丈九尺二寸（巾壹尺二寸）にて年齡十二歲の女兒の衣服と一つ身とを製せんとす其裁ち方を記すべし

但成るべく殘り切の少なきをよしとす

三　貳丈九尺（巾壹尺二寸）裏地壹尺二寸（巾並）を用ゐ男物羽織を製す其裁ちかたを記すべし

四　並巾絹七尺にて四つ身綿入前の部分全體を縫ふべし

五　金巾壹尺三寸（巾二尺）にて本裁シャツの袖を縫ふべし

但ミシンを用ゐ

第十回家事科試驗問題

豫備試驗問題

一　衣服を調製するに當りて注意すべき事項を列擧せよ

二　食物の原質并に調理法と其消化との關係は如何日用食品に就き例を擧げて之を詳說すべし

三　壘及び建具の撰び方に就きて必要なる事柄を記すべし

四　嬰兒の乳養に關する心得を問ふ

五　左の諸項を日記帳に記入すべし

四月一日　清水燒煎茶器壹組　金一圓八十錢

同　二日　來客接待用ビスケット二斤　金六十錢

同　二日　湯札三十枚　金三十錢

同　三日　長女花子稽古用挿花代　金十錢

同　四日　次郎風邪全快に付禮として醫師へ　金五十錢
同　五日　掃除會社本月分　金二十錢
同　六日　古新聞紙屑其他不用品賣却代　金八十錢
同　七日　茶一斤　金十二錢
同　九日　臺灣地圖壹枚　金十五錢
同　十日　貯蓄銀行へ貯金　金五圓

右四時間

本科試驗問題

一　刺戟性食物とは何を云ふや又其營養上の利は如何
二　建坪三十五坪以内の家屋の圖面を製して其間取の考案を表はすべし但し實の種類廣狹多少等は隨意とす
三　家計簿記法の教授綱目及び教授の順序方法を問ふ
四　小兒に聽かしべき說話の撰び方及び其談話の方法に關する事項を詳述すべし
五　修業年限六ヶ年にして尋常小學校より連續する高等女學校生徒に家事を教授するに當り左の仲に就きて
　　の考案を問ふ
　　1　教授すべき綱目
　　2　各綱目配當

　　3　教授の方法
　　4　毎週教授時數

右五時間

第十回裁縫科試驗問題

豫備試驗問題

一　裁縫教授の際生徒の姿勢を正すに就きて注意すべき箇條を擧げよ
二　一級四拾人の生徒に用布紬類にて男袷物織を教授するに當り其の適當なる教授の順序方法及び之を要する時數の大略を記すべし
三　巾一尺六寸五分總丈三丈にて本女羽織一枚（但し仕立上げの行一尺六寸五分其の他の寸法通常）中裁後布一枚（但し仕立上の行一尺五寸三分其他の寸法に準ず）
　　右二枚の裁合せ并せよ積り方を記すべし又其の實地は各何尺を要するや
四　中巾縮緬にて女服表一枚并に下着の廻り（但し表一のみを裁合すとせは何尺の用布に何なるか其の裁方積り方を圖解すべし
五　帶巾二丈にて四歲位の女兒の洋服の裁方積り方を圖解すべし

右四時間

本科檢定試驗問題

一　高等女學校第一學年（尋常小學校より連續するもの）生徒に裁縫を教授するは如何なる順序を以てすべきや且之を三學期に配當する細目を記すべし但し其の教授時數は毎週四時間にして第一及び第二學期は各十五週第三學期は十週にして總計六十時とす

二　左の事項に就て其の教授法を明記すべし

一　運針

二　補綴法（はぎ方、つぎ方）

三　並巾長さ一丈五尺四寸の布にて十一歳の子供の袴を仕立つるには袋丈幾尺にせば可なるべきや　裁方及び積り方を圖解すべし但し衣服の着丈は二尺九寸なり

四　女單物重ね附上前身を縫ふべし

用布色絽、白麻

五　小兒胸掛（西洋形）用布更紗

右畳部分に、ミシン縫を施し他は假縫にて可なり

第十一回家事科試驗問題

豫備試驗問題

一　衣服に就きて作法上注意すべき要件を問ふ

二　滋養物偏用の害を述べよ且つ其の理由を詳說せよ

三　厨房用諸什器購求の注意併に保存の方法を記すべし

四　家計簿に用ゐるべき諸費目の名稱を擧げ其撰定に就ての心得を說くべし

五　初生兒の保護に關して必要なる事柄を記述すべし

本科試驗問題

一　高等女學校に於て割烹實習の爲新設すべき厨房及び之に附屬せる食堂の圖面を製して其の方向間取廣狹等の考案を表はし且つ厨房器の配置をも記入すべし但し生徒は一回に凡そ十人づゝ實習さしむるとす連坪其の他の設備は總べて隨意にて可なり

二　獻立を作るに當りて注意すべき事柄を列配し且つ常食及饗饌に就きて各一列を擧ぐべし

三　金額并に費用等を假定して一家出入金の一覽表を作り且つ其の効用を擧ぐべし

四　小兒の渥擊及び火傷に當りて救急法を記すべし

右筆答

五　衛生と經濟との關係に就きて心得べき要點を述ぶべし

第十一回裁縫科試驗問題

豫備試驗問題

一　生徒三十人に對し二人掛りの机二十脚を用ゐるものとし絹布にて本裁男物袷を教授するに當り一齊に孫定の時間に終了せしめんとせば其の裁ち合せ標附けの際机の配置如何すべきや又其の教授の方法及び之

に要する時間をも記すべし

二　高等女學校三學年にて卒業するものと定め各學級につき左の事項を明記すべし

1　教授時數

2　教授材料品

3　教授の方法

三　十二歳女兒に中裁綿入表一枚

十歳の女兒に中裁別袵綿入表一枚

五歳の女兒に三つ身裁別袵綿入表一枚

右三枚を紬縞一疋(幅九寸五分のもの)にて裁合すものとし其の裁方積り方を圖解すべし

四　幅一尺五寸長さ一丈三尺の片面ものにて男物單物織の裁方積り方を圖解すべし

五　片面物大幅に七分にしてしやつを圖解し順序を明記すへし

一　高等女學校に裁縫を教授するに當り各級總て一齊にすることの可否に就きて意見を述ぶへし

二　本裁單馬乘袴に就きて其の裁ち方及び縫ひ方の教授方法を明記すへし

三　長さ九尺幅一尺三寸の布あり之を以て着丈二尺の女兒の衣服を調製せんとす　其の裁ち方を圖解し且縫り方をも記入すべし

第十二回家事科試驗問題

豫備試驗問題

一、食物の化學的性質に就きて其の大要を說き以て一家の常食に適用すべき食品撰擇の心得を明記すへし

二、客室の裝飾に關する事柄を明記すへし

三、高等女學校上級の生徒に新に家計簿記法を教授せんとするに當り最初の一時間に於て用ゐるへき教授草案を作るべし

四、齒牙の發生及び代換の時期順序並に此期に當れる小兒の取扱を記すべし

五、家內の病者を看護するに當り內服藥用法に關して注意すべき事項を擧くべし

本科試驗問題

一　衣服をして保溫の目的に適はしめんには地質の撰擇及び所用の方法に關して如何なる注意を要すべき其の理由を詳記して之を說明すべし

二　建坪三十坪にて二階建家屋の圖面を製すべし但し室の種類は左の數種を用ゐるべく各室の多少及び廣狹は隨意にて可なり

玄關　　客室

二の間　　書齋

老人の部屋老母一人　　主婦の部屋
子供部屋二才の幼兒一人　　茶の間
臺所　納戸　　化粧部屋
下女部屋下女二人　　湯殿
物置　廚

三　家庭に於ける兒童の訓練に關して當罰の心得を述べべし

右四時間

第十二回裁縫科試驗問題

豫備試驗問題

一、修業年限四ヶ年高等女學校に用ゐるべき裁縫教授細目を作るべし

二、高等女學校に於て裁ち方を教授するに當り生徒をして充分了解せしめんには如何なる法によるべきか其順序方法等につき各自の考案を明記すべし

三、幅三尺五寸長さ一丈三尺五寸の毛織物にてあづまこーと(被布襟全羽の類)二枚を裁ち合せんには如何にせば可なりや又一枚を調製するには此幅のもの幾尺を要するや其總丈を記し且つ共に之を圖解すべし

四、幅二尺長さ一丈二寸の片面ものを用ゐると假定し中裁に相當する丈幅の記入して其方法を圖解すべし

右五時間

本試驗問題

一、單羽織の裁ち方及び縫方に付きて其教授法を詳記すべし

二、本八丈縞四丈を以て男物袷一枚下着羽織一枚分を裁ち並巾物八尺六寸を加へて其不足の所を用ゐんとするには如何なる裁方に由るべきや丈幅等を記入し之を圖解すべし

三、中夜着の丈仕立上り四尺八寸として之に適合する各箇所の寸法及び縫方順序を明記し且つ表裏地の總丈綿の量をも記すべし

四、大巾四寸五尺九分の布にて女兒の袴を調製すべし但し其形は圓襠にて可なり

五、巾六寸五分丈一尺二寸五分の布にてしやつの衿を縫ふべし但しみしんを用ゐることゝす

第十三回家事科試驗問題

本試驗問題

1、師範學校女生徒に家事科中衣服調製の條を教ふるに當りて用ゐるべき教授草案を作り其事項及授の順序方法を明記すべし

2、食品の貯藏法數種を擧げて其理由を述ぶべし

3、子女の監督に關する心得を詳記すべし

4、一家に於て救急の用に充つべき繃帶用法二三を擧げ之れを圖解すべし

本試驗問題

1、一尺巾の布十反にて二十人の生徒に身丈二尺の小裁被布を教授するに當り一枚に付裏切一丈二尺八寸を用ゐると定め之に因りて表用布の裁ち方を圖解し且仕立上り寸法を明記すべし

2、一尺二寸巾の縮緬にて圓拔無垢二枚を調製せんとす裾の丈一尺三寸五分と定め其裁ち方を圖解し丈巾を記入すべし

3、並巾片面深長さ一丈三尺一寸にて三つ身羽織を裁つに丈二尺三寸後巾六寸五分とし一ヶ所はぎをなすとせば如何なる裁ち方を用ゐるべきやそれを圖解すべし

裁縫實地

1、「ミシン」を用ゐて洋服下着器飾の一部分を縫ふべし

2、白綿八尺にて比翼小袖上前を縫ふべし但し糸は一寸とす

第十四回家事科

甲　豫備試驗問題

一、建坪三十五坪にて平家建家屋の圖面を製すべし但し室の種類狹多少等は隨意とす

二、家計簿記に用ゐるべき月末計算表の記入法を説明し且つ其効用を述ぶべし

三、傳染病者の看護法に就きて心得べき要件を擧くべし

四、女子の体育に關し家庭に於て注意すべき事項を説くべし

右三時間

乙　本試驗問題

一、修業年限四ヶ年の高等女學校第三學年に用ゐるべき家事科教授草案三時間分を作るべし但し其教授事項は文部省令高等女學校學科課程標準に據りて之を選定すべし

二、左の事項を日用帳に記入すべし

十二月廿日　手元現在高　金五拾圓

同　廿一日　座敷及び部屋疊替入費　金拾五圓參拾錢

國許松山氏へ歳暮として物品送附に付運賃　金貳拾四錢

竹川氏へ立替金　金壹圓

同　廿二日　貯蓄銀行より引出　金參拾圓

火災保險料半期分　金參拾圓

衛生組合費本月分　金拾錢

同　廿三日
紫メリンス風呂敷二枚　金六拾錢
洋服屋へ手附金　金拾圓
主人俳給本月分　金百圓
同　廿四日
長女梅子へ靴一足　金壹圓八拾五錢
次郎へ玩具　金拾八錢
竹川氏より立替金返濟　金壹圓
雜品賣却代金　壹圓五拾錢
同　廿五日
日用小皿十枚　金貳拾五錢
丸谷燒菓子鉢一個　金貳圓五拾錢
餅搗入賃　金七圓參拾六錢
繪はがき三十枚　金貳拾四錢
郵便切手　金壹圓參拾五錢

三、肩より上臂下臂を通じて腕周節まで繃帶を施さんとす如何なる用法に據るべきか圖を掲げて之を解說す

べし

四、膿瘡の手當方并に其豫防法を記すべし

五、腺病質の小兒の狀態及び之に對する養育法を述ふべし

第十四回　裁縫科

甲　本試驗問題

一、裁縫教授の目的及他教科目との關係を記せ

二、裁縫の教授上衛生に關する一切の事項を記載せよ

三、並幅三丈物織小紋一反にて女物を裁たんとするに其織始めより五尺壹寸の處幅の端の方に凡五寸四方の織むらあり又織終りより二尺二寸の處幅の中央にも凡三寸四方のきずあり着用の上此二ヶ處のきずの目立たぬやうせんには如何なる裁方によるべきか其寸法を記入して圖解すべし

四、並幅長さ三丈三尺の布にて筒袖の袷及羽織を裁つに三枚とも後幅は縫上り七寸にせんとす其裁方を圖解し且つ積り方の算式を記載すべし

五、中幅縮緬壹反にて女物被布の裁方を圖解し又其縫方順序を明細に記すべし

右四時間

乙　本試驗問題

一、左の事項を高等女學校第一學年に教授するものとして其教授草案を記載すべし

本裁單衣男物裁方

二、片面物大幅(一尺六寸)の布を以て女大人物無垢上着并に上着の廻り一枚を裁たんとせば其布地何程を要するか又裁方の圖及ひ寸法を記載すべし

三、ふられる大幅を以て胸當及ひ折り衿附大人物しやつを裁たんとするには如何なる裁方によるべきか之を圖解すべし

但し各部の寸法は圖中に記入すべし

四、博多男帶　一筋　仕立方

五、縮緬女物　右袖　仕立方

六、女兒洋服上着　一枚　仕立方

右三時間

第十五回家事科（明治三十五年）

豫備試驗問題

一、土地の自淨作用とは何をいふか詳かに之か解說をなすべし

二、左記の品種を用ゐて現今の季節に適合せる饗應の獻立一例を作るべし

吸物、刺身、口取、燒物、煮肴、酢の物、椀盛、鉢物、猪口、汁、香の物

三、幼兒に對する說話の心得を列記し簡單なる童話一例を擧げて其術を說くべし

四、各種衣被料の衛生上に於ける得失及び其理由

右の題目により修業年限四ヶ年の高等女學校三年生の授業に用ゐるべき敎授草案を作るべし

右三時間

本試驗問題

一、生產及消費に關する經濟上の要件を擧げて兩者の關係を說くべし

二、幼兒をして博愛の心を養成せしめんには如何なる訓練によるべきか其方法を詳記すべし

三、諸種の毒蟲に螫れたる時の整傷の狀態並に其救急法を記すべし

四、建坪三十五坪を用ゐて總二階造家屋の圖面を調製すべし

但し家族は家長、主婦、老父母、幼兒二人、書生一人、傳婢、炊婢各一人とす

第十五回裁縫科

豫備試驗問題

一、修業年限三ヶ年の高等女學校に授くべき裁縫科の敎授細目を作るべし

但し每週の敎授時數は明治三十四年三月發布の高等女學校令施行規則による

二、裁縫敎授に入用なる備品の名稱品質及其構造若しくは寸法の大要を記載すべし

三、用布本「フランチル」にて五六才の小兒のシャツ、ヒスボン下の裁方を圖解し之に各部の名稱寸法を記入

すべし

四、紋縮緬中幅一匹(五丈二尺)を以て前衿裁并に四ツ身着物表各一枚と四ツ身被布表一枚とを裁合さんとせば如何なる裁方によるべきか又各部の名稱及裁切り寸法を圖中に記入し且つ積り方の算式をも記載すべし

右四時間

本試驗問題

一、衣類の洗濯法

右の事項を高等女學校第三學年の生徒に教授するものとして其教案を調製すべし

但し洗滌品に於ける化學作用の大要をも記載するものとす

二、我邦女服の得失を擧げて改良の要點を記述すべし

三、用布カシメヤ七ヤール四分にて大(大人)中(凡十二三才)小(六才)三種の女袴の裁合せ方を圖解し之に各部の名稱寸法を記入すべし

四、用布中幅縮緬にて女服無垢並に女無雙羽織の裁合せ方を圖解し之に各部の名稱寸法を記入し且つ其積り方の算式をも記入すべし

實地

五、無垢女服左半身(用布白絹)

寸法普通但し袵八分

六、男兒(四五才)水兵形洋服上着(用布リンネル)

以上二題十六時間

第十六回家事科

豫備試驗問題

一、諸種の人工採光法に得失を擧げよ

二、歳首、賀壽、遠忌

右三種の場合に於ける國風の室内裝飾即ち掛物生花置物及棚飾に就きて各自の考案を述ぶべし

三、夏期の饗饌に用ゐるべき吸物及口取(三種)の献立を選定し其調理法を詳記すべし

四、中學年齢の男子に對する家屋の監督法を説くべし

右三時間

本試驗問題

一、建坪を五十坪前後として官吏(家族は老母主人婦妻子供三人書生一人下婢二人)の住宅を建築せんとす其圖面を調製すべし

但し右の内若干坪を二階とす

二、左の事項を日用帳に記入すべし

十月廿一日

一、俸給　百五十圓
一、老母小遣　七圓
一、月謝　弐圓
一、給料　五圓五十錢
一、來客費用　壹圓廿五錢
一、足袋三足　五拾壹錢五厘
一、來客用座蒲團五枚　弐拾圓
一、西京親族へ物品郵送費　弐拾四錢

十月廿二日

一、石鹸壹箱　九拾錢
一、炭貳俵　壹圓
一、古實叢書豫約金本月分　壹圓五十錢
一、慈善會切符三枚　六圓
一、國旗　六拾錢
一、貸地七百坪地代受取　百五圓

一、植木屋一日雇二人　壹圓
一、寶丹壹包　弐拾錢

三、左の事項を高等女學校第五年の生徒に教授するものとして一時間分の教授草案を作るべし

一、繃帶用法

第十六回裁縫科

豫備試驗問題

一、裁縫科の普通教育に於ける價値を論せよ

二、左の諸項を説明すべし

1、衣服を仕立しむる前に基礎の技術として授くべき事項
2、裁縫科の教授細目を調製するに當り教材の配當に付きて注意すべき事項
3、高等女學校の教科に手藝を加ふる時は何學年の學科より何時間之を分割すべきかその最適當なる學年

學科時間數并に其理由

三、中幅縮緬五丈を以て大人并に小供物（七才位）無垢振袖を裁合さんとせば如何なる裁方に依るべきか又各部の名稱及裁切り寸法を圖中に記入し且つ積り方の算式をも記載すべし

四、並幅物にて四ツ身裁方三種以上を擧げ且つ各部の名稱寸法をも圖中に記入すべし

五、本比翼と附比翼との區別を述へ且つ袷本比翼の縫方順序并に下着ツメカタノ寸法を明細に記入すへし

右四時

本試驗問題

一、並幅片面物三ツ身裁ち方

右の事項を高等女學校第二年の生徒に教授するものとして其教案を調製すべし

二、大幅縮緬(一尺六寸)三丈一尺五寸を以て本裁女物無垢并に四ツ身羽織表各一枚を裁ち合さんとせば如何なる裁ち方によるべきか且つ各部の名稱寸法を圖中に記入すべし

三、用布フランネルにて大人シミーズ并にズボン下(帶附)の裁方を圖解し又其各部の名稱寸法及總尺數を明細に記載すべし

右三時間

裁縫實地

一、單本重、左片袖袂丸一寸五分

二、四ツ身比翼、左身頃施一寸

三、子供洋服上着(一歳未滿の幼兒)

第十七回家事、裁縫科試驗問題

家事科豫備試驗問題

一、給水法の種類得失及び使用者の注意すべき要點を擧げよ

二、綿布、絹布、毛布、麻布の四種を用ゐて此單衣を調製せんとす 右材料に就て之に適當なる物各三種を擧げ且つ之を採擇したる理由を述ぶべし

三、月收入百圓家族七人(親一人、主婦一人、子供二人、書生一人下婢一人)

右の假定により八月中の日用帳を調製すべし

但し收支を通ふしせ二十事項内外とす

四、實布的里亞に罹かれる小兒の看護并に發病前後の狀態及び治療に關する注意を詳記すべし

右三時間

家事科本試驗問題

一、新婦を迎へたる後披露の祝宴を開くに當り賓客の接待に關して必要なる事項を左數條によりて記載すべし

1、玄關、携帶品置場、化粧室、待合室、宴會室

右各室配置の圖面并に裝飾

2、饗善及献立
3、餘興

二、婢僕待遇の方法に就て各自の考案を述ぶべし

三、修業年限三ヶ年の高等女學校に授くべき家事科の教授細目を作るべし
但し教授時數は第三學年に於て毎週三時とす

家事科本試驗問題(口頭)

一、公德養成に關する家庭の教育法を詳說すべし
右筆記を合せて四時間

第十七回裁縫科

一、左の三項を說明すべし
1、上布、繭紬　リンネルの各原質
2、動物性纖維と植物性纖維との最簡單なる識別法(二種)
3、木綿漂白法の大略

二、裁縫教授に最必要なる掛圖及標本は如何なる種類なるか且其製作法の大要を記載すべし

三、中幅紋縮緬一疋(五丈四尺)にて綿入比翼無垢と三つ身筒袖の被布の表とを裁合さんとせば如何なる裁ち

方によるべきか又各部の名稱及裁ち切り寸法を圖中に記入し且つ積り方の算法をも明記すべし

四、春入大夜着裁縫に關する一切の事項を說明せよ
右四時間

裁縫科本試驗問題

一、左の教材に付教授案を調製すべし
但し學年は隨意に選定すべし
教材本裁袷羽織男物標附け方、授業時間二時間

二、十布遣袷の袴表裏の裁ち方を圖解し之れに各部の名稱寸法を記入し且つ積り方の算法をも詳記すべし
但し用布は表仙臺平裏甲斐絹とす

三、東コート(女物)の普通仕立上寸法及縫ひ方順序を明記すべし
右三時間

實　地

一、本裁女物單羽織前縫(右前)

二、打掛前縫(左前)袵一寸五分

三、婦人洋服上衣の裁縫
以上

第十八回裁縫科（三時間）

實地

一、八分袖左褄縫ひ方（五十分間）

二、三四歳兒の西洋形帽子の裁縫（三時間）

但し形狀は隨意とす

三、折り衿附「シャツ」の裁縫（七時間）

但し袖口及衿「ミシン」をかくべし

四、女物無双綿入羽織左半身の裁縫（八時間）

家事科（三時間）

一、營養標準とは何をいふか既定のもの三種を擧げ獻立の例を附記して之を解說すべし

二、一家の會計豫算編成につきて守るべき原則を列擧し其梗概を述ぶべし

三、避暑に適すべき別莊を新築せんとするに當り左の數件につきて各自の考案を記載すべし

(1) 土地の選定　(2) 家屋の圖面　(3) 屋根の形狀材料　(4) 建具及び敷物　(5) 墻垣及び門

(6) 庭園

四、嬰兒破傷風の原因及び其豫防法を說くべし

家事科

一、親戚知人を招き觀菊を兼ねて祝捷の宴を催さんとす左の事項に就きて記載すべし

一、招待狀　文章　用紙　封筒　一、迎接の注意

一、賓客の接待に要する諸室の裝飾　一、餘興

一、食事の獻立　一、送客の注意

二、一年俸壹千圓

家族五人　夫婦　弟一人（二十歳）　妹一人（十七歳）　子供二人（十二歳及九歳）　下婢一人

職業　教師

居住地東京

家屋　借家

右の假定に由りて一ヶ年間の收支一覽表を製すべし

三、高等女學校四學年の生徒に一家の管理法を教授するに當りて用ゐるべき教授草案二時間分を作るべし

裁縫科（四時間）

一、普通教育に於ける裁縫科の教授方法を一齊的になさんとせば其の材料品の準備及び取扱ひ方は如何して可なるべきか

二、高等女學校若くは女子師範學校に於て洗濯法を實習せしめんには如何なる設備を要すべきか但し洗濯場は圖面を製して說明すべし

三、用布小倉袴地一反にて小裁（五歲位）并に中裁（十歲位）の男袴の裁ち合せ方を圖解し之れに各部の名稱寸法を記入し且つ積り方の算法を記載すべし

四、綿入比翼の縫附け方を明綱に圖解し之れに各部の寸法を記入すべし

五、中裁（八九歲）運動シャツ并にズボン下の裁ち切り寸法、裁ち方の圖、仕立上の形狀及び其の寸法を詳記すべし

裁縫科本試驗問題（三時間）

一、高等學第一學年及第二學年の二箇年を以て編制せる複式の學級に授くべき裁縫科の教授案を調製すべし

二、中幅の絞縮綿にて本裁無垢並に上着廻り無垢二枚の裁ち方を圖解し之に各部の名稱、寸法を記入し且つ積り方の算法並に用布の總丈をも記載すべし

第十九回家事科（三時間）

一、上等の家庭に於て庭廻を新築せんとす之が設計圖を調製すべし

二、朋友の婚儀を祝するため物品を贈らんとす其品種を選定し裝飾の方法を說明し且つ之に添ふべき書簡の文言樣式を詳記すべし

三、一家の吉凶に關する臨時支出は如何にして之を辨ずべきか其方法に就きて說述すべし

四、麻疹患者に對する看護法を說き其病床日誌の一節を揭ぐべし

家事科（四時間）

一、子女の教育上惰儲に就きて注意すべき事項を列擧し其梗概を說くべし

二、寢具の種類を擧げ其品質形狀につきての得失を述べ之が使用及び保存に關する心得を記すべし

三、左の諸項を日用帳に記入すべし

十一月一日	前月よりの越高	金百貳拾圓
十一月二日	呼鈴壹箇	金九拾五錢
	掛物裱裝代	金拾參圓
	學校遠足費用　次郎分	金參圓

	挿花代	金貳拾五錢
十一月三日	天長節祝賀會入費	金拾貳圓五拾錢
	母及び子供二人園子坂菊見費用	金壹圓七拾五錢
	電車回數切符	金六拾五錢
十一月四日	加里石鹼一磅	金貳拾九錢
	羽織地一反　贈物用	金九圓五拾錢
十一月五日	懸賞圖案當選に付賞金受領	金百五拾圓
	義勇艦隊寄附金	金五拾圓
	瓦斯使用料前月分	
	燈火用	金參圓
	料理用	金參圓五拾錢
十一月六日	駒下駄壹足	金壹圓五拾錢
	松子へ護謨毬壹箇	金拾八錢

裁縫科（四時間）

一、裁縫科教授の段階は如何に之れを定むべきか其の理由を記して説明すべし

二、女兒の宮參りに用ふる祝著（冬期用）の調製に關する總べての事項を記載すべし、
　但し地質、染色、及び模樣の種類をも記述するものとす、
三、本裁袷の比翼無垢を調製するに表地を中幅の紋縮緬、裏地を紅絹とせんとす其の積り方、用布の總丈、裁ち方の圖解、各部の名稱寸法、縫ひ方の順序方法を明記すべし、
四、二尺幅の用布にて六七歳の女兒洋服の裁ち方及び仕立上の形狀を圖解し且つ各部の名稱寸法を記入すべし、
　但し之れに要する附屬品の種類、丈、幅等をも詳記すべし、

裁縫科（三時間）

一、高等女學校第一學年ノ程度ニ於テ教授スベキ裁縫科ノ教案二時間分ヲ作レ

明治卅九年九月十日印刷
明治參拾九年九月十三日發行

文部省
教員檢定試驗問題集
不許複製

編纂者　島村東洋

東京市神田區表神保町七番地
發行者　辻本末吉

東京市本郷區湯嶋一丁目二番地
印刷者　椿市太郎

東京市本郷區湯嶋一丁目二番地
印刷所　株式會社葵社光社

發賣所　東京市神田表神保町　電話局本三五七一　振替口座番號八二三　修學堂書店

明治卅九年九月十日印刷
明治參拾九年九月十三日發行

文部省
教員檢定試驗問題集
不許複製

編纂者　東村島洋
東京市神田區表神保町七番地
發行者　吉末本辻
東京市本郷區湯島一丁目二番地
印刷者　郎太市椿
東京市本郷區湯島一丁目二番地
印刷所　社光葵社會式株
發賣所　東京市神田表神保町三番地一　修學堂書店
電話本局　振替口座東京三五七一番

會頭正四位子爵戸田忠義母堂戸田愛子

●女子學藝全書

●長谷川吉次郎著
△女子算術講義　全一冊　價六十錢　小包料六錢
●大和田建樹校訂　北川博愛著
△女子文のしをり　全一冊　價一冊錢　郵稅六錢
●大谷貞子著
△和洋料理栞　全一冊　價一冊錢　郵稅六錢
●大谷貞子著
△女子諸禮の栞　全一冊　價一冊錢　郵稅六錢
●大谷貞子著
△女子家政の栞　全一冊　價六十錢　郵稅六錢

學術に手藝に初も女子が學生として良妻賢母として學藝を研き內政を掌り女子の本分を盡すに於て之が良師たらん事を期して生れ出でたるは本書なり此書の頒世に少なからずと雖も何れも一方に偏するを憾むとて著者の實驗上に成りしものなれば最も適切ならん事を期せり世の婦女たるものの之に依りて以て講究せば得る所大なるべし

後藤本馬先生著

●巡査看守受驗案內

◎全一冊◎紙數五百頁◎價四十錢◎郵稅六錢

警官優待ハ朝野ノ輿論ナリ俸給及ビ人員ノ增加ハ既ニ決議セラレタリ本書ハ時下ノ必要上巡査看守ノ受驗準備ニ供セン爲メ試驗ノ手續及志願ノ事ヨリ試驗問題ノ各科目ニ付逐一答案ヲ附シ又受驗上、職務取扱上必要ナル諸法令ヲ蒐集シタレバ受驗人ハ勿論現任巡査看守ノ爲メニ缺クベカラザルノ良書也

農學博士 本田幸介先生校閲並序
農家之母 主婦 井關十二郎
農學士 豊田虎次合著

新論 農家の副業と其方法

大本 全一冊
上製美本
正價 金壹圓廿錢
郵稅 金八錢

本書は戰時の農家、戰后の農家、特に農家たるの本務を盡し、勞働と勤勉とを資本として精さを伸らんとする農家諸氏必讀の一大要書也

元東京府立第四中學校講師 長谷川吉次郎 編纂

女子算術講義

大本 全一冊
上製美本
正價 金六十錢
小包 拾錢

女子にして數學中理論を明らかにせば精心を緻密にし思考力を開發ならしめ從て之を諸種の事柄に應用する力增進するに至る是れ方今女子教育上、數學科に重きを置かれたる所以なり然るに生徒中往々理論を應用するの問題の解に苦しむ者あるが如し、これ本堂が先生に此書の編纂を懇請せし所以にして書中集錄せられたる解說の懇切なるは是等學生に採りては直接師につきて講義を聞くに異らず、依て高等女學校、女子師範學校及びこれと同時の程度なる諸學校の在學生又は入學志願者には必須の參考用のみならず苟も數學を研究する者は常に座右に備へて之を繙かば又自修に適切ならん請ふ一讀の榮を賜へ

文部省

教員檢定試驗問題集

國語・漢文科

初回ヨリ拾九回マテ

252
152

普通教育學會編纂

◉近世受驗全書

最新形袖珍携帶至便〇一冊價拾五錢全十冊
一圓卅五錢〇廿冊二圓六十錢〇卅冊三圓六
拾錢〇郵税每冊二錢宛

中學校、師範學校、高等學校、高等女學校、其他是等の學校に在學せらるゝ諸氏及び普通學を修めて以て之が試驗に應ぜられんとする準備の爲めに缺くべからざるは蓋し本書の外之あらざるべし本全書は斯道專門家の執筆に成りしものにて繁閑宜しきを得たる表解的に編成せられたるものなるも簡潔に過ぎて事理明晰を缺くが如き嫌なく文章は平易にして説明は親切なる旨とし且つ携帶至便の最新形にして製本の堅牢紙質の佳良なるは勿論無二の低價世に流行する書類と迚も同せらるるなかれ。

各篇書目

日本歷史　全
日本地理　上下
西洋歷史　上中下
日本地理　全
東洋地理　上下
外國地理　全
化學　上下
地文學　全
物理學　上下
算數學　全
生理衛生學　全
植物學　全

鑛物學　全
日本年表　上下
西洋史年表　上中下
東洋史年表　上下
代數學　上下
平面幾何學　全
三角法　全
作文學　全
英文典　全
國文典　全
立體幾何學　全
英作文及會話　全

◉新撰大代數學講義

英國　チャールス、スミス氏原著
日本　上野　清譯補

全一冊　◉洋裝金文字入◉紙數一千五百頁
◉正價壹圓五拾錢◉小包拾五錢

現今代數學は數學全科目の大部分を占め數學の知識及び應用は代數學に因るに至れり而して代數書中に於て最も正確に最も簡明に最も完全に新知識を得へき最大便利の書は「チャールス、スミス」氏の大代數學書とす故に現今中學卒業程度の學生或は數學研究者の爲めに世に行はるゝ書は同氏の法式によらさるものなし本書は講述者が多年の經驗によりて「スミス」氏の最新版大代數書を增補講義せられたるものにして一般受驗生及び數學專門自修者の爲めに代數學の要領を精細に講述し原書の欠を補ひ且つ最初に於て代數學の摘要を示したり故に原書の出版元倫敦「マクミン」會社の承諾を得て廣く代數學の必要を世に知らしむるの便利を與へられたり依て本書を「新撰大代數學講義」と題せり是れ講述者の自稱の題名にあらさるなり。

第一回　國語科

解釋課

一　櫻花咲語浦々のわかれの卷内大臣伊周の條

さりの時ばかりにあやしのあじろの車のこゝらの人にもおぢぬさまなるが二三人ばかりさもさしてたゞきにくるにあやしくかりてこの撿非違使どものこのあかさぬなどきたるものどもの車ぞたゞ今かゝる所にくるはさてながねにさとつけばあらずや殿の木幡にまゐらせ給へりしがいま歸らせ給なりといふを聞てこの者どもみなさりぬ御車みかどのもてにてかきおろして内大臣どのおりたまひぬ撿非違使どもみなおりて並ぬたりみたてまつれば御年はたゞ今廿二三ばかりにて御かたちのさゝのほりふとりきよげにて色あひ誠に白くめでたしかの光源氏もかくやありけんと見奉る瀞鈍の御ぞのなよゝかなる三つばかり同じ色の御單の御直衣指貫同じさまなり御身のざえもかたちもこの世の上達部には餘り給へりと聞ゆるぞかしあたらものをあはれに悲しきわざかなと見奉るに涙も止めがたうて共泣きぬ乘りながらも入らせ給はで宮のおはしませば我ひとりは猶畏まり給へるもいと悲しさておはしまゝぬれば帥木幡に參らせたりけるが只今なん歸りて候ふと奏せさすればむげに夜に入りぬれば今宵は館くまもりて明日卯の時にさある宣旨なりされば夜一夜いもねで立ち明したり宮の御まへ帥殿母北の方ひとつに手を取りかはして惑はせ給ふ

7

二　源氏物語初音の卷明石の姫君の條

けふは子の日なりけり實に千歳の春をかけて祝はんにことわりなる日なり姫君の御方に渡り給へれば童下仕へなどおまへの山の小松ひき遊ぶ若き人々の心地ども置き所なく見ゆ北のおとゞよりわざとがましく者集めたる髮籠ども檜わりごなど奉り給へりえならぬ五葉の枝にうつれる鶯も思ふ心あらんかし

年月を松にひかれてふる人にけふ鶯の初音きかせよ

音せぬさとのと聞え給へるを實にあはれと思し知ることいみもえし給はぬ鼠色なりこの御かへりは自ら聞え給へ初音惜み給ふべき方にもあらずかしこまりて御硯取りまかなひ書かせ奉らせたまふいと美しげにて明暮見奉る人だに飽かず思ふ聞ゆる御有樣を今まで覺束なき年月のへだゝりけるも譬えがましく心苦しとおぼす

ひきわかれ年はふれども鶯のすだちしまつのねをわすれめや

幼き御心にまかせてくだくだしくぞあんめる

三　伊勢物語第八十三段

むかし水無瀬に通ひ給ひし惟喬の親王例の狩しにおはします御供にうまのかみなる翁仕う奉れり日頃經で宮に歸り給ひけり御おくりして疾くいなんと思ふに大御酒給ひ祿給はんとて遣はさざりけりこのうまのかみ心もとながりて

枕とて草ひきむすぶこともせじ秋の夜てだにたのまれなくに

とよみけろ時は三月の晦日なりけり親王大殿ごもりで明し給ひてけりかくしつゝまうで仕う奉りけるを思ひの外に御ぐしおろさせ給ひて小野といふ所に詣でたるに比叡の山の麓なれば雪いと高し强ひて御室に詣でゝ拜み奉るにつれづれといと物悲しくておはしましければやゝ久しく侍ひて古の事など思ひいで聞ゆせけりさても侍ひてしがなと思へどおほやけごとどもありければ得侍はで夕暮に歸るとて

わすれては夢かとぞおもふおもひきや雪ふみわけて君を見んとは

とてなんなくきにける

四　增鏡ふぢ卷順德院の后宮の條

前のみかどは四にて廢せられ給ひて尊號などの沙汰だになし御母后も山里の御すまひにていと心ほそくあはれなる世をつきせずおぼしなげくこの宮は故攝政殿の姫君にてものし給へば歌の道にもいとかしこう渡らせ給へば大方かた奥ふかうしめやかに重き御本性にてはかなき事をもたやすくもらさせ給はず御琴などもかぎりなき音を彈きさり給へれどをさをさ掻きたてたまふ世もなくあまりなるまでうもれたる御もてなしを佐渡の院もかぎりなき御志の中に飽かずなむ思ひ聞えさせ給ひけるかの遠き御わかれの後はいみじうものをのみ思しくだけつゝいよいよしづみふしておわしますにふるく仕うまつりける女房の里にこもり居たりけるもとよりあはれなる御消息をきこえて十月一日の頃御衣がへの御衣を奉りたりける御返事に

思ひいづるころもはかなし我も人もみしにずだらるゝ世に

又御手ならひのついでにからうじてもれけるにや

消ねかぬる命ぞつらきおなじ世にあるもたのみはかけぬちぎりを

さこそは實に思しみだれけめおろかなる契だにかゝるすぢのあはれは淺くやは侍るいかばかりの御心の中にてすぐし給ふらむといとかたじけなし

五　落窪物語卷一あこぎ消息の條

女君の御方を見給へばまめやかにいと美しげなればいとゞ限りなくおもほし增りていとあはれと思す弱など少しまぬりて臥し給ひぬ夜さりは三月の夜なればいかさまにせんこゝひもちひいかでまゐるわざもがなと思ふに又いふべきかたもなければ和泉殿へ文かく

いとうれしう聞えさせたりしものを賜はせたりしなん悅び聞えさする又あやしさは思さるべけれどこゝひもちひなんいとあやしきさまにてよう侍る取り供すべきくだものなど侍りぬべくは少したまはせよまちうどなんしばしと思ひ侍りしを四十五日の方遠ふるになん侍りけるさればこの物どもは暫し侍るべきをいかゞ盥はざうの清げならんをしばし賜はらん取り集めていとかたはらいたけれど賴み聞えさするまゝに

とてやりつ

六　宇治拾遺物語卷二用經あちまきの事

今は左京のかみなりける古上達部ありけり年老いていみじう古めかしかりけり下わたりなる家にありきもせでこもりゐたりけりそのつかさのさくわんにて紀の用經といふものありけり長岡になん住みけるつかさ

の目なればこのかみのなん音づりける此の用經大殿にまゐりて贄殿にゐたるほどに淡路守よりちかが鯛のあちまきを多く奉りけるをにへ殿にもてまゐたり贄殿のあづかりよしずみに二まき用經こひとりてまきにさゝげて置くさてよしずみにいふやうこれんしてさりに奉らんをりにおこせ給へと言ひおく心の中に思ひけるやうこれわがつかさのかみに奉りて音づり奉らんと思ひてこれをまきにさゝげて左京のかみのもとにいきて見ればかんの君いでゐにまらうど二三人ばかり來てあるじせんとて地火爐に火をこしなどしてわがもとにて物くはんとずるにはかばかしき魚もなし鯉鳥など用ありげなりそれに用經が申すやう用經がもとにこそ津の國なる下人の鯉のあちまき三つましまうで來たりつるを一まきたべ試み侍りつるがえもいはずでたく候ひつればいま二まきはけがさでおきて候ふ急ぎまふでつるに下人の候はでもこまゐり候はざりつるなりたゞ今さりにつかわさんはいかにと聲高くしたり顏に袖をつくろひて口わきかいのごひなどしてゐあがりのぞきて申せばかみさるべき物のなきにいとよき事かなとくさりにやれとのたまふまらうど共もくふべき物のさふらはざめるに九月ばかりの比なればこの比島のあぢはひいとわろし鯉はまだいでこずよき鯛はきいのものなりなどいひあへり用經馬ひかへたるわらはを呼びさりて馬をば御門のわきにつなぎてたゞ今走り大殿ににへ殿の預りの主にその置きつるあちまきたゞ今をこせ給へとさゝめきて時かはさずもてこほかによろなとく走れとてやりつさて俎あらひてもてまゐれて聲だかくいひてやがて用經けふの庖丁は仕ちんといひてまなばしけづり鞘なる刀ぬいてまうけつゝあな久しいづちきぬやなど心もてながりゐたりおそし〳〵と言ひゐたるほどにやりつる童木の枝にあちまき二つゆひつけてもて來りいとかしこくあはれ

飛ぶがごと走りてまうで來る童かなとほめてとりてまな板の上にうちおきてすく〳〵しく大鯉つくらんやうに左右の袖つくろひくゝりひきゆひ片膝たていま片膝をばふせていみじくつぎつぎしくゐなしてあちまきの繩をおしきりて刀して鼓をおし開くにほろほろと物でもこぼれて落つるを見れば平あしだ古しきれ古わらうづふるぐつかやうの物のかぎりあるに用經あきれて刀もまな箸もうちすてゝ沓もはきあへず逃げていぬ在京のかみも客人もあきれて目も口もあきて居たりまへなるさぶらひどもゝあさましく目を見かはして居なみゐたる顏どもいとあやしげなり物くひ酒のみつるあそびもみなすさまじくなりて一人たち二人たちみな立ちていぬ在京のかみの曰く此のたのこをばかくえもいはぬしれもの狂ひとは知りたりつれどもつかさのかみとて來むつびつればよしとは思はれど追ふべき事もあらねばさと見てあるにかゝるわざをしてはからんをばいかゞすべきものあしきんははかなき事につけてもかゝるなりいかに世の人聞き傳へて世の筵ひぐさにせんとすらんとそらを仰ぎてなげき給ふ事限りなし用經は馬にのりてはせちらして殿にまゐりてにへ殿の預りよしすみに逢ひて此のあらまきをば惜しとおぼさばおいらかに取り給ひてはあらでかゝる事しいで給へゝると泣きぬばかりに恨みのゝしる事かぎりなし（以下略）

七　神皇正統記後醍醐天皇の條

次に功田といふことは昔は功の品にしたがひて大上中下の四の功をたて田をあかち給ひきその敢みなさだまれり大功は世々にたゆすその下つかたは或は三世につたへ孫子につたへ身にとゞまるもあり天下を治むるといふことは國郡を專らにせずしてその事さなく不輸の地を立てらるゝことのなかりしにこそ國に守あ

り郡に領あり一國の內皆國命の下にて治めしゆゑに法にそむく民なしかくて國司の行迹を勘へて賞罰ありしかば天下の事掌をさして行ひやすかりきその中に諸院諸宮に御封あり親王大臣又かくのごとしその外官田職田とてあるも皆官符をたまはりてその所の正稅をうくるばかりにて國は皆國司の吏務なるべし

八　徒然草卷下五十七段

達人の人を見る眼は少しも誤る所あるべからず例へば或人のよに虛言を構へ出して人をはかる事あらんにすなほにまことゝ思ひていふまゝにはからるゝ人ありあまりに深く信をおこして猶煩はしく虛言を心得そふる人あり又何としても思はで心をつけぬ人有り又誠しくは覺えねども人のいふ事なればさもあらんとてやみぬる人も有り又さまざまに推じ心得たるよしてかしこげにうちうなづきほゝゑみて居たれどつやつや知らぬ人あり又推し出してあはれさるめりと思ひながら猶あやまりもこそあれとあやしむ人あり又異なるやうもなかりけりと手をうちて笑ふ人あり又心得たれども知れりともいはずにおぼつかなからぬいとかくの事なく知らぬ人と同じやうにて過ぐる人あり又この虛言のほいをはじめより心得て少しもあざむかず構へ出したる人とおなじ心になりて力を合する人あり愚者の中のたはぶれだに知りたる人の前にては此のさまざまの得たる所詞にても顏にてもかくれなく知られぬべしまして明らかならん人の惑へる我等を見ん事掌の上の物を見んが如したゞしかやうの推量にて佛法までも准へいふべきにはあらず

九　讀史餘論卷十近衛左大臣經忠を論ずる條

其後綏時三帝か或は流し或は廢し奉り後堀河を立て參らせしに近衛の家實嚴院がはからひにて攝政せらる

此の人はかの基通が子にて土御門院の御時の攝政にて其後關白となり順德院の御時にもとのまゝに關白たりきされば二代の攝關にてありし人の其の君をば陪臣義時がために流しすて奉らせ又それが計らひのまゝに後の朝に仕へて攝政せらる凡此等の人々のふるまひいかで大臣の義ありきは申さるべき思ふによく聽しざる人々にてありけり之を譬ふに五代の時の大臣によく　似たる事にてあるや中世よりこのかた裏亂之際節に臨み義を思ひ力を竭し死を致すはたゞ武人のみなり世すこしも穩になりぬれば尊位厚祿に居て武人をば奴隷雜人の如くに思ひなし世亂れし時には捧首鼠竄して一人も身を挺で忠を致すものなきは公家と僧徒のみ也誠に國の盜害とは此輩をぞいふべきされば天道は天に代りて功を立る人にむくい給ふ理なれば其後武家世を知り給ふ事其故ある事ぞと覺え待る然るに建武の亂出來し初に近衛殿は北朝にしても關白になされしかどそれを捨て最初に南朝に參られき其餘大臣にては吉田の内大臣從一位藤定房なり攝家の人々にては二條の師基も參り給ひ後には關白し給ひき廿一年が程隔たりて後延文二年に一條の内關も參り給ひき就中近衛殿一條殿い共に嫡子にておはせし人々のかく有しこと誠に其家祖に愧給はぬとこそ申すべけれ

一〇　萬葉集卷一過二近江荒都一時柿本朝臣人麿作歌

王手次畝火之山乃橿原乃日知之御世從阿禮座師神之盡樛木乃彌継
嗣爾天下所知食之乎天爾滿倭乎置而青丹吉平山乎越何方御念食可
天離夷者雖有石走淡海國乃樂浪乃大津宮爾天下所知食兼天皇之神
之御言能大宮者此間等雖聞大殿者此間等雖云春草之茂生有霞立春

日之霧流百磯城之大宮處見者悲毛
反歌
樂浪之思賀乃辛崎雖幸有大宮人之船廻知兼津

一一　萬葉集卷六藤原宇合卿遣二西海道節度使一之時高橋連蟲麿作歌

白雲乃龍田山乃露霜爾色附時丹打超而客行公者五百隔山伊去割見
賊守筑紫爾至山乃曾伎野之衣寸見世常伴部乎班遣之山彦乃將應懸
谷潜乃狹渡極國方乎見之賜而冬木成春去行者飛鳥乃早御來龍田道
之岳邊乃路爾丹管、士乃將薫時能櫻花將開時爾山多頭能迎參出六公
之來益者
反歌
千萬乃軍奈利友言擧不爲取而可來男常曾念

一二　萬葉集卷十九慕振勇士之名歌一首拜短歌

知智乃實乃父、能美巳等波播、蘇葉乃母、能美己等於保呂可爾情盡而快
眞牟其子奈禮夜母丈夫夜無奈之久可在梓弓須惠布理於許之投矢毛
知千尋射和多之劔刀許思爾等理波伎安之比奇能八峰布美越左之麻
久流情、不障後代乃可多利都具倍久名乎多都倍思母

反歌

丈夫者名乎之立倍之後代爾聞継人毛可多里都具我禰

一三　古今集春

うりんゐんのみこのもとに花見にきた山のほとりにまかりける時によめる　そせい

いざけふは春の山べにまじりなむくれなばかげかは

一四　同秋

題しらず　つらゆき

たが秋にあらぬものゆゑ女郎花なぞ色に出でまだきうつろふ

一五　同雜

題しらず　よみ人しらず

とゞめあへずうべもとしとはいはれけりしかもつれなく過ぐるよはひか

設問課

一　率ト云フ語ハ如何ナル意味ナルヤ且ツ作用言中幾段ノ活用ヲ爲スヤ

二　里はあれて人はふりにし宿なれや庭もまがきも秋の野らなる

右ノ歌ノ係リ結ビハ如何

三　作用言ノ中變格ノ種類及ビ其格中ノ語數幾何アリヤ且ツ其行四段ノ中用法ノ異ナル詞幾何アリヤ

四　作用言ノ中毎段(變格共)使令ノ詞ノ用法ハ如何

五　古へより後世のまされることゝ萬の物にも事にも多し其一を言はむに古は橘をならびなき物にして愛でつゝ近き世密柑といふ物ありて此密柑に較ぶれば橘は數にもあらずけおとされたりその外柑子柚九年母だいだいなどのたぐひおほき中に密柑そ味ことにすぐれて中にも橘によく似てこよなく優れる物なり此一つにて推測るべし或は古へにはなくて今はある物も多くいにしへは善くて今のは惡きたぐひ多しこれを以て思はゞ今より後も又いかにあらむ今に優る物多く出來べし

右文中ノ誤リヲ正スベシ

作文課

一　某各人奉職スル所ノ學校名ニ從フベシ　學校記

二　數育博物館記

三　修身學中ニ西洋修身ノ書ヲ加フルノ可否ヲ論ズ

四　學力試驗ニ題クトキ同校教員ニ遺シ置ク書翰

五　上京中學校ヨリ依記ノ書籍器械等ヲ購求シテ其委細ヲ報知スル書翰

六　方今ノ作文ニハ如何ナル文體ヲ目的トスベキヤノ問ヒニ答フル書翰

第一回　漢文科　（明治十八年）

左ノ三問ノ訓點解釋

一　孟子文夫之冠也父命之女子之嫁也母命之往送之門成曰往女家必必敬戒無違夫子以順爲正者妾婦之道也居天下之廣居立天下之正位行天下之大道得志與民由是不得志獨行其道富貴不能淫貧賤不能移威武不能屈此之謂大丈夫

二　左傳

芒々禹跡畫爲九州經啓九道民有寢廟獸有茂草各有攸處德用不擾在帝夷羿冒于原獸忘其國恤而思其牡武不可重用不恢于夏獸臣司原敢告僕夫虞箴　如是可不懲乎

三　史記淮陰侯傳

信乃使萬人先行出背水陣趙軍望見而大笑平旦信建大將之旗鼓行出井陘口趙開壁擊之大氣久於是信張耳佯棄旗鼓水上軍水上軍開入之復疾戰趙果空壁爭漢鼓旗逐韓信張耳韓信張耳已入水上軍軍皆殊死戰不可敗信所出奇兵二千騎共候趙空壁逐利則馳入趙壁皆拔趙旗立漢赤幟二千趙軍已不勝不能得信等欲還歸壁壁皆漢赤幟而大驚以爲漢皆已得趙王將突兵遂亂遁走趙將雖斬之不能禁也於是漢兵夾擊大破虜趙軍斬成安君泜水上禽趙王歇

左ノ三問ノ內一問ノ訓點解釋

四　資治通鑑唐紀三十三　至德元載

果卿至洗陽祿山數之曰汝自范陽尹曹戴奏汝爲刺官不數年超至太守何負於汝而反邪果卿瞋目罵曰汝本營州牧羊羯奴天下擢汝爲三道節度使恩厚無比何負於汝而反我爲唐一祿位皆唐有雖爲汝所奏豈徒汝反邪我爲國討賊斬恨不汝何謂反也臊羯狗何不速殺我祿山大怒拜寔爲謙等縛於中橋之柱而爲之果卿罵謙比死罵不虛口顏氏一門死於刀鋸者三十餘人

五　八大家　韓文原鬼

漠然無形與聲者鬼之常也民有忤於天有於民有爽於物逆於倫而感於氣於是乎鬼有形於形有激於聲以觸之而下殃罰焉皆民之爲之也其既也又反乎其常

六　五代史周德威傳

梁軍圍晉太原下令軍中日能生得周陽五者爲刺史　有驍將陳章者號陳野又常白馬被朱甲以自異出入陣中求周陽五欲必生致之晉王戒德威曰蹤野又欲得汝以求刺史見白馬朱甲者宜善備之德威笑曰陣章好大言耳安知刺史非臣作邪因戒其部兵曰見白馬朱甲者當佯走以避之兩軍皆陣德威備服雜卒伍中陳章出挑戰兵始交德威部下見白馬朱甲者因退走章果奮矜急追之德威伺章已過揮鐵鎚擊之中章墮馬遂生擒之

左ノ三問ノ內一問ノ訓點解釋

七　別梁日孚序

聖人之道若大路雖有跛蹩是行而不已未有不至而世之君子顧以爲聖人之異於人若彼其甚遠也其爲功亦必若彼其甚難也而淺易若此豈其可及乎則從而求之艱深恍惚溺於支離鶩於虛高率以爲聖人之道必不可至而甘於其質之

所便日以淪於汚下有從而求之者競相嗤訕曰狂誕不自量者也嗚呼其弊也豈亦一朝一夕之故哉孟子云徐行後長者謂之弟疾行先長者謂之不弟夫徐行者豈人所不能哉所不爲也世之人不知咎其不爲而歸咎於其不能其亦不惑而已

八　文戒示門人

汪　堯峰

昌明博大盛世之文也煩侷破碎衰世之文也顚倒詩謬亂世之文也今幸值右文之時而後生爲文往往昧於辭藝叛於經旨專以新奇可喜囂然自命作者嗟乎人文與天文地文一也日月星辰天之文也山川草木地之文也假令如日夜出兩月竝見日中斗又令山湧川鬬挑冬花李冬實夫豈不震耀耳目超於常見習聞之外其可喜孰甚焉而經史書之不曰新而曰妖不曰奇而曰變然則今之化者專主於新奇可喜倘亦晉南疊所謂亂道朱晦翁所謂文中之妖與文中之賊是也

九　送汪舟次之贛檢序

魏　叔子

古學校爲公卿大夫守令所自出人才盛衰天下治亂之故莫不權輿於此故學官重得人在昔盛時有學官爲入編脩侍講讀者而襲翊以學行爲大臣特薦乃授太倉學官劉亨年八十辭職天子爲之躊躇其時人才特盛公卿守令多賢者天下又安其衰也循例而官循例而罷率以昏耄貪鄙者富之然人才必出於學校其官猶重及夫進仕之途紛然各出則官愈輕而居官者益不務其職

左ノ三首ノ內一首ノ訓點解釋

一〇　送李少府貶峽中王少府貶長沙

唐　高適

嗟君此別意何如駐馬銜盃問謫居巫峽啼猿數行淚衡陽歸雁萬封書青楓江上秋天遠白帝城邊古木疎聖代即今多雨露暫時分手莫躊躇

一一　憶昔

唐　韋壯

昔年曾向五陵遊午夜清歌月滿樓銀燭樹前長似晝露桃花下不知秋西園公子名無忌南國佳人字莫愁今日亂離俱是夢夕陽唯水見東流

一二　遊山西山

宋　陸游

莫笑農家臘酒渾豐年留客足鷄豚山重水複疑無路柳暗花明又一村簫鼓追隨春社近衣冠簡朴古風存從今若許閒乘月柱杖無時夜扣門

左ノ三首ノ一首ノ訓點解釋

一三　郡城送友人

明　李攀龍

西來山色滿城頭東望漳河入檻流倣吏歲時頻臥閣放人風風一登樓亂離王粲逢多病著作虞卿卿老更愁君到長安相問訊誰憐五月有披裘

一四　雜門

清　高其倬

兩崖對起削雲根邸閣全傾佛寺存千古衰興幾鼎鬲一聲鐘鼓自胡昏無人戰鬼啼清晝不夜於菟到驛門蜀道荒涼身

萬里不聞鈴雨亦消魂

一五　雲樓

靈山結想十年前一路穿雲許問禪人緣髮眉全是竹晴暄風雨總因泉地高偏覺泣聲近峰遠無猿猿楚唄傳呗響夕陽歸

較晩清池應愛遠公蓮

作文課

左ノ三題ノ内一題ヲ選ブベシ

一　温故知新説

二　送友人之清國序

三　某縣中學記

第二回國語科

一　源氏物語乙女卷夕霧君入學の條

事はてゝ罷出る博士才人どもめして又々文作らせ給ふ　上達部殿上人もさるべき限なは皆留め侍はせ給ふ博士の人々は四韻たゞの人は大臣をはじめ奉りてぜく作り給ふ興ある題の文字えりてもんざう　博士奉る短きころの夜なれば明けはてゝぞ講ずる左中辨講じ仕う奉るかたちいと清げなる　人のこわづかひものもの　のしくかんさびて讀みあげける程いとおもしろしおぼえ心ことなる　博士なりけりかゝるたかき　家に生れ

給ひて世界の榮花にのみ戯れ給ふべき御身をもちて窓の螢をむつび枝の雪をならし給ふ　志の勝れたるさまを萬の事によそへなすらへて心々に作り集めたる句ごとにおもしろく唐土にもてわたり傳へまほしげなる世の文どもなりとなんそのころ世にめでゆすりする

二　枕草子かたはらいたきもの

まらうどにあひて物いふにおくのかたにうちとけごと　人のいふをせいせできくこゝちおもふ　人のいたくゐひておなじことしたるきゝゐたるをも知らで　人のうべいひたるそれは何ばかりならぬつかひ人なれど　かたはらいたし　旅だちたる所ちかき所などにて　げすどものざれかはしたるにくげなるちごをおのれがこゝちにかなしとおもふまゝにうつくしみあそばしこれがこゑのまれにて　いひける事など　かたりたるざゐある人のまへにてざえなき人の物おぼえがほに人の名など　いひたることによしともおぼえぬわがうたを人にかたりきかせて人のほめし事などいふもかたはらいたしひとの　おきて物がたりなどするかたはらにあさましううちとけてゐたる人まだれもひきさゝのへゐ琴を心一つやりてさやうのかたしりつる人のまへにていとゞしうすまゐむこのさるべき所にてしうとに逢ひたる

三　徒然草十二段

同じ心あらん人としめやかに物語してをかしき事も世のはかなき事もうらなく言ひ慰まんこそ嬉しかるべきにさる人あるまじければつゆ違はざらんとむかひゐたらんは獨りある心地やせん互にいはんほどの事をばげにと聞くかひある物からいさゝか違ふ所もあらん　人こそ我はさやは思ふなど　爭ひにくみさるか

らさぞとうち語らはゞつれづれなぐさまめとおもへどげにはすこしかこつ方もわれと ひとしからざらん
人は大方のよしなしごといはんほどこそあらめまめやかの心の友にはるかに隔たる所のありぬべきぞ
わびしきや

四 十六夜日記初段の内

をしからぬ身一つはやすくおもひすつれども子を思ふ心のやみはなほしのびがたく道をかへり見るうち
みはやらむ方なくさてもなほあづまの鏡にうつさばくもらぬ影もやあらはるゝとせめておもひあま
りてよろづのはゞかりを忘れ身をえうなき物になしはてゝゆくりなく いさよふ月にさそはれいで なむと
ぞおもひなりぬるさりとて文屋の康秀がさそふ水にもあらず すむべき國もとむるにもあらず 頃はみふゆ
たつはじめなき空なればふりみふらずみ時雨もたえず あらしにきほふ木の葉さへ涙と共にみだれちりつ
ゝ事にふれて心ぼそく悲しけれど人やりならぬ 道なればいきうしとてもとどまるべきにもあらで 何とな
くいそぎたちぬ

五 拾遺集消息文

むつきばかり山里人のもとへ

年あらたまりて何事かおはすらん春の日かずもまだうさきに岡べの下もえは今しも 御袖にたまる計もつ
みそめ給ひつゞ谷の戸のはつ音はいつよりか御朝いのまくらをばおどろかしまぬらせたる いさなんゆか
しきこゝにこそその雪のおこりにゞ風のけゞきも冬めきて猶かすみもやらねばちまたの柳のうちけぶりゆ

かんほども心もとなう見ひ侍りさるは一年まがきのもとにうつしうゑ給へるしも 雪のうちよりも いちは
やくゑみさかゆゞなんのたまはせし此はるこそ心ごとにもにほひ出侍らめいかで 一枝を と思ひ侍るをゆ
るしたまはましかばいとうれしうなん(歌略す)

右ヲ俗語ニ譯文スベシ

六 泊洒舍文集消息文

山こもりしたる人にかはりてその女にかはりて

もろともにしたひきこえしをゆるさせ給はればいかゞはせん千日の日かずも はてがたになり給ひぬらん
おぼしいりたるこゝはさるこゝながら老人達の日ごとのやうにこひきこえさせたまふにさらん別のさか
もいとばいといと心おちひ侍らずなん過し日あらはひにおこせ給へるのふのけさもまよふ所の侍りては
りやりつればいとあやしければとてうじうらすぞや(歌略す)

右ヲ俗語ニ譯文スベシ

七 七萬葉集鉢壹幸ニ于吉野宮ニ之時柿本朝臣人麿作歌

八隅知之吾大君之所聞食夫下爾國者思毛澤二雖有山川之清河内跡御心
乎吉野乃國之花散相秋津之野邊爾宮柱太敷座波百磯城之大宮人者船並
氐旦川渡舟競夕河渡此川之絶事奈久此山乃彌高良之珠水激瀧之宮子波
見禮跡不飽可聞

反歌

雖見飽奴吉野乃河之常滑乃絶事無久復還見牟

八　萬葉集卷三山部宿禰赤人望不盡山作歌

天地之分時從神佐備而高貴寸駿河有布士能高嶺乎天原振放見者度日之陰毛隠比照月乃光毛不見白雲母伊去波伐加利時自久曾雪者落家留語告言繼將住不盡能高嶺者

反歌

田兒之浦從打出而見者眞白衣不盡能高嶺爾雪者零家留

九　古今和歌集

（い）春歌

さくらの花のちりけるをよめる

ことならば咲かずやあらぬ櫻花みる我さへにしづ心なし　つらゆき

（ろ）戀歌

たちばなのきよさがしのびにあひしれりける女のもとよりおこせたりける

思ふどちひとりひとりが戀しなば誰によそへてふち衣きん　よみ人しらず

設問課

〇かなづかひ

一　鶉、蛙、雀、鼠、瓦、器、杖、笛、苗、竿、

右十字に訓をつくべし

二　簾はゝきなるをはうきとも書くは如何なるゆゑぞ

〇てにをは

三　春毎に心をしむる花の枝に誰がなほざりの袖やふれつる

四　故里へゆく人あらばことづてんけふ鶯の初音きゝしと

右二首の歌のあやまりを直すべし

五　作用言の中の四段言を命令につかふ時はいかなるいひかたにするかまた四段言の命令のいひかたはてにをはの結び辞となることありや

作文課

一　某學校の記

二　和文を數ふる順序を論ず

三　和文を人にすゝむる書簡

漢文科（明治十九年）

作文課

一　某縣地誌序
二　某縣某地新道記
三　某學校卒業式記
四　有治人無治法論　荀子君道篇
五　立志說
六　學如不及說　論語泰伯篇、

解釋課

一　孟子

孟子曰欲貴者人之同心也人々有貴於己者弗思耳人之所貴者非良貴也趙孟之所貴趙孟能賤之詩云既醉以酒既飽以德言飽乎仁義也所以不願人之膏粱之味也令聞廣譽施於身所以不願人之文繡也

二　左傳

五年春公將如棠觀魚者臧僖伯諫曰凡物不足以講大事其材不足以備器用則君不舉焉君將納民於軌物者也故講事以度軌量謂之軌取材以章物采謂之物不軌不物謂之亂政亂政亟行所以敗也

三　戰國策

說秦王書十上而說不行黑貂之裘敝黃金百斤盡資用乏絕去秦而歸羸縢履蹻負書擔囊形容枯槁面目黧黑狀有愧色歸至家妻不下紝嫂不爲炊父母不與言蘇秦喟然嘆曰妻不以我爲夫嫂不以我爲叔父母不以我爲子是皆秦之罪也乃夜發書陳篋數十得大公陰符之謀伏而誦之簡練以爲揣摩讀書欲睡引錐自刺其股血流至足曰安有說人主不能出其金玉錦繡取卿相之尊者乎期年揣摩成曰此眞可以說當世之君矣

四　五代史王彥章傳

龍德三年夏晉取鄆州梁人大恐宰相敬翔願事急以繩內瓶中入見末帝泣曰先帝取天下不以臣爲不肖所謀無不用今彊敵未滅陛下棄忽臣臭不用不如死乃引繩將自經末帝使人止之問所欲言翔曰事急矣非彥章不可末帝乃召彥章爲招討使以段凝爲副末帝問破敵之期彥章對曰三日左右皆失笑彥章受命而出曉兩日至滑川置酒大會陰遣人具舟於楊村命甲六百皆持巨斧載冶者具礪炭乘流而下彥章會飲酒半佯起更衣引精兵敗十沿河以趨德勝兵舉鎖燒斷之因以巨斧斬浮橋而彥章引兵急擊南城浮橋斷南城遂破蓋三日矣

五　通鑑唐記

甲寅上問侍臣創業興守成孰難房立齡曰草昧之初與群雄並起角力而後臣之創業難矣魏徵曰自古帝王莫不得心之艱難失之於安逸守成難矣上曰玄齡與吾共天下出百死得一生故知創業之難徵與吾共天下常恐驕奢生於富貴驕亂生於所忽故知守成難然創業之難既已往矣守成之難方當與諸公慎之玄齡等拜曰陛下及此言四海之福也

六　答李翺書　　唐　韓愈

抑不知生之志蘄勝於人而取人邪將至於古之立言者邪蘄勝於人而取於人則固勝於人而可取人於矣將蘄至於古之立言者則無望其速成無誘於利養其根而峻其實加其膏而希其光根之蔑者其實遂膏之沃者其光曄仁義之人其言藹如也

七　送東陽馬生序　　明　宋濂

當余之從師也負篋曳屨行深山巨谷中窮冬烈風大雪深數尺足膚皸裂而不知至舍四支僵勁不能動勝人持湯沃灌以衾擁覆久而乃和寓逆旅主人日再食無鮮肥滋味之享同舍生皆被綺繡戴朱纓寶飾之帽腰白玉之環左佩刀右佩容臭煒然若神人余則緼袍敝衣處其間略無慙意以中有足樂者不知口體之奉不若人也

八　與人書　　清　顧炎武

人之爲學不日進則日退獨學無友則孤陋而難成久一方則習染而不自覺不幸而在窮僻之域無車馬之資猶當博學審問古人與稽以求其是非之所在庶幾可得十之五六若既不出戶又不讀書則是面墻之士雖子羔原憲之賢終無濟於天下子曰十室之邑必有忠信如丘者焉不如丘之好學也夫以孔子之聖猶須好學今人可不勉乎

九　閱與史傳　　清　邵長蘅

時大軍薄城下者已十萬列營數十重弓引仰射頗傷城上人而城上礮礮檑砦乘高下大軍殺傷甚衆乃架大礮擊城垣裂應元命用鐵葉裹門板貫鐵絙護之取空棺實以土陴隤處又攻北城北城穿下令人運一大石塊於城內更築堅壘一夜成會城中矢少應元乘月黑束藁爲人人竿一燈立陴隙間亟城兵士伏垣內擊鼓叫噪若將鏖城斫營者大軍驚矢發如雨比曉復矢無算

第三回　國語科

設問課

○假名づかひ

一　短、虹、梶　躑躅、蚯蚓、法師、格子、

右飜の假名をつくべし

二　小路は古來こうぢと書き日向は古來ひうがと書く

右　何故にうと書きてふとは書かぬか其說明をすべし

○てにをは

三　思ふ事千枝にや繁し呼子鳥しのだの森の方に鳴くなる

四　出づるとも入るともなくて足引の山の尾上にすめる月かな

右二首の歌のあやまりを指點して其正誤をつくべし

○作用言

五　はたらかす、生く、

右二言何段の活用といふ事說明すべし

作文

一　女學校創立の記
二　和漢學敎授法の論
三　史をすゝむる書翰

解釋課

一　伊勢物語八十五段

むかし男ありけりわらはよりつかうまつりける君御ぐしおろしたまうてけりむ月にはかならずまうでけりおほやけてみやづかへしければつねにはねまうですされどもさの心うしなはでけるになん有ける昔つかうまつりし人俗なる禪師なるあまたまゐりあつまりて睦月なればことだつとておほみきたまひけり醫こぼすがごとくふりてひねもすにやまずみな人ゑひて雪にふりこめられたりといふを題にて歌有りけりおもへど身をし分ねばめがれせぬ雪のつもるぞわがこゝろなるとよめりければみこいといたうあはれがりたまうて御ぞぬぎてたまへりけり

二　枕草紙

すさまじきもの

霜ほゆる犬春の網代三四月の紅梅のきぬちごのなくなりたるぶ屋火おこさむ火桶すびつ牛にくみたる牛かひはかせのつゞき女子うませたるかたたがへにゆきたるにあるじせぬところまして節分はすさまじ人の國よりおこせたる文の物なき京のをもさこそはおもふらめどもされどそれはゆかしき事をも書きあつめ世にあることをきけばよし人の許にわざときよげに書きたてゝやりつる文の返事見ん今はきぬちんかしさあやしくおそきと待ほどに有つる文の結びたるも堅ぶみもいときたなげにもちなしふくだめてうへに引たりつる墨さへきえたるをおこせたりけりおはしまさざりけりともしは物忌とて取いれずなどもてかへりたるいとわびしくすさまじ又かならずくべき人の許に車をやりてまつに入くるおとすればさなりと人々出で見るに車やどりに入てながえほうとうちおろすをいかなるぞととへばけふはおはしまさずわたり給はずとて牛のかぎりひきいでいぬる

三　徒然草五十六段

久しくへだゝりてあひたる人のわが方にありつる事數々に殘りなく語りつゞくるこそなけれへだなくなれぬる人も程へて見るはは づかしからぬかはつぎざまの人はあかちさまに立いでゝも興ありつることさていきもつぎあへずかたり興ずるぞかしよき人のものがたりするは人あまだなれどひとりにむきていふをおのづから人もきくにこそあれよからぬ人に誰さもなくあまたの中にうちいでゝみるごとのやうにかたりなせばみなおなじく笑ひのゝしるいとらうがはしをうしきことをいひてもいたく興ぜぬと興きなきことをいひてもよく笑ふにぞ品のほどはかられぬべき人のみざまのよしあしざえある人はそのことなどさだめあへるにおのが身にひきかけていひいでたるいとわびし

院のうへさばどのにおはしますころ 神無月の十日ごろ朝覲の行幸し給ふ 世にあるかぎりのかんだうめ殿上人つかうまつるいろ〳〵の菊もみぢをこきまぜて いみじうおもしろし女院もおはしませばはいしたてまつり給ふを大きおとゞたてまつり給ふによろこびの涙ぞ人わろきほどなる

ためしなきわが身よいかにさしたけてかゝるみゆきにけふつかへつる

げにおほかたの世につけてだにめでたく あらまほしき事どもをわが御ずゑと見給ふおとゞのこゝちいかばかりなりけんこしかたもためしなきまでこまもろこしのにしきあやをたちかさねたり 大きおとゞばかりぞねびたまへればうちおもてしろさあやの下がさねをさたまへるしもいさめでたくなまめかし

五

琴後集

人の訪へる後におくる書

をさつ日はむぐらがもとをとはせ給ひてゆくりなく 御物語きこえうけ給はりしはいとうれしうなんとはせ給へるをぢ〳〵御こたへとくきこゑさせつべきを老ばけ侍ゝみの病さへ 加はりてはかばかしうもゝの し侍らざりしはいとなめげなるわざになむのたまひし 事どもしづかに考へ侍るにまづは 御心もちひのくはしき御學のひろささらにたぐひあるまじうおはするこそめづらかなれ おのれがかどなく心のおくれたるに今はよろづにものわすれがちなればとはせ給ふことありともかしこき御耳をひろむべきさも何か侍らむされど御詞はそむかじとおもひ侍ればあらぬひがごとをひとつふたつしりへにかいつけ侍り猶申すことたがひ侍らんをばさらにかへさひをしへ給はらんことをこそあらまほしけれ あなかしこ

右ヲ俗通ノ書簡文ニ譯スベシ。

六

北邊文集

賀茂季鷹が江戸に居けるにおこせたる書の返事

かしこまりて承りぬのたまはせたるやうに 物ごとにあらたまりぬるほどにとかくうちまぎれ侍りて久しう聞えさせず侍り此頃上總とかへ 下らせたまへるよしをも 御文にてなん承りつる珍らしくたいめせさせ給ひていかにうれしうおもほしつらん平かに歸らせ給ひけるをなんよろこび侍る 其御使にとてむらさい海苔給はせたるは淺草の淺からずなん 入江法橋は去年の 冬上りきてよりこゝちあしさてまじらひもせられざめれば久しうたいめし侍らず實にはいさゝかかしこまるべき事の侍りて籠り居たるなりとかみそかに人のいひきかせて侍るはそちごとにや侍らむ 委しくはしり侍らず 老いたる父は平かに侍る御ことづては言聞かせて侍りぬ道遠く年へだゝりぬるを 忘れずとはせ給へるをぞ深くよろこび侍る 聞ゆさせまほしきこと多く侍れどまた使まつらん時とてとゞめ侍りぬあなかしこ

右ヲ俗通ノ書簡文ニ譯スベシ

七

萬葉集卷一

安見知之吾大君。神長柄。神左備世須登。芳野川。多藝津河内爾。高殿乎。高知座而。上立。國見乎爲波。畫有。賀垣山。山神乃。奉御調等春部者。花挿頭持。欲立者。黃葉頭刺理。遊副

河之。川之母神。大御食爾。仕奉等。上瀬爾。鵜川乎立。下瀬爾。小網刺渡。山川母。依低奉流。神乃御代鴨。

反歌

山川毛。因而奉流。神長柄。多藝津河内爾。船出爲加母。

八 萬葉集卷三

長皇子遊二獵獵路池一之時柿本朝臣人麿作歌

八隅知之。吾大王高光吾日之皇子乃。馬並而。三獵立流。弱薦乎。獵路乃小野彌十六社者。伊波比拜目。鶉已曾。伊波比回禮。四時自物伊波比拜。鶉成伊波比毛等保理。恐等付奉而。久堅乃。天見如久。眞十鏡仰而雖見。春草之益目頻四寸。吾於富吉美可聞。

反歌

久堅之。天歸月乎。綱爾刺。我大王者。蓋爾爲有。

九 古今和歌集夏歌

うづきにさけるさくらをみてよめる

哀てふことをあまたにやらじとや春におくれてひとりさくらん

紀とさだ

一〇 同 秋歌

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

うゑし時花まちどほにありし菊うつろふ秋にあはんとや見れ

第三回 漢文科（明治二十年）

文題

一 某氏農書序　　大江千里

二 觀練兵記　　孟子

右ノ内一題ヲ選ムヘシ

解釋課

一 天降大任章

孟子曰舜發於畎畝之中傅說舉於版築之間膠鬲舉於魚鹽之中管夷吾舉於士孫叔敖舉於海百里奚舉於市故天將降大任於是人也必先苦其心志勞其筋骨餓其體膚空乏其身行拂亂其所爲所以動心忍性曾益其所不能人恒過然後能改困於心衡於慮而後作徵於色發於聲而後喻入則無法家拂士出則敵國外患者國恒亡然後知生於憂患而死於安樂也

二 贈盧復州序　　韓愈

有地數百里趨走之吏自長史司馬已下數十人其祿足以仁其三族及其朋友故舊樂乎心則一境之人懼丈夫官至刺史亦榮矣雖然幽遠之小民其足跡未嘗至城邑苟有不得其所能自直於鄉里之吏者鮮矣況能自辨於縣吏乎能自辨於縣吏者鮮矣況能自辨於刺史之庭乎由是刺史有所不聞小民有所不宣賦有常而民產無恒水旱癘疫之不期民之豊約懸于洲縣令不以言連帥不以信民就窮而斂怨急吾見刺史之雖爲也崔君爲復洲其連帥則于公崔君之仁足以蘇復人于公之賢足以庸崔君有刺史之榮而無其難爲者將在於此乎會嘗學于公之知而舊遊于崔君慶復人之將蒙其休澤也於是乎言

三　六經論　　清　王鍈

六經之書議最平而意則遠情最切而理則辨闢最該而氣則直體尤樸而文則工時而爲江河時而爲山嶽時而爲日星時而爲雲溪故六經之於文則造化也然而詭怪則不如老莊矣奇險則不如風宋矣深核則不如管商矣誕放則不如荀列矣獨是諸子之所有一皆六經之所不屑有而其精者皆不出乎六經特其造意選詞旁見側出而傳之以險怪緯之以奥僻遂使古今才雄識淺者抉而求之櫝而有之以是爲秘密而不知其比於玩物喪志也何足與論六經之大哉

第四回　國語科（明治二十一年）

作文課

一　史學の論
二　櫻の記

設問課

一　く（來）　す（爲）

右二つの語の活用を說くべし

二　もみぢばをさこそ風のはらふらんこのやまもさはあめと降るなれ

三　おのづから思ひいづるもかひぞなき契りしまゝのこゝろならずば

四　日にそへてふしたちにけりわが國のたけの小杖のうぐひすのこゑ

右三首の歌の誤を指すべし

解釋課

一　枕の草紙の內

頭ノ弁のしさにまゐり給ひて物語などし給ふに夜いとふけぬあす御物忌なるにこもるべければ丑になりなばあしかりなんとてまゐり給ひぬつとめて藏人所のかうや紙ひきかされて後のあしたは殘り多かる心ち

なんする夜をこほして昔物語もきこえあかさんとせした島の聲に催されていとゝみじう清げにうらうへに事多くかき給へるいとめでたし御返りにいと夜深く侍ける島の聲はまうさうくんのにやときこえたればたちかへりまうさうくんのにはゞりは國谷關を開きて三千の客わづかにされりといふはあふさかの關の事なりとあれば

夜をこめて島のそらねははかるとも世にあふさかのせきはゆるさじ

心かしこき關守侍るめりときこゆたちかへり

あふさかは人こえやすき關なれば島もなかれどあけてまつとか

とありし文どもをはじめのは僧都の君のぬかをさへつきて取給ひてき後〳〵のは御まへにてさて逢坂の歌はよみへされて返しもせず成にたるいとわろしとわらわせ給ふさて其文は殿上人みな見てしはとのたまへばまことにおぼしけりとはこれにてこそしりぬれめでたき事など人のいひつたへぬはかひなきわざぞかし又みぐるしければ御文はいみじくかくして人に露みせ侍らぬ心ざしのほどをくらぶるにひとしうこそはといへばかう物思ひしりていふこと猶人々にはにずおもへど思ひくまなくあしう〻たりなど例の女のやうにいはんとこそ思ひつるにとていみじう笑給。以下略

二

續日本紀寶龜二年二月弔二贈左大臣正一位藤原朝臣永手一詔

藤原左大臣(爾)詔大命(乎)宣大詔命座詔(久)大臣明日者參出來仕(牟止)待(比)賜間(爾休息安(麻利豆)參出(末須)事波無(之帝)天皇朝(乎)置而罷退(止)聞看而於母富(佐久)於與豆禮(加母)多波許止(乎加母)云信(爾之)有者仕奉(之)大政官(之)政(乎波)誰任(之加母)罷伊麻(須)執授(加母)罷伊麻(須)恨(加母)悲(加母)朕大臣誰(爾加母)我語(比佐氣(牟)執(爾加母)我問(比)佐氣(牟止)悔(彌)惜(彌)痛(彌)酸(彌)大御泣哭(之)座(止)詔大命(乎)宣悔(加母)惜(加母)自今日者大臣之奏(之)政者不聞看(夜成(牟)自二明日一者大臣之仕奉儀者不看行(夜)成(牟)月日累往(麻爾麻爾)悲事(乃未之)彌可起(加母)歲時積往(麻爾麻爾)佐夫之岐事(乃未之)彌可益(加母)

朕大臣春秋麗色(乎波)誰俱(加母)見行弄賜(牟)山川淨所者執俱(可母)見行阿加良閉賜(牟止)歎賜(比)憂賜(比)大座座(止)詔大事(乎)宣」美麻之大臣(乃)萬政總以無怠緩事無曲傾事(久)王臣等(乎母)彼此別心無普平奏(比)公民之上(乎母)廣厚慈而奏事此耳不在天皇朝(乎)暫之間(母)罷出而休息安(母布)事無食國之政(乃)平善可在天下公民之息安(麻流倍伎)事(乎)旦夕夜日不云思議奏(比)仕奉(者)歎(美)明(美)意太比之(美)多能母志(美)思(保之川川)大座座間(爾)忽朕朝(乎)離而罷麻之奴禮婆言(牟須部(母)無爲(牟)須部(母)不知(爾)悔(備)賜(比)和備賜(比)大座座(止)詔大命(乎)宣〇以下略

三　日本紀舒明天皇九年條

是歲蝦夷叛以不レ朝、即拜二大仁上毛野君形名一爲二將軍一、令レ討、遣爲二蝦夷一見レ敗、而走入レ壘、遂爲レ賊所レ圍、軍衆悉遍城空之、將軍迷不レ知レ所レ如、時日暮鬪レ垣欲レ逃、爰形名君妻歎曰、慷哉、爲二蝦夷一將レ見レ殺、謂レ夫曰、汝祖等、渡二蒼海一跨二萬里一、平二水表政一、以二威武一傳二於後葉一、今汝幸屬二先祖之名一、必爲二後世一見レ嗤、即飲レ酒强之飲レ夫、而親佩二夫之劒一、張二十弓一、令二女人數十一、俾レ鳴レ弦、既而夫更起之、取二伏仗一而進レ之、蝦夷以爲軍衆猶多、而稍引退之、於レ是散卒更聚、亦振旅焉、擊二蝦夷一大敗以悉虜

右ヲ和文ニ譯スベシ

漢文科

文題

一　讀書法戰記

二　某縣某學記

解釋課

一　論語

子張問行子曰言忠信行篤敬雖蠻貊之邦行矣言不忠信行不篤敬雖州里行乎哉立則見其參於前也在輿則見其倚於衡也夫然後行子張書諸紳

二　黃仙嶠序

古之君子所以拔於人々者豈有他哉亦其器識有不可量度而已矣試之以富貴貧賤而漫焉不加喜戚臨之以大憂大辱而不易其常器之謂也智足以析天下之微芒明足以破一隅之固識之謂也器與識及之矣而施諸事業有不逮君子所偶一涉焉而不齒諸有亡者也

清曾國藩

三　史記

田單乃收城中得千餘牛爲絳繪衣畫以五采龍文束兵刃於其角而灌脂束葦於尾燒其端鑿城數十穴夜縱牛壯士五千人隨其後牛尾熱怒而奇燕軍燕軍夜大驚牛尾炬火光明炫燿燕軍視之皆龍文所觸盡死傷五千人因銜枚擊之而城中鼓譟從之老弱皆擊銅器爲聲聲動天地燕軍大駭敗走齊人遂夷殺其將騎劫燕軍擾亂奔走齊人追北所過城邑皆畔燕而歸田單兵日益多乘勝燕日敗亡卒至河上而齊七十餘城皆復爲齊

第五回　國語科

解釋課

一　源氏物語篠木の卷品定めの末段

すべて男も女もわろものはわづかにしれるかたのことなのこりなくみせつくさんと思へるこそいとなしけれ三史五經の道〳〵しきかたをあきらかにさとりあかさんこそあいきやうなからめなどかは女といはんからに世にあることのおほやけわたくしにつけてむげにしらずいたらずしもあらんわざとならひまなばれどもすこしもかどあらん人のみゝにも目にもさまるとじれんにおほかるべしさるまゝにはまんなをはしりがきてさるまじきどちの女ぶみになかばすぎてかきすくめたるあなうたてこのかたのたをやかならましかばとみゆかし心ちにはさしもおもはざらめどおのづからこは〳〵しきこゑによみなされなどしつゝことさらびたりこれは上らふの中にもおほかることぞかし歌よむと思へる人のやがて歌にまつはれをかしきふることをもはじめよりとりこみつゝすさまじきをり〳〵よみかけたることそ物しきことなれかへしせればなさけなしえせざらん人はほしたなからんさるべき節會など五月のせちにいそぎまゐるあしたなにのあやめも思ひしづめられぬにえならぬねをひきかけ九日のえんにまづかたさ詩の心をおもひめぐらしいとまなきをりにきくの露をかこちよせなどやうのつきなきいとなみにあはせさならでもおのづからげにのちにおもへばをかしくも哀にもあンべかりけることのそのをりにつきなくめにもさまちぬなどをおしはかるずよみいでたる中々心おくれてみゆよろづのことになどかはさてもとおぼゆるをりから時〳〵思ひわかぬばかりの心にてはよしばみなさけだたざらんなんめやすかるべきすべて心にしれらん事をもしらずがほにもてなしいはまほしからんことをもひとつふたつのふしはすぐすべくなんあンべかりける

右を注解すべし

二　萬葉集　　山上憶良

勇士の名を振ふことを慕ふ歌

ますらをは名をしたつべし後の世に聞つぐ人もかたりつぐがに

三　古今集　　在原滋春

（い）藤原の三善が六十の賀によみけるつる亀もちとせの後はしらなくにあかぬ心にまかせはててん

同

（ろ）卯月にさける櫻を見てよめる　　紀としさだ

あはれてふ事をあまたにやらじとや春におくれてひとり咲くらん

四　後拾遺集　　和泉式部

（い）小式部内侍なくなりてうまごどもの侍りけるをみてよみ侍ける

とゞめおきてたれをあはれと思ふらんこはまさるらんこはまさりけり

五　新古今集　　大納言經信

花みにと人やりならぬ野べに來て心のかぎりつくしぬるかな

右五首を注解すべし

六　日本書紀卷九神功皇后征韓條

冬十月己亥朔辛丑、從二和珥ノ津一發之時、飛廉起レ風、陽侯擧レ浪、海中大魚、悉浮挾レ船、則大風順吹、帆船隨レ波、不レ勞二楫檝一便到二新羅一時、隨二船潮浪遠逮二國中一、中略新羅王遙望以爲、非常之兵將レ滅二己國一、魂爲失レ志、乃今醒之曰、吾聞東有二神國一謂二日本一、亦有二聖王一謂二天皇一、必其國之神兵也、豈可二擧レ兵以拒一乎、即素旆而自服、素組以面縛、封二圖籍一降二於王船之前一、因以叩頭之曰、從レ今以後、長與二乾坤一伏爲二飼部一、其不レ乾二船檝一、而春秋獻二馬梳及馬鞭一、復不レ煩二海遠一、以二每年一貢二男女之調一、則重誓之曰、非四東日更出レ西、且阿利那禮河返以逆流及三河石昇爲二星辰一、而殊闕二春秋之朝一、怠廢二梳鞭之貢一、天神地祇共討焉、

右を假名文に譯すべし

作文課

大風の記

設問課

一　左の歌についてをはの調不調を說明すべし

（い）　つくばねの峰までかゝるしら雲を君しもよそにみるは何なり

（ろ）　春がすみたなびく田居にいほりしてあき田かるまで思はしむらく

二　左の歌についてうすみとふりみふらすみとの區別を說明すべし

（い）　春のさるかすみのころもきぬをうすみやま風にこそみだるべらなれ

（ろ）　神無月ふりみならすみさだめなきしぐれぞ冬のはじめなりける

三　左の歌について過去現在などいふ時の調不調を說明すべし

（い）　花見にとゆかましものを春がすみたなびく山のかひなかりけり

（ろ）　誰が方になびきはてゝかふじのねのけぶりの末のみえずなるならん

四　左の歌についてはのはは淸濁いづれにすべきかを說明すべし

（い）　みちのくにありといふなるなとり川なき名とりてはくるしかりけり

（ろ）　うめが香を袖にうつしてとゞめては春はすぐともかたみなるまし

○

右答案の末に熟讀及び看過せし語學書名を列記すべし

漢文科

解釋課

一　博施濟衆章

子貢曰如有博施於民而能濟衆何如可謂仁乎　子曰何事於仁必也聖乎　堯舜　其猶病諸夫仁者己欲而立人己欲達人能近取譬可謂仁之方也已

二　蘇秦列傳　　史記

蘇秦從約長並相六國北報趙王乃行過雒陽車騎輜重諸侯各發使送之甚衆擬於王者周顯王聞之恐懼除道使人郊勞蘇秦之昆弟妻嫂側目不敢仰視俯伏侍取食蘇秦笑謂其嫂曰何前倨而後恭也嫂委蛇匍匐以面掩地而謝曰見季子位高金多也蘇秦喟然歎曰此一人之身富貴則親戚畏懼之貧賤則輕易之況衆人乎且使我有雒陽負郭田二頃吾豈能佩六國相印乎

三　答崖立之書　　韓愈

方今天下風俗尚有未及於古者邊境尚有被甲兵者主上不得怡而宰相以爲憂僕雖不賢亦且潛究其得失致之乎吾相蘆之乎吾君上希卿大夫之位下猶取一障而乘之若都不可得猶將畊於寬閑之野釣於寇寇之濱求國家之遺事考賢人哲士之終始作唐之一經垂之於無窮誅奸諛於既死發潛德之幽光二者將必有一可

作文課

興一利不如除一害說

第六回　國語科（明治二十六年）

解釋課

一　源氏物語帚木品定の內

大方の世につけてみるには皆なきも我が物とうち賴むべきを選ばんに多かる中にもえなん思ひ定むまじかりける男子の公につかうまつりはかばかしき世の固めなるべき眞の器となるべきをとり出さんには難かるべしされどかしこしとても一人二人世の中をまつりごち知るべきならねば上は下に助けられ下は上に靡きて事廣きに讓らふらん狹き家の內のあるじとすべき人一人を思ひ廻らすに足らはで惡しかるべき大事どもなんかたがた多かるとあればかゝりあふさきるさにて斜にさても有りぬべき人の少きをすきずきの心のすさびにて人の有樣を數多見合せんの好ならねど偏に思ひ定むべきよるべとすばかりに同じくは我が力入りをし引つくろふべき所なく心にかなふやうもやと選りそめつる人の定り難きなるべし

右の大意を注解すべし

二　大鏡八卷の內

六條の式部卿の宮と申しゝは延喜の帝の一腹の御兄弟におはします野の行幸せさせ給ひしに此宮つかうまつらせ給ふべかりけれど京の程遲參せさせ給へりしかば桂の里にぞ參りあはせ給へりしかば御輿とどめて先だて奉らせ給ひしに某さいひし犬飼の犬の前足を二つながら肩に引こして深き河の瀨渡りしこそ行幸につかうまつり給へる人々さながら興じ給はぬなく帝も興ありげにおぼしたる御氣色にこそみえおはしましゝかさて山口入らせ給ひし程に白兄と云し御鷹の鳥をとりながら御輿の鳳の上に飛び參りて侍らひしやうやう日は山の端に入がたに光のいみじうさして山の紅葉錦を張りたる樣なるに鷹の色はいと白くて雉子は紺青の樣にてはね打廣げてゐて侍らひし程は實に雪少し打散りて折ふしとり集めてさる事やはさふらひし

右を漢語交りの通行文に譯すべし

三　萬葉集　紀貫之

西海道の節度使藤原の宇合を送るとて高橋の蟲麻がよめる歌

千萬の軍なりとも言擧げせず取りて來ぬべき男子とぞ思ふ

四　古今集　長明

櫻の花の散りけるをよめる

ことならば咲かずやはあらぬ櫻花みる我さへにしづごゝろなし

五　新古今集

月前松風

ながむれば千々に物思ふ月にまた我が身ひとつの峰の松風

右三首の歌の意を述べし

設問

一　左の歌についてていにをはの調不調を説明すべし

（い）人よりもこゝろのかぎりながめてし月はたれともわかじものゆゑ

（ろ）ほゝゑゝぎす峰の雲にやまじりにしありとはきけどみるよしもなき

二　左の文について調づかひの調不調を説明すべし

（い）玉はたとひ龍のあぎとにみいでしともそれ得るべき術のなからましかばいかでかはそのかひあらん

（ろ）硯もかわかせず夜毎に手ならふまゝにいつしか消息をもかよはするほどになりにけり

三　左の文について時または自他などの調不調を説明すべし

（い）かの神龍をとらへては我また害せられなましよくこそとらへ得ずはなりにけれ

（ろ）和歌はひとつこゝろを種としてよろづのことのはとぞなれりける

右答案の末に熟讀および看過せし語學書の書目を列記すべし

文題

旅行の記

漢文科（明治二十六年）

一　書經

天叙有典勑我五典五惇哉天秩有禮自我五禮有庸哉同寅協恭和衷哉天命有德五服五章哉天討有罪五刑五用哉

政事懋哉々々天聰明自我民聰明天明畏自我民明威達子上下敬哉有土

二　老子

夫我有三寶持而寶之一曰慈二曰儉三曰不敢爲天下先慈故能勇儉故能廣不敢爲天下先故能成器長今捨慈且勇

捨儉且廣捨後且先死矣夫慈以戰則勝以守則固天將救之以慈衛之

三　荀子

積土成山風雨興焉積水成淵蛟龍生焉積善成德而神明自得聖心備焉故不積蹞步無以至千里不積小流無以成江

河騏驥一躍不能十步駑馬十駕功在不舍鍥而舍之朽木不折鍥而不舍金石可鏤

作文

倫儉說

第七回　國語科

解釋

一　宇治拾遺物語卷十　堀河院明暹に笛ふかせ給ふ事

これも今はむかし堀河院の御時奈良の僧どもを召して大般若の御讀經おこなはれけるに明暹この中にまゐる其の時に主上御笛をあそばしけるがやうやうに調子をかへてふかせ給ひけるに明暹調子ごとに聲たがへずあげければ主上あやしみ給てこの僧をめしければ明暹ひざまづきて庭に侯ふおほせによりてのぼりてその子に候ふに笛やふくことはせおはしましければかたのごとくつかまつり候ふと申ければされば御感ありてやがてその笛をたびてけり件の御ふえたびてふかせけるに万歳樂をえもいはずふきたりければ

笛傳はりていま八幡別當幸清がもとにありとか

二　徒然草卷一

いにしへの聖の御代の政をもわすれ民のうれへ國のそこなはるとも知らず萬にきよらを盡していみじと思ひ所せきまましたる人こそうたて思ふ所なく見ゆれ衣冠より馬車にいたるまで有るにしたがひて用よ美麗をもとむる事なかれとぞ九條殿の遺誡にも侍る順德院の禁中の事共かゝせ給へるにもおほやけのたてまつり物はおろそかなるをもてよしとすることこそ侍れ

三　古今集春下

山高み見つゝわがこしさくら花風は心にまかすべらなり

四　新古今集雜中

たれかはと思ひたえても松にのみおとづれてゆく風はうらめし

五　新葉和歌集二十賀

この宿の庭にさかゆく松が枝はあるじと共に萬代やへむ

設問

一　左の文について天爾乎波の調不調を説明すべし

手かくわざは文字のひとつにて上代は殊にすぐれたりしをいつ頃よりや漸くすたれて今はふつに學ぶ人だになくなりにしあはれ盛衰の理はたゞ人のうへのみにはあらじかし

二　左の二種の歌について詞づかひの調不調を説明すべし

(い)　ゆくさきもみえぬ波路に船出して風にもまかす身こそうきたれ

(ろ)　法のみちしば　ふみわけて　吉野の宮に　いりにしを　などかあらしの　おちかへり　志賀山さくらちらすらん

三　左の十字に宇音の假字をつくべし

水　火　僧　章　勝　納　信　心　學　公

四　左の四條の問に答ふべし

（い）　有りといふ作用言を何故に變格の活用といふか

（ろ）　といふ天爾乎波はいかなる時に連體言をうくるか

（は）　現在の時をあらはす作用言はいつも現在の一箇のみをはらはすか

（に）　音便の假字をいうとするはいかなる故か

右答案の末に熟讀及び看過せし語學書の名を列記すべし

作文題

一　尋常師範學校卒業生に告ぐ

二　尋常中學校卒業生に告ぐ

三　高等女學校卒業生に告ぐ

右各通行文と中古文體と兩樣

漢文科

解釋

一　尚書　洪範

六三德一曰正直二曰剛克三曰柔克平康正直彊弗友剛克燮友柔克沈潛剛克高明柔克

二　左傳　成公三年

王送知罃曰子其怨我乎對曰二國治戎臣不才不勝其任以爲俘馘執事不以釁鼓使歸即戮君之惠也臣實不才又誰敢怨王曰然則德我乎對曰二國圖其社稷而來紓其民各懲其忿以相宥也兩釋累囚以成其好二國有好臣不與及其讎敢德王曰子歸何以報我對曰臣不任受怨亦不任受德無怨無德不知所報

（女子ニハ）文章軌範卷六袁州學記結末一段

文題

教學半說

授業法問題

一　尋常師範學校尋常中學校高等女學校ニ於テ漢文ヲ教授スル旨趣如何

二　漢文ヲ教授スル方法如何

三　世人或ハ漢文ヲ無用視スル者アリ果シテ然ルカ將タ緊要ナルカ其ノ理由ヲ解ケ

右三項詳細ニ條陳セヨ

第八回國語科

解釋

一　野分の又の日こそいみじうあはれにおぼゆれたてじとみすいがいなどのふしなみたるにせんざいども心くるしげなりおほさなる木どもたふれ枝など吹き折られたるだにをしきに萩女郎花などのうへによろぼひ

はひふせるいとおもはずなりかうしのつぼなどにささきはをこささらにしたらんやうにこまぐゝと吹入たるこそあらかりつる風のしわざともおぼえれ

二　曉たよりありとさゝてよもすがらおきぬて都の文ともかく中にこゝに隔なくあはれにたのみかはしたるあれ君にかさなき人々の事さまざまにかきやるほどれいの涙風はげしく聞ゆればたゞ今あるまゝの事をぞ書きつけける

夜もすがら涙もふみもかきあへず磯こす風にひとりおきぬて

又同じさまにて古郷には戀ひしのぶおとうとの尼上にもふみたてまつるとて　いそものなどのはしばしもいささかつゝみあはせて

いたづらにめかりしほやくすさびにも戀ひしやなれし里のあま人

三　さりとてはた身をえうなきものにはふらかしはつべきにゝもあらずかくのみつたなくおろかなる心ながら何わざにまれ意りなくわざと心にいれてつとめたらんにつひにはひとつゆゑづけてなのめにしいづるふしもなどかはなからむとあいなだのみにかゝりてなむ

四　さうざうし　ゆふけ　ゆふげ　そばそばし　わくらはに　ちうたし　ちうがはし　さくじこ　みづはぐむ　ほうけづく

五　（文章二篇ヲ朗讀シ受驗者ヲシテ書取ラシメ漢字ニハ一々假名ヲ施サシム朗讀ノ文ヲ左ニ掲グ）

（い）　我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にぞある昔神武天皇躬づから大伴物部の兵どもを率ゐ中國の

まつろはぬものどもを討ち平げ給ひ高御座に即かせられて天下しろしめし給ひしより二千五百有餘年を經ぬ此間世の樣の移り換るに隨ひて兵制の沿革も亦屢なりき

（ろ）　朕幼くして天つ日嗣を受けし初め征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を經ずして海内一統の世となり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を輔翼せる功績なり歴世祖宗の尊蒼生を憐み給ひし御遺澤なりといへども併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重きを知れるが故にこそあれ

設　問

一　動詞自他の辨

二　テニヲハの定義を與へかつ其分類を示せ・

三　維新以前の有名なる國語學者三名を擧げその略傳と學説の一斑とを記せ

四　平安、室町、江戸各時代文學の特質を略叙せよ

文　題

一　戰死者の遺族に與ふる書

二　國語教育の要旨

國語教授法問題

一　作文の採點は如何なる標準に據るべきか

二　讀方教授の方法及び其目的

三　讀書科と作文科とは如何にして聯絡せしむべきか

四　尋常師範學校、尋常中學校、高等女學校の國語科時間各々四學年間每週四時と見做し學課目及び教科用書の配當表を作るべし

（受驗者ハ第一第二第三ノ三問ノ中其二ヲ撰ブヿヲ得）

漢文抖

解釋

一　禹曰俞哉帝光天之下至于海隅蒼生萬邦黎獻共惟帝臣惟帝時舉敷納以言明庶以功車服以庸誰敢不讓敢不敬應帝不時敷同日奏罔功

二　夫民勞則思思則善心生逸則淫淫則忘善忘善則惡心生沃土之民不材淫也瘠土之民莫不饗義勞也是故天子大采朝日與三公九卿祖識地德日中考政與百官之政事師尹惟旅牧相宣序民事少采夕月與大史司載斟虞天刑日入監九御使潔奉禘郊之粢盛而後即安諸侯朝修天子之業命瞽考其國職夕省典刑夜儆百工使無慆淫而後即安卿大夫朝考其職晝講其庶政夕序其業夜庀其家事而後即安士朝而受業晝而講貫夕而習復夜而計過無憾而後即安自庶人以下明而動晦而休無日以怠（國語）

文題

有文事者必有武備說

第九回　國語科

解釋

一　歌よむと思へる人のやがて歌にまつはれをかしきふることをもけじめよりとりこみつゝすさまじきをり〳〵よみかけたるこそものしきことなれかへしせればなさけなしえせざらん人ははしたなからんさるべきせちゑなど五月のせちにいそぎまゐるあしたなにのあやめも思ひしづめられぬにえならぬをひきかけ九日の宴にまづかたき詩の心をおもひめぐらしいとまなきをりに菊の露をかこちよせなどやうのつきなきいとなみにあはせさならでもおのづからげに後におもへばをかしくもあはれにもあべかりけることのそのをりにつきなくめにもとまらぬなどをおしはからずよみいでたるなか〳〵心おくれてみゆよろづのことになどかはさてもとおぼゆるをりからときゞ思ひわかぬばかりの心にてはよしばみなさけだゝざらんなんめやすかるべき

二　爰に爲朝敵の勢ごしに見れば大將義朝大の男の大きなる馬には乘つたり人にすぐれて軍の下知せんとて突立ち上りたる内兜誠にいよげに見えければ願ふところの幸得たりと悅んで件の大矢をうち番ひ只一矢に射落さんと打上げけるが待てしばし弓矢取る身の謀汝は内の御方へまゐれ我は院方へ參らん汝負けば憑め助けん我まけば汝を憑まんなど約束して父子立別れてかおはすらんと思案して番ひたる矢をさしはづす遠慮の程こそ神妙なれ

三 (い)祁布與利波、可體里見奈久豆、意富伎美乃之許乃美多豆等伊堅多都和例波
(ろ)そへにとてとすればかゝりかくすればあないひしらずあふさきるさに
(い)小松の御門ことにふれてきやうさくにおはします
(ろ)御ぞなどもたゞけしのかにしみかへりたりあやしさに御ゆするまゐり御ぞきかへなどし給ふ
(は)さては一家の郎等ござんなれ汝を射るにあらず大將を射るなり
(に)廉恥を忘れ金銀を好み候などは沙汰の限に候

設問

一 母音、子音、促音、拗音の定義を與へよ
二 に、へ、と、の、が、も、を、のあらゆる用法を示せ
三 枕詞の性質を說き併せて之に關する參考書を列擧せよ
四 語學の發達を略叙せよ
五 左の書は如何なる事柄を記せるものぞ
歷朝詔詞解　金槐和歌集　扶桑拾葉集　藩翰譜　和漢朗詠集
六 左の人々の文學上の事蹟を問ふ
源隆國　一條兼良　北村季吟　貝原益軒　瀧澤馬琴
七 長歌、短歌、旋頭歌、今樣歌の形式を問ふ

八 書牘文體は如何にして發達せしか

作文

譯文

文治二年四月八日、二品幷御臺所、御參鶴岡宮、以次被召出靜女於廻廊、是依可令施舞曲也、此事去比被仰處、申病痾由不參、於身不屑者、雖不能左右、爲豫州妾、忽出揭焉砌之條、頗恥辱之由、日來內々雖洩申之、彼既天下名仁也、適參向歸洛在近、不見其藝者、無念由、御臺所頻以令勸申給之間、被召之、偏可備大菩薩冥感之旨被仰云云、近日只有別績之愁、更無舞曲業由、臨座猶固辭、然而貴命及再三之間、愁廻白雪之袖、發黃竹之歌、左衛門尉祐經鼓、是生數代勇士之家、雖繼栖戟之基、歷一藏上月之職、自携歌次曲之故、候此役歟、畠山二郎重忠爲銅拍子、靜先吟出歌云、

吉野山峰ノ白雪フミワケテ入ニシ人ノ跡ゾコヒシキ

次歌別物曲之後、又吟和歌云、

シヅヤシヅ　シヅノヲダマキ　クリカヘシ　昔ヲ今ニナスヨシモガナ

漢文科

解釋

一 日敢問夫子之不動心與告子之不動心可得聞與告子曰不得於言勿求於心不得於心勿求於氣不得於心勿求於

氣可不得於言勿求於心不可夫志氣之帥也氣體之充也夫志至焉氣次焉故曰持其志無暴其氣既曰志至焉氣次焉又曰持其志無暴其氣者何也曰志壹則動氣氣壹則動志也今夫蹶者趨者是氣也而反動其心敢問夫子惡乎長曰我知言我善養吾浩然之氣敢問何謂浩然之氏曰難言也其爲氣也至大至剛以直養而無害則塞于天地之間其爲氣也配義與道無是餒也(孟子)

二　庖丁爲文惠君解牛手之所觸肩之所倚足之所履膝之所踦砉然嚮然奏刀騞然莫不中音合於桑林之舞乃中經首之會文惠君曰譆善哉技蓋至此乎庖丁釋刀對曰臣之所好者道也進乎技矣始臣之解牛之時所見無非牛者三年之後未嘗見全牛也方今之時臣以神遇而不以目視官知止而神欲行依乎天理批大郤導大窾因其固然技經肯綮之未嘗而況大軱乎良庖歲更刀割也族庖月更刀折也今臣之刀十九年矣所解數千牛矣而刀刃若新發於硎彼節者有間而刀刃者無厚以無厚入有間恢々乎其於遊刃有餘地矣是以十九年而刀刃若新發於硎雖然每至於族吾見其難爲惕然爲戒視爲止行爲遲動刀甚微謋然已解如土委地提刀而立爲之四顧爲之躊躇滿志善刀而藏之文惠君曰善哉吾聞庖丁之言得養生焉(莊子)

作文

送某官某赴任臺灣序

教授法

一　尋常師範學校尋常中學校ニテ漢文ヲ授クル要旨如何

二　同上一年生ニ漢文ヲ授クル方法ヲ說明セヨ

第十回　國語科豫備試驗

設問（三時間）

（甲）

一　左の漢字に國訓を施せ

數　俵　鬼　箙　笈　刄　楫　醉　塑　靨　潮　敦　籤　氏　葛　屑　瓦　犯　竿　蝸　蝸　紫陽花

二　左の漢字に漢吳音を附しその用例を示せ

京　右　奴　行　留　圖　慧　皇　女　人　宗　男　武　定　明

三　助動詞を分類しその用例を示せ

四　本邦助辭消革の一斑を述べよ

（乙）

五　左の人々の文學上の事蹟を問ふ

藤原俊成　石川雄望　村田春海　藤原公任　安藤爲章

六　左の書の記載事項と編著者の名とを擧げよ

奥の細道　花月草紙　新葉和歌集　古今著聞集　古今和歌六帖

七　連歌とは如何なるものぞ

八　元祿時代の文學の狀態を略叙せよ

（甲）（乙）ノ答案ハ別々ニ綴ルベシ

解　釋　（三時間）

一　五月ばかりに月もなくいと暗き夜女房やさぶらひ給ふとこゑをしていへばいでて見よ例ならずいふは誰ぞと仰せらるれば出でゝこは誰ぞおどろ〳〵しうきはやかなるはといふに物もいはでみすをもたげてようとさし入るゝはくれ竹の枝なりけりおいこの君にこそといひたるを聞きていざやこれ殿上に行きて語ら中將新中將どもなどありけるはいぬ

二　大かた延喜の帝つねに笑ひてぞおはしましけるその故はまめだちたる人には物いひにくしうちとけたるけしきにつきてなむ人は物いひよきされば大小のことかむが爲なりとぞおほせごとありけるそれさることなりけにくきかほには物いひふれにくきものなりさてわれいかでふつさなが月にしにせじ相撲の節九日の節のとまらむがくちをしきにとおほせられけれど九月にうせ給ひて九日の節はそれよりとまりたるなり

三　（い）世の中はいづれかさしてわがならんゆきさまるをそやどゝさだむる
（ろ）士也母空應有萬代爾語繼可名者不立之而

四　國母建禮門院を始め奉りて先帝の御乳母帥典侍大納言典侍已下の女房達船の艫軸に臥しまろびて聲を調べて叫び給ふも夥しき軍喚にぞ似たりける…あはれなる哉花に喩へし十善の御粧無常の風に匂ひを失ひ惡しい歳月にかゝやきし萬乘の玉體蒼海の浪に影を沈み御座す事を無常元來定めなし有待難かは恃み有るな

れども清涼紫宸の玉顏をふりすてゝ鬪戰兵革の船中に行幸して未だ十歳にだも滿じ給はぬ御齡に忽に波の底に入り給ひけんあはれといふも疎なり（傍線の所のみを解釋せよ）

五　靱負の佐　公卿　回錄　攝籙　亭子院のみかど　けやけき奴かな　飾磨の褐のひたゝれ　弓矢の冥加

作　文　（二時間）

一　師道を論ず（普通文體）

二　修學旅行の記（中古文體）

漢文科豫備試驗

解　釋

一　（い）工尹商陽與陳弃疾追吳師及之陳弃疾謂工尹商陽曰王事也子手弓而可手弓子射諸射之斃一人鬷弓又及謂之又斃二人每斃一人揜其目止其御曰朝不座燕不與殺三人亦足以反命矣孔子曰殺人之中又有禮焉（檀弓）
（ろ）晉獻文子成室晉大夫發焉張老曰美哉輪焉美哉奐焉歌於斯哭於斯聚國族於斯是全要領以從先大夫於九京也北面再拜稽首君子謂之善頌善禱（仝上）

二　湯始征自葛載十一征而無敵於天下東面而征西夷怨南面而征北狄怨曰奚爲後我民之望之若大旱之望雨也歸

市者弗止芸者不變誅其君弔其民如時雨降民大悅書曰徯我后后來其無罰有攸不爲臣東征綏厥士女匪厥玄黃紹我周王見休惟臣附于大邑周其君子實玄黃于匪以迎其君子其小人簞食壺漿以迎其小人救民於水火之中取其殘而已矣太誓曰我武惟揚侵于之疆則取于殘殺伐用張于湯有光(孟子)

右四時間 { 答案ハ毛筆ヲ用フベシ / 此問題ハ句ヲ施シ反リ點ヲ附スベシ / 解釋ハ別紙ニ假名交リ文ニテ成ルベク詳明ニ記スルヲ要ス }

國語科本試驗

一 國學者の傳記を知らむには如何なる書を見るべきか

二 公事、衣冠、軍器のことを知らむには如何なる書を見るべきか

三 土佐日記と古今集の序とを比較評論せよ

四 讀書科教授をして最も興味あらしむる方案如何

(注意) 答案ハ問題毎ニ別紙ニ記セ

(他に試驗委員の面前に於いて、落語、講、雜話などの一節を讀ましめて、種々の質問を試みたり。)

漢文科本試驗

一 漢文ヲ教授スルノ目的如何

一 生徒ノ學力ヲ速ニ進ムル方法アリヤ

一 授業ノ課書ハ何々書ヲ以テ必要トスルカ其ノ書名ヲ記セヨ

右三項詳細ニ條陳セヨ(二時間)

作文

立志說

右三時間

第十一回 國語科豫備試驗

解釋

一 蠡斯の化行はれて皇后元妃の外君恩に誇る宦女甚多かりければ宮々次第に御誕生あり中にも第一の宮尊良親皇は御子左大臣爲世卿の女贈從三位爲子の御腹にて志學の歳の始より六義の道に長じさせ給へりされば富緒河の清き流を汲み淺香山の故き跡を蹈みて嘯風弄月に御心を傷ましめ給ふ

二 光る源氏まだ中將などに物し給ひし時は內にのみさぶらひようし給ひておほい殿にはたえだえまかで給ふをしのぶのみだれやと疑ひさこゆることもありしかどさしもあだめきめなれたるうちつけのすきずきし

さなどはこのましからぬ御本上にてまれにはあながちにひきたがへ心づくしなることさた御心におぼしと
むるくせなんあやにくにてさるまじき御ふるまひもうちまじりける

三 (い) 左ノ問題ハ傍線ノ所ノミヲ解釋スベシ

近付くかたきを指つめ引つめさんざんに射る無碍に矢比は近かりけり一筋もあだ矢なく死生はしらず矢庭に射倒さるゝものこそ多かりけれ

(ろ) 長政はさらぬ體にもてなし人々に色代しておのが陣にかへる

(は) 桂を折りたるは博士を望みまだ折らぬはともしびの望みなんありける

(に) 白地に立ち入らせ給へ

四 (い) とのもりのともものみやつこ心あらばこの春ばかり朝ぎよめすな

(ろ) さゝの葉にふりつむ雪のうれを重みもとくだちゆくわがさかりかは

設問

一 左ノ文章ニ就キテ品詞ノ種類文章ノ構造ヲ說明セヨ

見じといふ人こそうけれ山里の折かけ垣の梅をだに情なしと惜みしに今更薪になるべしとかれて思ひきや

二 左ノ語ニ假名ヲ施シ意義ヲ說明セヨ

青侍　遠侍　年官年爵　引出物　切米　綾　桑門　御鑒降　榎越　冥加

三 左ノ人名ヲ漢字ニ寫シ其時代ヲ擧ゲヨ

カタノアヅママロ　ヤマノヘノオクラ　モトナリノリナガ　オホトモノヤカモチ　ケイチウアジヤリ

四 左ノ書ヲ解題セヨ

うけらが花　本朝文粹　香案鑑　玉葉集　男信　同文通考　南留別志　安齋隨筆　菟久波集　蜻蛉日記

作文

一 文字ノ說(普通文體)

國語科本試驗

本年度の本試驗は全く口頭試驗にして受驗者をイロハ順に分ち三日の日子を以て試驗せられたり尤も人々により發問異なりしにより今一々爰に掲ぐることを得ざれども源氏物語枕草紙太平記其他簡單なる文章及び和歌等につき其要點を質問せられたり

漢文科豫備試驗

解釋

一　子產與范宣子論重幣書一節

僑聞君子長國家者非無賄之患而無命令之難夫諸侯之賄聚於公室則諸侯貳若吾子賴之則晉國貳諸侯貳則晉國墜晉國貳則子之家墜何沒沒也將焉用賄（左傳）

二　子路問强子曰南方之强與北方之强與抑而强與寬柔以教不報無道南方之强也君子居之衽金革死而不厭北方之强也而强者居之故君子和而不流强哉矯中立而不倚强哉矯國有道不變塞焉强哉矯國無道至死不變强哉矯（中庸）

三　通鑑擧要明紀一條

解縉初謫廣西復改交阯督餉化州入奏事會帝北征謁太子而還高煦言縉伺上出私觀太子禦歸無人臣禮帝震怒時縉方偕檢討王儼道廣東覽山川上疏請鑿嶺江通南北奏至逮下在獄四年錦衣衛帥紀綱使獄卒醉以酒埋積雪中斃之仍籍其家妻子徙遼左

（以上三題句讀訓點解釋ヲ施セ

右四時間

答案ハ毛筆ヲ用ヒテ字畫ヲ正シク書クベシ

答案ハ一題每ニ別紙ニ認ムベシ）

漢文科本試驗

一　禮記內則一章

子婦孝者敬者父母舅姑之命勿逆勿怠若飲食之雖不耆必嘗而待加之衣服雖不欲必服而待加之事人代之已雖弗欲姑與之而姑使之而后復之子婦有勤勞之事雖甚愛之姑縱之而寧敵休之子婦未孝未敬勿庸疾怨姑教之若不可教后怒之不可怒子放婦出而不表禮焉

右句讀訓點及解釋ヲ施セ

二　韓非子內儲說下一章

文公之時宰臣上炙而髮燒之文公召宰人而譙之曰欲寡人之喉耶奚爲以髮燒炙宰人頓首再拜請曰有死罪三援彌砥刀利猶干將也切肉々斷而髮不斷臣之罪一也援木而貫肉而不見髮臣之罪二也秦戀爐炭火盡赤紅而炙熱而髮不燒臣之罪三也堂下得無微有疾臣者乎公曰善乃其堂下而譙之果然乃誅之

三　新唐書楊國忠傳一節

虢國夫人居宣陽坊左國忠在其南自築禁牆趣虢國第郎官御史白事者皆隨以至居同第出駢騎相調笑施々若禽獸然不以爲羞道路爲恥駭明年大選因就第唱補惟女兄弟觀之士之醜野嫗者呼其名輒笑于堂聲徹諸外士大夫詬恥之先是有司已定注則過門下侍中給事中按期有不可黜之國忠則召左相陳希烈隅坐給事中在旁既對注曰已過門下矣希烈不敢異侍郎韋見素張倚與本曹郎趨走堂下抱案牒國忠顧女弟曰紫袍二主事何如皆大噱鮮子仲通等諷御者鄭岱頌立碑省戶下以頌德詔仲通爲頌帝爲易數字因以黃金識其處

右句讀及訓點ヲ施シ一印ヲ附シタル所ニ解釋ヲ施セ

四　中法會訂越南新約第二款

中國既訂明於法國所辦弭亂安撫各事無所掣肘凡有法國與越自立之條約章程或已定者或續立者現時並日後均聽辦理至法越往來言明必不致有礙中國威望體面亦不致有違此次之約

右句讀及圈點ヲ施セ

五　禮記、韓非子、新唐書、三書ノ解釋ヲ書セヨ

右五問ヲ通シテ四時間

作文題

一　誡學生飲酒文

二　誡學生喫煙文

右二題ノ內一ヲ選ミテ三時間ニ綴ラシム

第十二回　國語科豫備試驗

解釋

一　七日の若菜を人の六日にもてさわぎさりちらしなどするに見も知らぬ草を子どものもて來たるを何とかこれをばいふといへどとみにもいはずいざなどこれかれ見あはせてみゝな草となんいふといふものゝあればうべなりけりさかね顏なるはなど笑ふに又をかしげなる菊の生ひたるをもてきたればつめどなほみゝな草こそつれなけれあまたしあればきくもまじれり」といはまほしけれど聞さいろべくもあらず

二　今は天下只武德に歸して公家あつて何の用にか立つべきさて月卿雲客諸司格勤の所領はいふに及ばず竹園椒房禁裏仙洞の御領までも武家の人押領しける間曲水重陽の宴も絕えはて白馬蹈歌の節會も行はれず形の如き儀計りなり

（右は傍線を施したる諸句のみを解釋せよ）

三　（い）扶桑豈無影乎浮雲掩而忽昏叢蘭豈不芳乎秋風吹而先敗

（ろ）苗代の色紙にあそぶかはづかな

文法（二時間）

一　かなづかひ法のおこれる所以を問ふ

二　方言の性質を略述せよ

三　明治以前に成れる語學書の重なるもの五種を擧げよ

四　左の文章中に誤謬あらば之を指摘しかつ其の理由を述べよ

（い）室內にては高聲に談話を禁ず

（ろ）その誠忠大に人を感ずるものあり宜なるかな芳名藹々として後世に傳ふるや

五　左の文章を文章法の上より解釋せよ

炙治あまた所になりぬれば神事に穢ありといふことは近く人のいひ出せるなり

文學史（二時間）

一　足利時代の文學の概略を述べよ

二　歌學に關する書五種の名と其の著者の名とを擧げよ

三　併諸歌と併諸との別如何

四　三饒を解題せよ

五　左の人名を時代の順序に配列せよ

藤井高尚　藤原爲兼　都良香　小澤蘆庵　紀時文　藤原業俊　仙覺律師

作文（二時間）

神皇正統記を讀む（普通文體）

一問題ごとに別紙に認むべし

漢文科豫備試驗

一　孟子盡心上篇一章

孟子曰廣土衆民君子欲之所樂不存中天下而立定四海之民君子樂之所性不存焉君子所性雖大行不加焉雖窮居不損焉分定故也君子所性仁義禮智根於心其生色也然見於面盎於背施四體四體不言而喻

二　八大家文卷五藍田縣丞廳壁記前段

亟之職所以貳令於一邑無所不當問其下主簿尉主簿尉乃有分職丞位高而偪例以嫌不可否事文書行吏抱成案詣丞卷其前鉗以左手右手摘紙尾鷹鷙行以進平立睨丞曰當署丞涉筆占位署惟譴目吏問可不可吏曰得則退不敢略省漫不知何事官雖尊力勢反出主簿尉下謬敷慢必曰丞至以相嚴警丞之設豈端使然哉

三　通鑒攬要續編卷三宋熙寧九年條

王安石再相屢謝病求去帝厭之乃以使相判江寧府安石處金陵往往寫福建子三字蓋深悔爲呂惠卿所誤也吳充子安持雖娶安石女而數爲帝言新法不便帝察充中立無與途相之充欲有所變革乞召還司馬光呂公著韓維蘇頌及薦孫覺李常程顥等十人光貽書充曰今日救天下之急當罷青苗免役保甲市易而息征伐之謀充不能用王珪無所建明率道諛將順當時目爲三旨相公以其上殿進呈云取聖旨上可否訖云領聖旨退論裏事者云已得聖旨也惠卿告安石卽發其私奏有無使上知語帝以安石爲欺而貶京故召用之

四　小學外篇嘉言第五廣敬身一節

胡文定公曰人須是一切世味淡薄方好不要有富貴相孟子謂堂高數仞食前方丈侍妾數百人我得志不爲學者須先除去此等常自激昂便不到得墜墮

四問ヲ通シテ四時間トス

四問共ニ本紙ニ句讀訓點ヲ施シ其ノ解釋ヲ試驗用紙ニ認ムベシ

解釋ハ一問每ニ別紙ニ認ムベシ

凡テ答案ハ毛筆ヲ用ヒテ字畫ヲ正シク書クベシ

國語科本試驗

一　左の文章及び歌を解釋せよ

（い）　大塔の前座主の宮もうるはしき武士姿に出たゝせ給ふ卯花威の鎧に鍬形の兜たてまつり大矢おひて
　　ぞおはする妙法院の宮はすゞしの御衣の下に萌黃の御腹卷とかや著たまへり大納言はからの香染の薄物
　　の狩衣にけちえんに赤き腹卷をすかしてさすがに蒔繪の細太刀をぞはき給ひける

（ろ）　こよろぎの磯たちならしいそ榮つむ目ざしぬらすな沖にをれ浪

二　左の文章を普通文に譯せよ

大江戸のうちにさみざはといへるまちあり朝市とかいひてそこにあるあき人のかぎりつゞめてより起きいでゝかどのゝにむしろしき設けてふるき帶なえばめる衣などいくらともなく積みならべておきなふ明けはなるゝ頃よりかしましきまで人つどひ來りておのがほしと思ふものは求めつゝいぬ新しげなるはふつになくてくれなゐのうはしらめるもの紫のはえおくれたるたぐひのみぞあめるあるは解衣のみだれたる藤衣のまどほなるしらぬひの筑紫のわた河内女の手ぞめのいとみちのくのしのぶずりいせをの蜑のしほころもなどさへこゝら見ゆをのこの禮服とすなるものゝ中にうへの衣の袖をきりて上下と名づけたるものありこれにつぎてふみこみはちゝもゝひきなどいへるものあがりてのよ人は見も知らぬものなるべしかゝるくさ

〻のふるものをあつめて馬におはせ船につみなどして越の國みちのくのはてまでももてゆきてひさぎ賣りそれより蝦夷が千島の遠き境にもゆきわたることゝゝぞきくかゝるものはもとたづきなきわび人の朝夕の烟立てかれてせんすべなきまゝたくはへたる衣とうでゝあしいくらこがねいくらとておぎのりかりつるを八月のほどに購ひえざれば定まれることにては㊀かす人の心にまかせてかゝるところには賣りわたしぬることゝゝぞすべて新らしきにくらぶればふるものは價いやしされどよろしき人のこれを求め買はんやは買ふものうしなひし人ともに又わび人なればかゝる市の賑しきこそ世に貧しき人の絶えざるしるしなれと思へば例のもろき涙のほろ〳〵とこぼれいづるをあしたの露にかこちなしつゝ鳴く音悲しきちどりの橋をうちわたりてかしこへいそぎぬ

三　師範學校中學校高等女學校國語科用讀本には差異を立つる必要ありや

右三時間

漢文科本試驗

解釋

一　禮記學記篇一節

今之敎者呻其佔畢多其訊言及于敷進而不顧其安使人不由其誠敎人不盡其材其施之也悖其求之也佛夫然故雖其學而疾其師苦其難而不知其益也雖終其業其去之必速敎之不刑其此之由乎

二　資治通鑑卷二百六唐紀聖曆元年十月條癸卯以狄仁傑爲河北道安撫大使時北人爲突厥所驅逼者虜退懼誅往往亡匿仁傑上疏以爲朝廷議者皆罪契丹突厥所脅從之人言其跡雖不同心則無別誠以山東近絲軍機調發傷重家道悉破或至逃亡重以官典侵漁因事而起枷杖之下痛切肌膚事迫情危不循禮義愁苦之地不樂其生有利則歸且圖除死此乃君子之憂辱小人之常行也又諸城入僞或待天兵將士求功皆云攻得臣憂濫賞亦恐非率以經與賊同是爲憑地至於汚辱妻子劫掠貨財兵士信知不仁讐笏未能以免乃是賊平之後爲恩更深且賊務招携秋毫不犯今之歸正即是平人翻被破傷豈不悲痛夫人猶水也壅之則爲泉疏之則爲川通塞隨流豈有常性今負罪之伍必不在家露宿草行歇竄山澤赦之則品不赦則狂山東聖盜綠莎聚結臣以邊塵暫起不足爲憂中上不安此爲大事罪之則衆情恐懼恕之則反側自安伏願曲赦河北諸州一無所問制從之

三　唐宋八大家文卷廿七曾鞏移滄州過闕上疏一節

竊觀於詩其在風雅陳大王王季文王致王迹之所由與武之所以繼代而成之興則美有假樂鳧鷖或有公劉泂酌其所言者蓋農夫女工築室治田師旅祭祀飲尸受福委曲之情務至於免宜之武夫行修於隱牛羊之牧人愛及微物無不稱紀所以論功德者由小以及大其詳如此後嗣所以昭先人之功當世之臣子所以歸美其上非徒直告鬼神覺悟黎庶而已也

右本紙ニ句讀訓點ヲ施シ別紙ニ解釋スベシ

解釋ノ一ヨリ通シテ三時間

四　孫子軍形篇

孫子曰昔之善戰者先爲不可勝以待敵之勝不可勝在己可勝在敵故善戰者能爲不可勝不能使敵必可勝故曰勝可知而不可爲不可勝者守也可勝者攻也守則不足攻則有餘善守者藏於九地之下善攻者動於九天之上故能自保而全勝也勝不過衆人之所知非善之善者也戰勝而天下曰善非善之善者也故舉秋毫不爲多力見日月不爲明目聞雷霆不爲聰耳古之所謂善戰者勝勝易勝者也故善戰者之勝也無智名無勇功故其戰勝不忒不忒者其所措必勝勝已敗者也故善戰者立於不敗之地而不失敵之敗也是故勝兵先勝而後求戰敗兵先戰而後求勝善用兵者修道而保法故能爲勝敗之政兵法一曰度二曰量三曰數四曰稱五曰勝地生度度生量量生數數生稱稱生勝故勝兵若以鎰稱銖敗兵若以銖稱鎰勝者之戰民也若決積水於千仞之谿者形也

右本紙ニ句讀訓點ヲ施シ解釋スベシ

解釋ノ五及設問マデ通シテ二時間

五　清通典卷廿二選舉典考績順治十一年上諭

十一年十二月以考察言官申諭吏部曰近來言官未見建白切當及糾參顯要者皆因懼被論之人反辟仇訐遂爾緘口自今以後凡被論者如有辨處止許就所參事欵據實剖白不許反辟仇訐有乖法紀言官亦不得挾私誣揑自取咎戾其參奉公私當否或現任或陞任考察京官之時該部分別核奏以爲勸懲爾部即行嚴飭

右本紙ニ句讀訓點ヲ施スベシ

設問

一　六朝文學ノ一斑

二　十三經ノ名目

三　左ノ三家ノ重要ナル著書

鄭玄　朱熹　顧炎武

右解釋ノ四ヨリ通ジテ二時間

第十三回　國語科（豫備）

文學史（二時間）

一　國文學に影響せる漢文學の書三種を擧げよ

二　源氏物語の後世の文學に及ぼしたる影響如何

三　左の天皇及び士庶の文學上に於ける事蹟を問ふ

後鳥羽院　戸田茂睡　京極黃門　林述齋　善相公

四　德川時代に現はれたる國語上の辭書を擧げよ

五　明治以後の文章にして普通文の模範たるべきものを擧げよ

作文（二時間）

國語統一の方法を論ず（普通文體）

解釋（第二第三は傍線を施したる語句のみを解釋すべし）（二時間）

一　二月一日の夜常よりも九重の宮の內人ずくなにておほかた夜も靜かなるに子の時ばかりに閑院殿の二條

おもての對より火出で來て樓もえおつる程にぞ始めて見つけたるあさましさもなのめなり何のたよりもなく只あわて騷ぎ我れも人もうつし心なければ公直の中將の御とのゐに候ひけるが車の障なるを召して皇后宮の御方へよす內のうへをば御匣殿抱き奉らせ給ひて宮もたてまつる劍璽ばかりさり具して門を急ぎ出でさせ給ふさばかりありて櫃中納言實雄の參り給へりける車にめし移りて春日宮小路に公相の大納言のおはする家に行幸なる

二　近年殿樣の御壽手向不如意の由にて御取箇筋手强く相成り公事訴訟日增しに募り其の上御藏許藏取百姓共の難義以の外なり

三（い）文體は內容の發表に對する必然の形式ならざるべからず

（ろ）君の說は凡て消極的なり請ふ之を積極的に論ぜよ

四　參觀交替　刀自　行膳　左ノ宰相中將　怠狀

文法（二時間）

一　左の文句中の誤謬を正し併せて其理由を說明せよ

（い）{ 來しかた行末のみ案ぜられて……（キ）
　　 { 來しかた行末のみ案じられて……（コ）

（ろ）{ 甲氏は體格つよしや否や
　　 { 甲氏は體格つよさや否や

甲氏は體格つよきか否や
甲氏は體格つよきか否か

(は) 餘り規則に拘泥さるゝはよろしからざるやに聞及び候

(に) 圖書の檢査を了はるときは一々之に檢印を附す例なるも時々は之を略すこともなきにはあらずそいふ

二 左の歐文の主語并に説明語を指示せよ

(い) 世のうきも人のつらきも忍ぶるに戀しきにこそおもひわびぬれ

(ろ) 彼等が首を正行正時が手にかけて取り候か正行正時が首を彼等にとられ候か

三 左の文句中の國、妻の二語は全く同格なりと認めて可なりや否や之を詳説せよ

決然國を去る

友人妻を去る

四 豆爾乎波研究に關する書籍中重要なるもの三種を擧げよ

五 左の文章を國語の法則に據りて書下にせよ(女子の受驗者には之を省く)

古之學者必有師、師者所以傳道授業解惑也、人非生而知之者、孰能無惑、惑而不從師、其爲惑也終不解矣、生乎吾前其聞道也固先乎吾、吾從而師之、生乎吾後、其聞道也、亦先乎吾、吾從而師之、吾師道也、夫庸知其年之先後生於吾乎、

○

注意

答案ハ必毛筆ニテ認ムベシ

答案ハ字畫ヲ誤ラザルヤウ明晰ニ認ムベシ

答案ハ一問題毎ニ別綴ニスベシ

答案ハ各紙ニ氏名ヲ認ムベシ

漢文科(豫備)

解釋

一 論語衛靈公篇中一章

子張問行子曰言忠信行篤敬雖蠻貊之邦行矣言不忠信行不篤敬雖州里行乎哉立則見其參於前也在輿則見其倚於衡也夫然後行子張書諸紳

二 韓非子卷十八六反一節

夫姦必知則備必誅則止不知則肆不誅則行夫陳輕貨於幽隱雖瞽史可疑也懸百金於市雖大盜不取也不知則瞽史可疑於幽隱必知則大盜不取懸金於市故明主之治國也衆其守而重其罪使民以法禁而不以廉止毋之愛子也倍父父令之行於子者十母吏之於民無愛令之行於民也萬父母積愛而令窮吏威殿而民聽從殿愛之莫亦可決矣

三　明鑒易知錄卷十四崇禎十六年六月李自成大造戰艦鏹
自成自隨騎兵五營營精騎二千步兵十四哨哨精卒三千劉宗敏總步白旺總騎每屯以騎兵一營外圍巡徼晝夜更番餘營以次休息警候嚴密人不得逃逸者追獲必磔之男子十五以上四十以下咸掠爲養子爲奴隸故每破一邑衆輒增數萬每一精兵則畜役人二十餘其馱載馬騾不與焉衆實五六萬且百萬也雖拔城邑不聽屋居廬處布幕彌望若穹廬

四　唐宋八大家文柳宗元零陵郡復乳穴記一節
石鐘乳餌之最良者也楚越之山多產焉於連於韶者獨名於世連之人告壺焉者五載矣以貢則實諸他部今刺史崔公至逾月穴人來以乳復告邦人悅是祥也雜然譁曰歟之熙熙崔公之來公化所徹土石蒙烈以爲不信起視乳穴穴人笑之曰是惡知所謂祥耶縱吾以刺史之貪戾嗜利徒吾役而不吾貨也吾是以病而紿焉今吾刺史令明而志潔先賴而後力欺誣屏息信順休洽吾以是誠告焉

○
右本紙ニ句讀訓點ヲ施シ別紙ニ解釋ヲ施スベシ
四問ヲ通ジテ四時間トス
答案ハ毛筆ヲ用ヒテ字畫ヲ正シク書クベシ

國語科(本)

解釋文法　(二時間)

一　東山の邊なる住家をいで逢坂の關を過ぐるほどに駒引きわたる望月の頃もやうやう近き空なれば秋霧立ちわたりてふかき夜の月影ほのかなりゆふつけ鳥かすかに音づれて遊子猶殘月にゆきけむ函谷の有樣思ひ出でらる(東關紀行)

二　やはらぐる光にあまるかげなれやいすゝがはらの秋の夜の月(新古今集)

三　易水に慨ながるゝ寒さ哉(蕪村句集)

四　左の二文の意義の異同を說明せよ
いかになりたまひにきとか人にもいひ侍らむ
いかになりたまひにしと人にもいひ侍らむ

五　左の歌の係結を詳細に批評せよ
山里にたれをまたこはよぶこ鳥ひとりのみこそすまむとおもふに(山家集)

作　文　(二時間)

作文添削の標準を論ず

口頭試驗

神皇正統記後醍醐天皇の條「昔し人を用ゐられし日は……より白河の御代まではよく官を重くしたまひけり」まで講讀質問

又は常陸帶の序文同前（人によりて同じからず。）
文法質問、文學史質問。

漢文科（本）

一　左傳襄公三十一年十二月一節

鄭人游于鄉校以論執政然明謂子產曰毀鄉校如何子產曰何爲夫人朝夕退而游焉以議執政之善否其所善者吾則行之其所惡者吾則改之是吾師也若之何毀之我聞忠善以損怨不聞作威以防怨豈不遽止然猶防川大決所犯傷人必多吾不克救也不如小決使道不如吾聞而藥之也然明曰蔑也今而後知吾子之信可事也小人實不才若果行此其鄭國實賴之豈唯二三臣仲尼聞是語也曰以是觀之人謂子產不仁吾不信也

右本紙ニ句讀返點送假名ヲ附ケ別紙ニ解釋ヲ施スベシ

第二第三ト通ジテ三時間

二　荀子性惡篇一節

凡性者天之就也不可學不可事禮義者聖人之所生也人之所學而能所事而成者也不可學不可事而在人而謂之性可學而能可事而成之在人者謂之僞是性僞之分也今人之性目可以見耳可以聽夫可以見之明不離目可以聽之聰不離耳目明而耳聰不可學明矣

右本紙ニ句讀返點送假名ヲ附ケ別紙ニ解釋ヲ施スベシ

第一第三ト通ジテ三時間

三　資治通鑑卷二百二十六唐紀德宗建中元年正月條

始用楊炎議命黜陟使與觀察刺史約百姓丁產定等級改作兩稅法比來新舊徵科色目一切罷之二稅外輒率一錢者以枉法論唐初賦斂之法曰租庸調有田則有租有身則有庸有戶則有調玄宗之末版籍浸壞多非其實及至德兵起所在賦斂迫趣取辦無復常準賦斂之司增數而莫相統攝各隨意增科自立色目新舊相仍不知紀極民富者丁多率爲官爲僧以免課役而貧者丁多無所伏匿故上戶優而下戶勞吏因緣蠹食旬輸月送不勝困弊率皆逃徙爲浮戶其土著百無四五至是炎建議作兩稅法先計州縣每歲所應費用及上供之數而賦於人量出以制入戶無主客以見居爲簿人無丁中以貧富爲差爲行商者在所州縣稅三十之一使與居者均無僥利居人之稅秋夏兩徵之其租庸調雜徭悉省皆總統於度支上用其言因赦令行之

右本紙ニ句讀返點送假名ヲ附ケ線ヲ引キタル所ハ別紙ニ解釋スベシ

第一第二ト通ジテ三時間

四　魏徵述懷

中原逐鹿投筆戎軒橫計不就慷慨志猶存仗策謁天子驅馬出關門請纓繫南粵憑軾下東藩辭紆陟高岫出沒望平原古木鳴寒鳥空山啼夜猿嶮嶇千里目還驚九折魂豈不懼艱險深懷國士恩季布無二諾侯嬴亦一言人生感意氣功名誰復論

右本紙ニ句讀反點送假名ヲ附ケ別紙ニ解釋ヲ施スベシ

第五第六ト通ジテ二時間

五　光緒二十五年十二月五日電傳上諭

初四日奉上諭袁世凱電奏山東平陰、肥城、兩縣匪徒聚衆滋事將教士拘至毛家鋪地方該署撫多方設方救並派馬隊兇拏卒以防護不及被匪殺害教士等語覽奏殊深惻惜各國傳教載在約章迭經諭令各該督撫飭地方官隨時隨事認眞保護奚止三令五申乃山東地方竟有教士被害之事該地方文武各員事前疏於防範已屬咎無可辭若不即將兇犯趕緊緝獲尚復成何事體著袁世凱迅將疏防之該營各官先行參處一面勒限嚴緝兇犯務獲懲辦以靖地方而鄰鄰好欽此

右本紙ニ句讀反點送假名ヲ明細ニ施スベシ

第四第六ト通ジテ二時間

六　設問

(い)　唐代ニ於ケル古文ノ消長

(ろ)　宋清二代ニ於ケル學風ノ異同

(は)　仁齋徂徠東涯ノ主要ナル著書

右第四第五ト通ジテ二時間

作文題

長清國留學生歸國序

口頭問頭

或曰以德報怨如何。子曰何以報德。以直報怨。以德報德。

第十四回　國語漢文科

豫備試驗問題

解釋

1、男君は松君とてうまれたまひしより祖父おとどいみじきものにおぼしてむかへたてまつり給ふたびごとにおくりものをせさせたまひ御乳母も饗應し給ひし君ぞかしこのごろ三位しておはすめるは此の君を父おとどあなかしこ我がなかちむ世にあるまじきわざをせず又身すてがたしとてものおぼえぬ名譽うちしてわがおもてふせていでやさありしかどかゝるぞかしと人にいひのたてせとすな世の中にありわびなんきはは出家すばかりなりとなくなくいひおほせ給ひけり(大鏡)

2、或人いはく人の世にある習ひ憍慢を先としてよく穩便なるは少し或はすきにつけて笑はるゝあり是は昔の人はことに心もすきて花月をもいたづらに過ごさざりけり今は時世改まりておもしろき事もさる程にてそれにのみしみかへりてはなど心一つをやりて人目にあまる難あり或はふるまいにつけたる餘事ありこれは立居の有樣のめたたしくをこがましきなり(十訓抄)

3、齊王　御息所　おほいまうちぎみ　扶持米　柳營　矛盾　塞翁馬　朝三暮四　槿輿

布衣の侍

4、夫聖人之治國不恃人之爲吾善也而用其不得爲非也恃人之爲吾善也境內不什數用人不得爲非一國可使齊爲一然而世皆乘車射禽者何也隱括之道用也雖有不恃隱括而有自直之箭自圜之木百世無有者非一發也不恃賞罰而恃自善之民明主弗貴也何則國法不可失而所治非一人也故有術之君不隨適然之善而行必然之道　（韓非子）

右ハ本紙ニ句讀、訓點ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

5、當堯之時舉天下而授之舜舜得堯之天下而又授之禹方堯之未授天下於舜也天下未嘗聞有如此之事度其當時之民莫不似爲大怪也然則舜與禹也受而居之安然若天下固其所有而其祖宗既已爲之累數十世者未嘗興其民道其所以當得天下之故也又嘗悅之以利而間之以丹朱商均之不肖也其意以爲天下之民以我爲當在此位也則亦不俟乎授天以神之聖已以固之也　（唐宋八大家文）

右ハ本紙ニ句讀、訓點ヲ附スベシ（右四時間）

設問

1、言語學ノ効用ヲ略述セヨ

2、文語ノ動詞ノ活用ト口語ノ動詞ノ活用トヲ對照シテ其關係ヲ述ベヨ

3、左ノ文字ノ用法ヲ說明セヨ

イ　又　亦　復

ロ　即　則　乃　輒

4、左ノ文章ノ構造ヲ說明セヨ

吾が鄉神戸にうそ鳥多くきたり庭の梅竹軒ちかき枝ゝてこの鳥ならぬところなかりき

5、左ノ人々ノ文學上ノ事蹟ヲ問フ

宗良親王　鶴震川　三蘇　宗祇　太安萬侶

（右二時間）

作文

中等教育ニ於ケル國語漢文ノ關係ヲ論ズ（普通文）

（右二時間）

本試驗問題

1、天將降大任於是人也必先苦其心志勞其筋骨餓其體膚空乏其身行拂亂其所爲所以動心忍性曾益其所不能人恒過然後能改困於心衡於慮而後作徵於色發於聲而後喻入則無法家拂士出則無敵國外患者國恒亡然後知生於憂患而死於安樂也　（孟子）

本紙ニ句讀、訓點ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

2、管仲既任政相齊以區區之齊在海濱通貨積財富國彊兵與俗同好惡故其稱曰倉廩實而知禮節衣食足而知榮辱上服度則六親固四維不張國乃滅亡下令如流水之源令順民心故論卑而易行俗之所欲因而予之俗之所否因而去之其爲政也善因禍而爲福轉敗而爲功貴輕重任權衡（史記）

本紙ニ句讀、訓點ヲ附シ別紙ニ解釋ナナスベシ

3、明代古文辭ノ德川時代ノ漢文學ニ及ボシタル影響ヲ略述セヨ

4、左ノ文ヲ漢文ニ復セヨ

道ハモトヨリ遠キニ行ハレテ近キニトヽマルアリ往ニ忽ニセラレテ今ニ貴ばるヽモノアリマタ世俗好惡ノ紛ラシムルノミニアラズマタ其理マサニ然ルベキモノアリ（歐陽修文中ノ一節）

（右四時間）

1、左の文を解釋すべし

遠き處より思ふ人の文を得てかたくふんじたるそくひなど放ちあくるほど心もとなしとみの物縫ふに暗きたり針に糸つくるされど我れはさるものにてありぬべき處をとらへて人につけさするにそれもいそげばにやあらむとみにもえさし入れぬをいで只なすげそといへどさすがになどてかはと思ひ顔にえさらぬは憎さへそひぬ（枕草子）

2、左の文は傍線引きたる處のみ解釋すべし

世に歌よむ人多し或は短歌に巧みに或は長歌にかしこく或は文かくわざにすぐる世に古學びする人多し或

は御代々々の書をあきらめ或は四つのおきて文に委しく或はあがれる世のふることぶみに心を深め或は後の世の物語書を枕ごとにす其の人に問へば彼れに委しきは此れにおろかに此れに思ひ入りたるはかしこに心淺に然のみならずやまとざうしの上には口ざきらきゝたるも唐ぶみに向へば爪くはるゝ類多しまことに其もことわり誰やし人は皆かゝ兼ね備へたるあらむわが家の佛貴ぶにはなけれど此の道々に行きさほりて萬たゞしからぬは吾が師錦織の舍の翁のみなむおはしける（泊洒舍文集）

3、左の歌に文法上の誤謬あらば其の理由を附して説明せよ

うめがかをそでにうつしてとゞめてはるはすぐさもかたみならまし

4、左の語の差別を説明せよ

見す　見さす　見せさす

作文

自己の經歷（叙事文）

（右四時間）

第十五回　國語科漢文科豫備試驗

解釋

一　海づらよりは少し入りたる國分寺といふ寺をよろしきさまにとり拂ひておはしまし所にさだむ今はさはかくてあるべき御身ぞかしとおぼしづまるほど猶夢の心地していはむかたなしそこら參りしつはものどももまかでつればかいしめりのどやかになりぬるいとゞ心ぼそし昔こそ受領どもゝ任のほどその國をしたゝめ行ひしかこの頃は只名ばかりにていづくにも守護といふものゝ目代よりはおそましきをすゑたれば武家のまびきにてのみおほやけざまの事はよろづおろそかにぞしける葛城の王を陸奥の國へ遣したりけむもかくやとあはれなり（增鏡）

二（い）　さやかなる鹿の高嶺の雲井より影和らぐる月よみの森（新今古）

（ろ）　おほあらきの杜の木のまをもりかれて人だのめなる秋の夜の月（新今古）

三　羅城門　節折　鄙曲　淮后　鹽梅　膠柱　池魚の禍　友于　白龍魚服　神嘗祭新嘗祭の別

四　子曰道不遠人人之爲道而遠人不可以爲道詩云伐柯伐柯其則不遠執柯以伐　柯睨而視之猶以爲遠故君子以人治人改而止（中庸）

五　秦取天下多暴然世異變成功大傳曰法後王　何也以其近已而俗變相類議卑而易行也學者率於所聞見秦在帝位曰淺不察其終始因舉而笑之不敢道此與以耳食無異悲夫（史記）

六　送秘書晁監還日本　王維

積水不可極安知滄海東九州何處遠萬里若乘空向國惟着日歸帆但信風濤身映天黑天黑魚眼射波紅鄉概樹桑外主人孤島中別離方異域音信若爲通

設問

二（い）　用の字の活き方に幾種類あるかその孰れか正しき

（ろ）　左の文章の品詞を區別し且つ活用ある語はその種類と段とを指示せよ

しやせましせずやあらましとおもふことはおほやうはせぬがよきなり（徒然草）

二　左の人々の文學上の事蹟を問ふ

元好問　藤公任　本居春庭　大伴家持　李夢陽

四　左の書籍を解題せよ

說文解字　山口栞　續世繼　名物六帖　文選

作文

我が鄉里

口頭試驗

二月三日玉勝間卷の一賴朝に靜をーテ舞はせゝれー事

同五日寄居歌談歌

同五日十訓抄花園大臣ノ條

全漢文

二月三日鑑記檀弓死於虎中等漢文讀本

同四日韓非子外儲說舉燭仝
同五日唐宋八大家文與李公擇

國語漢文科本試驗

解釋

一　或人あざらかなるものもて來りよれしてかへりごとす男どもひそかにいふなりいひぼしても釣るさや（土佐日記）

二　いろは雪はづかしく白うてさをにひたひつきこよなうはなれたるになほしもがちなるおもやうはおほかたにおどろ〳〵しうながきなるべしやせ給へることいとほしげにさらぼひて肩のほどなどはいたげなるまできぬのうへだに見ゆ（源氏物語）

三　御家人世祿の義は只今までの通被遊置向後被下置候御加增新知等は何も其身一代切御定被遊可然奉存候左候はゞ先御加增新知役料等に被宛行候田祿合而高何程と被定置其内を以て可被下候（室鳩巢文）

注意　右三問題ヲ通ジテ二時間トス

答案ハ一問題ゴトニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

姓名ハ一枚ゴトニ認ムベシ

四　禮者所以正身也師者所以正禮也無禮何以正身無師吾安知禮之爲是也禮然而然則是情安禮也師云而云則是知若師也情安禮知若師則是聖人也故非禮是無法也非師是無師也不是師法而好自用譬之是猶以盲辨色以聾辨聲也舍亂妄無爲也故學也者法禮也夫師以身爲正儀而貴自安者也詩云不識不知順帝之則此之謂也（荀子）

本紙ニ反點送假名ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

注意　五ト通ジテ二時間トス

五　金谿民方仲永世隸耕仲永生五年未嘗識書具忽啼求之父異焉借旁近與之則書詩四句竝自爲其名其詩以養父母收族爲意傳一鄉秀才觀之自是指物作詩立就其文理皆有可觀者邑人奇之稍賓客其父或以錢幣乞之父利其然也日板仲永環謁於邑人不使學余聞之也久明道中從先人還家於舅家見之十二三矣令作詩不能稱前時之聞又七年還自揚州復到舅家問焉曰泯然衆人矣

王子曰仲永之通悟受之天也其受之天也賢於材人遠矣卒之爲衆人則其受於人者不至也彼其受之天也如此其賢也不受之人且爲衆人今夫不受之天固衆人又不受之人爲衆人而已耶（唐宋八大家文）

本紙ニ反點、送假名ヲ附スベシ

注意　四ト通ジテ二時間トス

設問

一　口語と文語につき尊敬及び謙遜の意をあらはす語法を說明せよ

二　文法と美辭學との關係を問ふ

三　德川時代に於ける小說の沿革を說き且重なる書籍と作者とを示せ

注意右三時間ヲ通ジテ二時間トス

答案ハ毛筆ニテ一問題ゴトニ別紙ニ認ムベシ

姓名ハ一問題ゴトニ認ムベシ

四　左の對比の句中に就て圈を附せる字格を説明すべし

甲　春秋傳引詩不皆實今説詩者同
　　凡詩謂文王爲王者皆作於文王之時

乙　雖兵多何益
　　兵雖多而人心不堅

五　明末清初に於て最若名なる文學者五名以上を擧げよ

注意　右二問題ヲ通ジテ二時間トス　答案ハ毛筆ニテ一問題ゴトニ別紙ニ認ムベシ　姓名ハ一枚ゴトニ認ムベシ

第十六回　國語漢文科

豫備試驗

設問

一　左の歌を文章上より解剖せよ

世の中にあらましかばと思ふ人なきが多くもなりにけるかな

二　左の文中の「ながら」といふ語を説明せよ

彼は書を讀みながら道をありく

人道を唱へながら掠奪を事とす

光秀は皮ながら粽を食へり

三　鎌倉時代の著名なる文學書三種を擧げて解題せよ

四　諸聲文字と會意文字との區別を説明し且つ二三の實例を擧示せよ

五　孟荀の學説の異同を略述せよ

女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者は第四問及び第五問に答ふるを要せず

作文

海　（普通文）

以上四時間

讀力及釋解

一　左の文を解釋せよ（但讀方を附するに及ばず）

固融院の御はてのとし皆人御服ぬぎなどして哀なる事をおほやけよりはじめて院の人も花の衣になどいひけむ世の御事など思出るに雨いたうふる日藤三位のつぼねに蟲虫のやうなるわらはの大きなる木の白きにたて文をつけてこれ奉らむといひければいづこよりぞけふあす御物忌なれば御蔕もまゐらぬぞとてしもはたてたるしとみのかみより取り入にてさなんとは聞かせ奉らず物いみなればえ見ずとてかみについさしておきたるをつとめて手あらひて其卷數をこひてふしをがみあけたればくるみ色といふ色紙の厚ごえたるをあやしと見てあけもてゆけば老法捨のいみじげなるが手にて

これをだにかたみと思ふに都には葉がへやしつる椎柴の袖

二　左の語を解釋せよ（但讀附するに及ばず）

めもあやなり　おほどか　らうがはし　らうたし　塗籠　壺切の劔　御湯殿の鳴絃　献芹之誠

點心　度縢

三　左の語の讀方を問ふ（但解釋するに及ばず）

標澤　賢木　槿　雲隱　總角　宿木　蜻蛉（以上源氏物語の卷名）　小大君　伊勢大輔　萬里小路藤房

月次祭　荷前幣　熒斗目　褻　春宮坊

注意　一より三まで男女を通じて

四　左の文章は本紙に句讀、反り點、送り假名を附し別紙に解釋をなすべし

吾之始歸也汝父免於母喪方逾年歲時祭祀則必涕泣曰祭而豐不如養之薄也　間御酒食則又涕泣曰昔常不足而今有餘其何及也吾始一二見之以爲新免於喪適然耳　既而其後常然至其終身未嘗不然吾雖　不及事姑而以此知汝父之能養也（唐宋八家文）

五　左の文章は本紙に句讀、反り點、送り假名を附すべし（解釋するに及ばず）

老子曰慈故能勇儉故能廣或曰慈則安能勇曰父母之於子也　愛之深故其爲之慮事也精以深愛行精慮故爲其爲之避害也速而就利也果此慈之所以能勇也非父母之賢於人勢有所必至矣轍小而讀書兄父母之戒其子　者諄諄乎惟恐其不盡惻惻乎惟恐其不入也曰嗚呼此父母之心也　師之於弟子也　爲之規矩以授之賢者別之不賢者不疆也君之

於臣也爲之號令以戒之能者予之不能者不取也臣之於君也可則諫否則去　子之於父也以幾諫　不敢顯皆有禮存焉父母則不然子雖不肖豈有棄子者哉是以盡其有以告　之無憾而後止詩曰洞酌　彼行潦挹彼注玆可以餴饎豈弟君子民之父母夫雖行潦之陋而無所棄猶父母之無　棄子也故父母之於子人倫之極也　雖其不賢及其爲子言　也必忠且慈而況其賢者乎（唐宋八家文）

四　左の文章は本紙に句讀、反り點、送り假名を附し別紙に解釋をなすべし

「甲」　仁者以財發身不仁者以身發財（大學）

「乙」　人不可無恥無恥之恥無恥矣（孟子）

五　左の文章は本紙に句讀、反り點、送り假名を附すべし（解釋するに及ばず）

尊氏入京師送正成首於河內一家聚哭正行起入室其母尾而闕之則執父所授　刀將自殺母經入奪刀而泣曰汝何惑與乃父之遺歸汝豈敎汝自殺也汝啣　遺命歸來告我而汝先志之遜能任王事正行　大悟自是以討國賊復父讐爲志常戴正行（日本外史）

女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの敎員志願者の分

（注意）　讀方及解釋は五問題を通じて四時間とす

國語漢文科

本試驗

一、陸贄上奏曰李懷光當管徒足以獨制兇寇逗留未進抑有它由所患太疆不資倚助比者又遣李晟李建徽楊惠元三節度之衆附麗其營無益成功祇足生事何則四軍接壘羣帥異心論勢力則懸絕高卑據職名則不相統屬懷光輕晟等兵微位下而忿其制不從心晟等疑懷光養寇蓄姦而怨其事多陵己端居則互防讒謗欲戰則懾恐分功闔鬩不和嫌釁遂構倖之同處必不兩全彊者憑復而後亡弱者勢危而先覆亡之禍翹足可期舊寇未平新患方起憂歎所切實堪疚心太上消慝於未萌其次救失於始兆況乎事情已露禍難垂成委而不謀何以寧亂李晟見機慮變先請移軍建徽惠元勢輕孤弱爲其吞噬理在必然它日雖有良圖亦恐小能自拔極其危急惟在此時今因李晟願行便遣合軍同往託言晟兵素少慮爲賊洮所激藉此兩軍迭爲犄角仍允論旨密使促裝詔書至營即日進路懷光意雖不欲然亦計無所施是謂先人有奪人之心疾雷不及掩耳者也（通鑑）

本紙に句讀、反り點、送り假名を附すべし（解釋を要せず）

二 大學之法禁於未發之謂豫當其可之謂時不陵節施之謂孫相觀而善之謂摩此四者學之所由興也發然後禁則扞格而不勝時過然後學則勤苦而難成雜施而不孫則壞亂而不修獨學而無友則孤陋而寡聞燕朋逆其師燕辟廢其學此六者敎之所由廢也君子既知敎之所由興然後可以爲人師也（禮記）

（注意） 本紙に句讀、反り點、送り假名を附し別紙に解釋をなすべし

通じて二時間とす

（以上師範學校、中學校、高等女學校敎員志願者の分）

一 先生施敎、弟子是則、溫恭自處、所受是極、見善從之、聞義則服、溫恭孝弟、毋驕恃力、志毋虛邪、行必正直、游居有常、必就有德、顏色整濟、中心必式、夙興夜寐、衣帶必飭、朝益暮習、小心翼翼、一此不懈、是謂學則（小學）

本紙に反り點送り假名を附し別紙に解釋をなすべし

二 齊閔王之后頭有大瘤號曰宿瘤初閔王出遊至東郭百姓盡觀宿瘤珠桑如故王怪問曰寡人出遊百姓無少長皆來觀汝不一視何也對曰妾受父母敎採桑不受敎觀大王王曰此奇女惜哉宿瘤女曰婢妾之職屬之不二予之不忘中心謂宿瘤何傷王大悅曰此賢女也命後乘載之女曰父母在內使妾不受敎而隨王是奔女也王安用之王大慙遣歸使使者奉禮加金百鎰往聘贈之父母驚惶欲洗浴加衣裳女曰如是見王變容更服不見識也於是如故隱使者至閔王以爲后出令卑宮室塡池澤損膳減樂後宮不得重米期月之間化行鄰國（蒙求）

（注意） 本紙に句讀、反り點、送り假名を附すべし（解釋を要せず）

通じて二時間とす

以上女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの敎員志願者の分

甲、設問（漢文の部）

一 詩體の種類につきて知る所を擧げよ

二 故事成語を調ぶるに必要なる參考書を擧げよ

乙、復文

三　左の文章を漢文に復すべし

范文正公少くして大節あり富貴貧賤毀譽歡戚に於ては一もその心を動かさず慨然として天下に志あり常に自から稱して曰く士はまさに天下の憂に先だちて憂へ天下の樂に後れて樂むべきなりとその上につかへ人を遇するに一に自信を以てし利害を揮みて趨舍をなさずそのなさんとするところは必ずその力を盡して曰くこれをなすこと我よりするものはまさにかくの如くなるべしその成と否とは我にあらざるものあり聖賢と雖も必ずしることあたはず吾あに苟もせんやと

（注意）　女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者は答ふるを要せず

三右問を通じて二時間とす

設問（國語の部）

一　名詞及動詞は文の如何なる成分として用ひらるゝか其種々の場合を擧げよ

二　連歌狂歌狂詩今樣歌に付て知れる所を記せ

三　動詞助動詞を教授する順序方法を述べよ

四　中古文と普通文との主要なる差別は如何なる點にあるか

右四問題を通じて二時間とす

解釋

一　左の文章の大意を數行に約述し且傍線を施したる語句を解釋せよ

御館に入らせられ御裝束改めさせ給へばやがておほとなぶらをまた照しかゝやけたり　今日の道行きづとぬてまゐれとておまし近き所の一間なる簀子に召されたり大將殿見おこせ給ひて　其貌姑射の山の御宮仕せし人世をはかなき者に思ひなして身は黑くやつしたれど月花のなげきの響れは　物の心なき東人さへ聞き知りたるぞ文字の數だに歌とのみ思ひしもかうさし向ひては武士のまけじ心もあらずなりぬるぞ　八百行く濱の眞砂の中には玉とて拾ひ收めたらむを語り聞ゆべしと仰せたうぶいみじう　畏りて思ひかけず大樹の御蔭にまゐり侍ればいともかゝやかしさにぞたゞ夢路をたどるやうに侍りて聞えまつる事も侍らず　さき御眼に見顯され侍るこそいとい有り難く侍れ伊勢の海千尋の濱に下り立つ　ならひ侍れどかひあることもうち出で侍らぬにはこれとて捧げまつるべくもあらず　君にもかれて學ばせ給ふとも洩れ聞き奉つる　天の下まつりこち給ふ御うつはものゝ士なるにおぼし寄らせ給ふにはかけても及ぶまじきをさへ思ひ知り侍るになむ大空に羽うちつけて飛ぶ田鶴の聲霜枯の淺茅がもとの虫の音いかで取りなめて　聞ゆべきあなかしこと　申す打ちゑませ給ひて弓とる人の心の猛きにはよむ歌も直くあらさまと聞くは　誠にか歌は武士の荒々しき心には讀みうつし得まじきものに宮人達はさたし給へりやと軍に出で立ちて　笛鼓の音馬の嘶は物とも思はぬをのこ三十文字あまりの學びには心後るゝはいかにこは畏き御心にもおぼ？惑はせ給ふものか　古の代々の帝は馬に鞍おき弓矢さらして軍に立たせ給ひし其の御歌をよみ見奉れば猛く直々しく調もいと高しとこそうち聞き侍れいでや歌よまむとては益荒雄心を取り　隱しあてになよびかに讀みうつすべくするこそ此の道のいみじき煩なれ君が御心敏くたけきまゝにうちまれば世給はむには今の世の雖かは立ちあへ　奉ちむ三尺の

鋸を執りて大起り雲飛揚すとうたひ槳か棧たへて鳥鵲南にと咲ぜし君だちは鞍の上にて文に遊ばせ給ふならずや玉造りがいみじき磨りみがき染殿の八汐の色もはかなき目移ばかりは何にかはされど谷深き鶯の聲信濃路出づる荒駒の歩みいづれの道何の業にも始より勝れたらむは鬼にこそ待らめといふ

（鎌倉右大將四行法師を召し問ふ記事、上田秋成作）

二　左の文を講義體に解說せよ

本問題には女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの敎員志願者は答ふるを要せず

御厩言於于今雖事舊候猶以珍重々々慶賀遂日重疊家門迎年繁昌自他不可有際限早可令參賀候抑御領入部無相違之條先以神妙之由御感候也就之四至榜至境阡陌聊不可被混亂他所被致清廉沙汰條率公之忠勤也（庭訓往來）

右二問題を通じて二時間とす

第十七回　國語及漢文科

豫備設問

一　左ノ文ノ傍線ヲ施シタル語ヲ說明セヨ

（イ）やかずとも草は萌えなん春日野をたゝ春の日にまかせたらなん

（ロ）櫻花散らばをしけん玉ぼこの道行きぶりとをりてかざゝん

二、左ノ文ニ誤謬アラバコレヲ正シ且ソノ理由ヲ說明セヨ

（イ）露こぼれぬ

露ぞこぼれぬ

（ロ）文治二年四月二のはしを昇りしも八島の内の大臣宗盛を生捕りの賞と聞ゆ

（ハ）委しく調査を爲せしかども遂に何等の結果をも得ざりし

三、左ノ傳說ニ就キテ知レル所ヲ記セ

眞間乎兒名　松風　村雨　阿新丸　竹取翁　淨瑠璃姫

四、詩ノ六義トハ何ゾ

五、諡、諱、名、字、號ノ別ヲ問フ

六、左ノ文字ニ音ト訓トヲ附シ二音以上アルモノハ其音ニ相當セル義ヲ記セ

（イ）已　巳　已　戊　戌　戌

（ロ）樂　數

注意（答案ハ一問題ゴトニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ姓名ハ一枚ゴトニ認ムベシ

作文普通文

方丈記ニ就キテ注意ソノ梗概ヲ叙述シ且コレヲ評論セヨ

第二日施行ノ分一葉

國語漢文科

豫備
解釋

一 かゝるほどに世の中にいとけしからぬ事をぞいひ出でたるやそれは源氏の左のおとゝの式部卿の宮の御事を思して御門ゝ傾け奉らんと思し構ふといふ事出で來て世にいと聞きにくゝのしるいでや世にさるけしからぬ事あらじなど世の人申し思ふほどに佛神の御ゆるしにや實に御心の中にもあるまじき御心やありけん三月二十六日にこの左大臣殿を檢非違使うち圍みて宣命讀みのゝしりて御門を傾け奉らんと構ふる罪によりて太宰權帥になして流し遣すといふ事を讀みのゝしる 今は御位もなきやうなればとて網代車に乘奉りてたゝいきにゐて奉れば式部卿の宮の御心ち大方ならんにてだにいみじと思さるべきにまいて我が御事によりて出で來たるにこそと聞き思すにせん方なく思されて我れも我れもと出で立ち騷がせ給ふ（榮葉語）

二 (イ)是報こそめでたうて大臣の大將に至らめ 容儀帶佩人にすぐれ 才智才覺さへ世に越えたるべしとぞ時の人々感じあはれけろ（平家物語小松内府敎訓ノ條ノ一節）

(ロ)由良の湊を見渡せば漕ぎ船のかぢをたえ浦の濱ゆふ 幾重とも知らぬ浪路に鳴く 千鳥紀路の遠山渺々と藤代の松にかゝれる磯の浪知歌吹上を外に見て月に瑩ける 玉津島光も今はさらでだに 長汀曲浦の旅の路心を碎く習なるに雨を含める弧村の 樹夕を送る遠寺の鐘哀を催す時しもあれ 切目の王子に着き給ふ（大平記大塔宮熊野落の條の一節）

注意 讀方及解釋ハ四問題ヲ通シテ四時間トス答案ハ一問題ゴトニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ 姓名ハ一枚ゴトニ認ムベシ

第二日施行ノ分第二葉

國語漢文科（豫備）

讀方及解釋

三 左ノ文章ハ本紙ニ句讀反リ點送リ假名ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

師範學校中學校高等女學校敎員志願者ノ分

孟子自齊葬於魯反於齊止於嬴充虞請曰前日不知虞之不肖使虞敦匠事嚴虞不敢請今願竊有請也木若以美然曰古者棺椁無度中古棺七寸椁稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心不得不可以爲悅無財不可以爲悅得之爲有財古之人皆用之吾何爲獨不然且比化者無使土親膚於人心獨無恡乎吾聞之也君子不以天下儉其親孟子

女子師範學校女子部高等女學校ノミノ敎員志願者ノ分

三 左ノ文章ハ本紙ニ句讀反リ點送リ假名ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

衛靈公與夫人夜坐聞車聲轔々至闕而止過闕復有聞公問夫人曰知此爲誰夫人曰此蘧伯玉也公曰何以知之夫人曰妾禮下公門式路馬所以廣敬也 夫忠臣與孝子不爲昭々信節不爲冥々墮行蘧伯玉衛之賢大夫也仁而有知敬於事上此其人必不以暗昧廢禮是以知之公使人視之果伯玉也（小學）

國語及漢文科

豫備

讀方及解釋

四　左ノ文章ハ本紙ニ句讀反リ點送リ假名ヲ附スベシ　解釋スルニ及ハズ

五月以陶侃爲征西大將軍都督荊湘梁四州諸軍事荊州刺史荊州士女相慶侃性聰敏恭終日斂膝危坐軍府衆事綜攝無遺未嘗少閑常語人曰大禹聖人及惜寸陰至於衆人當惜分陰豈可但逸遊荒醉生無益於時死無聞於後是自棄也諸參佐或以談戲廢事者命取其酒器蒱博之具悉投之於江將吏則加鞭扑曰樗蒱者牧樗奴戲耳老莊浮華非先王之法言不益實用君子當正其威儀何有蓬頭跣足自謂宏遠邪有奉饋者必問其所由若力作所致雖微必喜慰賜參倍若非理得之則切厲詞辱還其所饋嘗出遊見人持一把未熟稻侃問用此何爲人云行道所見聊取之耳侃大怒曰汝既不佃而戲賊人稻執而鞭之是以百姓勤於農作家給人足當造船其木屑竹頭侃皆令籍而掌之人咸不解所以後正會積雪始晴聽事前餘雪猶濕及以木屑布地及桓溫伐蜀又以侃所貯竹頭作釘裝船其綜理微密皆此類也（通鑑）

女子師範學校師範學校女子部高等女學校ノノミノ教員志類者ノ分

讀方及解釋

四　左ノ文章ハ本紙二句讀反リ點送リ假名ヲ附スベシ　解釋スルニハ及ハズ

程婆備中之嫠婦也無子而獨處紡績自給而不置甕甑瓦甌性良順乎人而不竭人之歡鄰里相傭受受直止於自給多與則辭焉其雅言日吻自有程踰程禍也程謂節限也於是衣服飲食寢處作息莫不爲之程而其其與人言莫不稱程者里人皆愛之呼之爲程婆婆亦以自號一日忽自經而死鄰里駭異爲病風者及驗屍有書一緘衆共發之其書稱程婆無子久荷鄰里之恩無饑無寒年七十康彊無疾不負人一錢人世之事定矣衣衾足裹手足而所餘可以買棺醑醁曰椹實爲粟可以飯誦經之僧一饌績苧沽爲酒可以謝築埋之勞生踰程則病矣嗟乎而無食糜粥累鄰黑然而死衣棺累鄰里無粟可飯僧無酒可謝勞我豈容貧生重累鄰里哉程婆今死程婆之程也永訣衆相視瞿然爲之經營悉如其言而所遺正罄矣　中井履軒程婆傳）

國語漢文科

本試驗問題

讀方及解釋

(一)左ノ文章ハ本紙ニ句讀、反リ點、送リ假名ヲ附シ、別紙ニ解釋スベシ

子皮欲使尹何爲邑子產曰少未知可否子皮曰愿吾愛之不吾叛也使夫往而學焉夫亦愈知治矣子產曰不可人之愛人求利之也今吾子愛人則以故猶未能操刀而使割也其傷實多子之愛人傷之而已其誰敢來愛於子子於鄭國棟也棟折榱崩僑將壓焉敢不盡言子有美錦不使人學製焉大官大邑身之所庇也而使學者製焉其爲美錦不亦多乎僑聞學而後入政未聞以政學者也若果行此必有所害譬如田獵射御貫則能獲禽若未嘗登車射御則敗績厭覆是懼何暇

王綸

送平淡州判官

(二)不識陽關路新從定遠候黃雲斷春色畫角起邊愁渤海經年別交河出塞流須令外國使知飲月支頭

解釋(訓點を附し傍線のある所を解すべし)

(三)光緒廿六年五月十七日奉上諭十五日永定門外日本書記生杉山忽被匪徒戕害之事聞之實深痛惜鄰國駐使在京本應隨時保護現在匪徒蜂起宜加意嚴防迭經諭令各地方認眞巡緝密爲保護奚止三令五申乃竟毆之地竟有日本書記被害之事該地方文武員辦事前既未能防範事後亦能拿凶犯實屬不成之事体着各該衙門上勤緊限嚴拿凶犯務獲懲治倘逾限不獲定行嚴加懲處欽此、

(以上三題ヲ通ジテ二時間)

(女子師範學校師範學校女子部高等女學校ノミノ分)

(一)左ノ文章ハ本紙ニ句讀、反リ點、送リ假名ヲ附シ、別紙ニ解釋スベシ

子曰君子易事而難說也說之不以道不說也及其使人也器之小人難事而易說也說之雖不以道說也及其使人也求備焉(論語)

(二) 子夜吳歌

長安一片月萬戸擣衣聲秋風吹不盡總是玉關情何日平胡虜良人罷遠征(唐詩選)

(三)劉安世除諫官未拜命入白其母曰朝廷不以安世不肖使在言路倘居其官須明目張膽以身任責脫有觸忤屬疏立

至主上方以孝治天下若以老母辭當可免母曰不然吾聞諫官爲天下靜臣汝父平生欲爲之而弗得汝幸居此地當捐身以報國恩使得罪流放無問遠近吾當從爾所之安世受命是以正色立朝面折廷爭人目之曰殿上虎(賢母錄)

(以上三問ヲ通ジテ二時間)

設問(漢文ノ部)

一、文學史上ニ於ケル歐陽修

二、支那ノ人名ヲ搜索スベキ辭書二三種ヲ擧ゲヨ、

三、左ノ語ヲ解釋セヨ

(イ) 清談

(ロ) 樂府

(ハ) 詩餘

(ニ) 壓斷

(注意、女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校ノミノ教員志願者ハ第一問ニ答フルニ及バズ)

右三問題ヲ通ジテ二時間

解釋

一、あまどもあさりてかひつ物もこまぬれるをめしいでゝ御覽ず浦に年ふるさまなどゝはせ給ふにさまゝゝやすげなき身のうれへを申すそこはかとなくさへづるも心のゆくへはおぼつかなくあはれに見た

まふ御ぞどもかづけさせ給ふたいけるかひありと思へり御馬どもちかうたてゝ見やりなるくらかなにぞなる稻どもこり出でゝかふなどめづらしう見給ふあすかゐ少しうたひて月ころの御物語なきみ笑ひみかたり給ふにたへがたくおぼしたり(源氏物語)

二、後三條院の御時延久の宣旨升といふもの沙汰ありて今までそれを本にして用ゐらるゝ升にて御沙汰ありて升さしてまゐりたれば清涼殿の庭にて沙子をいれてためされけるなんどをばこはいみじきことかなとめであふぐ人もありけり又かゝるまさなきことはいかにめのくるゝやうにこそ見れなどいふ人もありけりこれは内裏の御事は幽玄にてやさ〳〵とのみおもひならへる人のいふなるべし(愚管抄)

右二問題を通して二時間とす

設問(國語ノ部)

一、左の歌の作られたる時代を判せよ

梅の花それとも見えず久方のあまぎる雪のなべてふれゝば

鶯のなけどもいまだふる雪に杉の葉しろしあふ坂の山

ほとゝぎすなかる國にもゆきてしがそのなく蜩のこゑさく山の近けれやなきつるなべに夕日さすらむ

我が宿にさける藤なみ立ちかへりすぎがてにのみ人の見るらむ

こと問へよおもひおきつの濱千鳥なく〳〵いでしあさの月影

二、左の語を解せよ

秀句　片歌　落首　前句附　穿合

三、左の圏點を附せる語の品詞を論定せよ

もと光る竹なむ一筋ありける

われらは何の爲に書を讀むか

或る人曰く日本人は名を愛み支那人は利を愛む。

右三問題を通じて二時間とす

第十八回　國語及漢文科

豫備試驗(四時間)

文法

一、左の文を文章法の上より解剖せよ

(イ)　牛にひかれて善光寺參り

(ロ)　花より團子

(ハ)　人間萬事塞翁が馬

二、左の文に誤謬あらば正し且つ其理由を記せ

(イ)　貝ども拾ひつゝうちさはぐ程にやがて汐みつる頃となれば飽かず口おしけれど返りぬ

（ロ）火曜と木曜の午後は在宅に候得ば御閑も候はゞ御來車被下度候
（ハ）この地海に近く白帆を青松の間に隱見して風光絶佳なり
（ニ）人に命じて書かしたれば誤もやあらん

作文

一、左の日語文を普通文體に書き改むべし

輸卒歎

アゝこれも御國の爲で御座います私は香川縣木田郡木太村の百姓私の父は今年七十一の高齢母は五十九歳しかも父は年のせいで早や目のみえぬ片輪同樣母は二三年前から淺ましい精神病に罹つて年さともにつのるばかり兄弟は一人缺けて外に五人も御座いましたが何の因果か揃ひも揃つて箸にも棒にもかゝらぬヤクザ者家出をするやら破落漢の仲間にはいるやら總掛りで親泣かせをするばかり其樣な次第故貧乏も一通りではなかつた事を御察し下さい今度の動員令でいよ〳〵赤紙が廻りました際も家中殆ど途方に暮れたやうの譯先づ村役場から貰つた七十錢の旅費を割いて五合の酒を買ひ心ばかりの別の盃を取交せました其外にまた十五錢さいふものは跡に殘るものゝ明日の食料に當いて行かねばならぬ殘の三十錢を懷にして村を立ちましたが瀧車賃十八錢をとられて手に剩すは僅に十二錢所が泣面に蜂とは此事でせう其うちの十錢をば何處へどうしたか失くしてしまひ倒に振つても二錢銅貨一つきりになりました夕飯が喰ひたくも二錢では喰はせて呉れませぬやつとある農家へ入つて拜むやうにして

一椀の飯にありつきました漸く兵營に入つて三度の食事は不自由なく喰べられるやうになりましたが忘れやうとしても忘れられないのは家に殘した兩親の身の上素より生錢の貯もあらう筈が無い淺腕ながら稼人の私は取上げられてしまふ明日からは千乾になるより外はありませぬあゝ思ふまい〳〵御國の爲に軍に行くものが今更其樣な女々しい泣言を繰返してもどうなるものかと思ひきらうとすればする程猶思出される辛さ情なさ（中略）運命拙い人間はどこまでも人並には行かぬものと見えます私共が師團〇〇〇列に編入されて遼東に上陸してからの難澁さいふものは到底言語には盡されずなまじ申して見ても同じく輸卒となつて戰地に行て居る方の親や兄弟に氣を揉ませるが落ちですからイツソ何事も申しますまい唯少さい時から貧乏に育つて骨折業には慣れて居るつもりの私が勤務中前後十二三回も卒倒したといふので大概御察しがつくでせうそれが爲終に先月の二十三日後送せられてこの廣嶋豫備病院に今は手厚い御手當を受けて居りますどうせ碌な死樣も爲まいとは思いましたが一度決心した身があちらの土にもならず空しく病院の喰ひつぶしとなつて御國の爲どころか御國の煩となる口惜しさ御察し下さいアゝこれも腑甲斐ない身の當然の運命といふも愚痴「輜重輸卒が軍人ならば」と唱はば唱へ自分ではこれでも軍人の端くれのつもりアゝもう言ふまい何も聽いて下さるなたゞこんな人間でも御國の爲とならばどんなつまらぬ死樣でもして御覽に入れるだけの覺悟はあるものと思ひ下さい（日本新聞）

二、左ノ四問ヲ漢文ニ意譯シ且ツ其答ヲモ漢文ニテ記スベシ

（イ）アナタハオイクツデスカ
（ロ）ドコカニオ勤メデス
（ハ）ドコデ國語漢文ヲオ學ビニナリマシタカ
（ニ）御愛讀ノ書ハ何々デスカ二三種オ書キ下サイ
（注意）女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校ノミノ教員志願者ニハ（二）ヲ答フルニ及バズ

國語及漢文科（四時間）

解釋

一、すさまじきもの、晝ほゆる犬春のあじろ人の國よりおこせたる文の物なき京のをもさこそは思ふらめどもされどそれはゆかしき事をもかきあつめ世にある事を聞けばよし人の許にわざと清げに書きたてゝやりつる文の返事見む今は來ぬらむかしあやしくおそきと待つほどにありつる文のむすびたるもたてぶみもいときたなげにもちなしふくだめてうへに引きたりつる墨さへきえたるをおこせたりけりおはしまさゝりけりともしは物忌とてとり入れずなどもてかへりたるいとわびしくすさまじ。（枕草紙ノ一節）

二、（イ）、我等がにことは世にかくれなしあれ見よ河津か子供こそ敵をのがれんとの出家正しく弘法のためならずやと同宿も思いいやしまば心も染まぬ墨衣の浦嶋が子の箱根寺にて明暮くやしと思ふならば中々俗には劣るべし（謠曲小袖曾我の一節）

（ロ）、いざゝらば琴のねは立てゝもしのぶ此思ひせめてやしばし慰むとかきなす琴のおのづから秋風にたぐへば鳴く蟲の聲も聽みの秋や恨むる戀やうき何をかくれる女郎花我も憂き世のさがの身ぞ人に語るな此有樣もはづかしや、

讀方及解釋（師範學校、中學校高等女學校教員志願者ノ分）

三、左ノ文章ヲ本紙ニ句讀、反點、送假名ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

（イ）徒善不足以爲政徒法不能以自行（孟子ノ一節）
（ロ）愛之能勿勞乎忠焉能勿誨乎（論語ノ一節）
（ハ）博學而詳說之將以反說約也（孟子ノ一節）
（ニ）不遜詐不德不信抑亦先覺者是賢乎（論語ノ一節）

（女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校教員志願者ノミノ分）

三、左ノ文章ヲ本紙ニ句讀、反點、送假名ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

（イ）君子深造之以道欲其自得之也自得之則居之安居之安則資之深資之深則取之左右逢其原故君子欲其自得之也（孟子ノ一節）
（ロ）子曰如之何如之何者吾末如之何也已矣（論語ノ一節）

（師範學校、中學校、高等女學校教員志願者ノ分）

四、左ノ文章ヲ本紙ニ句讀、反點、送假名ヲ附シ傍線ヲ施シタル處ヲ別紙ニ解釋スヘシ

好勝人恥聞過騁辯給眩聰明厲威嚴恣彊愎此六者君上之弊也諂諛願望畏懍此三者臣下之弊也上好勝必甘於佞辭上恥過必忌於直諫如是則下之諂諛者順指而忠實之語不聞矣上騁辯必勦說而折人以言上眩明必臆度而虞人以詐如是則下之願望者自便而切磨、辭不盡矣　厲威必不能降情以接物上恣愎必不能引咎以受規如是則下之畏懍者避辜而情理之說不申矣夫以區域之廣大生靈之衆多宮闕之重深高卑之隔隔自黎獻而上獲覩至尊之光景者蹌億非而無焉獲覩之中得接言議者又千萬不一幸而得接者猶有九弊居其間則上下之情所通鮮矣（資治通鑑ノ一節）

（女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校教員志願者ノミノ分）

四、左ノ文章ヲ本紙ニ句讀、反點、送假名ヲ附シ傍線ヲ施シタル處ハ別紙ニ解釋スヘシ

霍氏謀反伏誅夷其族告者皆封列侯初霍氏陵奢縱茂徐福上疏言宜以時抑制無使至亡書三上不聽至是人爲徐生上書曰客有過主人見其竈直突傍有積薪謂主人更爲曲突遠徙其薪主人不應俄失火鄉里共救之幸而得息殺牛置酒謝其鄉人謂主人曰鄉使聽客之言不費牛酒終無火患今論功而賞曲突徙薪無恩澤焦頭爛額爲上客邪上乃賜福帛以爲郎帝初立謁高廟霍光驂乘上嚴憚之若有芒刺在背後張安世代光驂乘上從容肆體甚安近焉故俗傳霍氏之禍萌於驂乘　十八史略ノ一節）

國語及漢文科

本試驗（四時間）

解釋

（一）咲く花の匂ふが如くと言ひけむ奈良の御時しらぬひの筑紫の大みこともちの鎮に下つ司人らをつどへて梅のうたげし給へりしを古きためしにて世々この花をなんめであへりける大凡草木の花の天地のなしのまに〳〵咲き出づるにぐさ〳〵の色ありさいへど白妙なると紅なるとにまされるしもあらざりけりそが中にもけぢめありて百入千入に色こさはこちたくうたてありてかしこききぬの衣の色めいさへかよへばにや馴れにくゝあら染のあらかなる貴下が下の短き袖おぼえて品おくるゝかたになんおもはるゝたゞ梅のゆるし色なるがおのづから花びらことに光こもりてその香さへこよなきにしくものやはあるべき。（うけちが花）

（二）きりぐすのつゞりさせさは人のために夜寒を敎へ藻に住む蟲はわれからと只身の上をなげくらんを蓑虫の父よと呼ぶは守宮の妻をおもふには似ずされど父のみ戀ひてなどかは母を慕はざるらん。（鶉衣）

設問

（三）左の事項について知れる所を記せ

古今傳授　川柳　漢和連句

（四）維新以後の文學を概說せよ

作文

（五）旅順の陷落を賀する表（普通文）

國語及漢文科（四時間）

一、(イ)君子矜而不爭羣而不黨(論語)。(ロ)大人者言不必信行不必果惟義所在(孟子)

二、古之人其才非有以大過今之人也其平居所以自養而不敢輕用以待其成者閔閔焉如嬰兒之望長也窮者養之以至於剛虛者養之以至於充三十而後仕五十而後爵信於久屈之中而用於至足之後流於既溢之餘而發於持滿之末此古之人所以大過人而今之君子所以不及也吾少也有志於學不幸而蚤得與吾子同年吾之子得亦不可謂不蚤也吾今雖欲自以爲不足而衆且妄推之矣嗚呼吾子其去此而務學也哉博觀而約取厚積而薄發吾告子止於此矣(唐宋八大家文)

市河寬齋

三、東坡赤壁圖

孤舟月上水雲長崖樹秋寒古戰場一自風流屬坡老功名不復周郎

(以上女子師範學校。師範學校女子部。高等女學校教員志願者の分)

國語及漢文科 (四時間)

一、伐虢之役師出於虞富之奇蹟而不聽出謂其子曰虞將亡矣唯信者義留外寇而不寄除賊以應外謂之恩定身以行事謂之信今君施其所惡於人間不除矣以賄滅親身不定矣夫國非忠不立非信不興既不忠信而留外寇寇知其釁而歸國爲己自拔其本矣何以隨久吾不去懊及焉以其擊適西山三月虞乃亡(國語)

〔注意〕解釋、讀方及說問を通じて四時間とす

二、敬啓者竊聞滿洲之地沍寒異常廢我百萬出征貔貅攻取戰勝義軍所向勁敵披靡催節屬隆冬之候滿天霜雪朔風

砭骨我軍務當早已講求禦寒方法凝固無隙指裂膚之慘然其勞其苦幾乎非設想所能及因此業由東京國民援護會協商勸募新舊毛布屬交軍務當道攝寄出征士卒現聞日本官民爭先捐應已上數十萬張之多旅居本年中國紳商諸君感深唇齒輕重輔車見義勇爲夙有所聞伏冀將新舊毛布無論多寡送交本報館或神戸新報館邸當代呈交大阪第四師團姬路第十師團武藏以供該爾師團出征兵士之用尙斬所捐乍布一端別附白布註明揭者註字爲荷

議此時求諸維德鑒

李白

窓下曲

三、塞虜乘秋下天兵出漢家將軍分虎竹戰士臥龍沙邊月隨弓影胡霜撫劍花玉關殊未入少婦莫長嗟(唐詩選)

(以上師範學校、中學校、高等女學校教員志願の分)

二月二十日施行の分

設問

受驗者姓名

四、初唐盛唐中唐晩唐の區別及其各時期に於ける著名なる詩人の姓名を擧げよ

五、左の名數を說明せよ

兩儀　三禮　四聲　五常　六朝

〔注意〕解釋、讀方及設問を通じて四時間とす

第十九回　國語及漢文科

豫備試驗

解釋甲

一、　理想　連想　定義　現象　寢殿　四阿屋　いつきの宮

二、(イ)　落花枝にかへらず破鏡再び照らさず然れどもなほ妄執の瞋恚とて鬼神魂魄の境界にかへり我と此身を苦しめて修羅の街によりくる波の淺かちざり！業因かな

(ロ)　末の松山は寺となりて松のひま〳〵に墓をきづく羽をかはし枝をならぶる契の末もつひにはかくの如しと悲し

(ハ)　犬もあるけば棒にあたる

佛の顔も三度

武士は食はねど高楊枝

三、　このみかどの御母は東宮の御息所とてうせ給へれば位につかせ給ひて皇后宮おくり奉らせ給ふ國忌みさゞきなどおかれて龍信の大納言におほきおとゞおほき一つの位贈らせ給ふ御息所の御母にもひろき一つの位をおくりたまふこれは受領のさはなる人のむすめなり

四、　男あざわらひてをこの事をものたまへるかなそも幽靈といへるものは古き物語文にもこゝら揭焉にしるし

しありてさうぞくよりはじめすべてけしうはあらずおほくはしろきからあやなどひさ重れ髮ながきものとこそきけさればおぼろげの人のいでたつべき姿ともおぼえずおもさは髮人よりはみじかくもさよりさるころもなどひさつもたくはへざれば幽露とならんことかたしともかたき樂なりといふ

(注意)　解釋ノ甲乙ヲ通ジテ四時間トス、答案ハ問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

國語及漢文科

豫備試驗

解釋乙

五、　本紙ニ句讀反リ點送リ假名ヲ附シ別紙ニ解釋スベシ

(イ)　君子之於天下也無適也無莫也義之與比(論語)

(ロ)　道聽而塗說德之棄也(論語)

(ハ)　有不虞之譽有求全之毀(孟子)

(ニ)　人之有德慧術知者恆存乎疢疾(孟子)

六、　本紙ニ句讀反リ點送リ假名ヲ附スベシ(解釋ヲ要セズ)

熊津都督劉仁願帶方州刺史劉仁軌大破百濟於熊津之東拔眞峴城初仁願仁軌等屯熊津城上與之敕書以平壤軍回一城不可獨固宜拔城新羅若金法敏藉卿留鎮宜且停彼若其不須即宜泛海還也將士咸欲西歸仁軌曰人臣狥公

寇之利有死無貳豈得先念其私主上欲滅高麗故先誅百濟留兵守之制其心腹雖餘寇充斥而守備甚嚴宜礪兵秣馬擊其不意理無不克既捷之後士卒心安然後分兵據險開張形勢飛表以聞更求益兵朝廷知其有成必命將出師聲援纔接凶醜自殲非直不棄成功實亦永清海表今平壤之軍既還熊津又拔則百濟餘燼不日更興高麗遣寇何時可滅且今以一城之地居敵中央苟或動足即爲擒虜縱入新羅亦爲羈客脫不如意悔不可追況福信凶悖殘虐君臣猜離行相屠戮正宜堅守觀變乘便取之不可動也衆從之(資治通鑑)

(注意) 解釋ノ甲乙ヲ通シテ四時間トス、

答案ハ問題每ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

國語及漢文科

豫備試驗

解釋 乙

五、本紙ニ句讀反リ點送リ假名ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

(イ) 不仁者不可以久處約不可以長處樂仁者安仁知者利仁(論語)

(ロ) 人能弘道非道弘人(論語)

(ハ) 有不虞之譽有求全之毀 孟子)

六、本紙ニ句讀反リ點送リ假名ヲ附スベシ(解釋ヲ要セズ)

後趙石勒稱天王尋稱帝嘗大饗群臣問曰朕可方古何主或曰過於漢高勒笑曰人豈不自知卿言太過若遇高帝當北面事之與韓彭比肩耳若遇光武當並驅中原未知鹿死誰手大丈夫行事當磊磊落落如日月皎然終不效曹孟德司馬仲達欺人孤兒寡婦狐媚以取天下也(十八史略)

(注意) 解釋ノ甲乙ヲ通シテ四時間トス

答案ハ問題每ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

國語及漢文科

豫備試驗

設問 甲

一、左ノ名稱ヲ解說セヨ

母音　子音　長音　促音　鼻音

二、動詞ノ時ヲ口語及ビ文語ニツイテ說明セヨ

三、左ノ人名ヲ時代ノ順ニ排列セヨ

新井白石　衣通姫　藤原清輔　橘守部

三條西實隆　淡海三船　橘千蔭　里村紹巴

弘法大師　藤原爲兼　大貳三位　大伴旅人

四、慶長元禄間ノ國文學ヲ概説セヨ

設問乙

五、左ノ文字ノ意義ヲ説明シテ其ノ用例ヲ示セ

選撰　篇編　殉徇　候侯　譜

六、左ノ傍線ヲ施シタル假名ニ適當セル漢字ヲ塡セヨ

顔ヲヲカシテ諫ム　姓名ヲヲカス　疾ニヲカサル

七、左ノ語ノ意義ヲ説明セヨ

敢不爲　不敢爲　獨不樂　不獨樂

作文

八、普通文

戰爭と文學

九、國文漢譯

明治三十八年五月二十七日午前早ク敵艦隊ト觸接シ爾後敵ノ砲火等ニ屈セス敵ヲ監視シテ我陸軍運送等ヲ掩護シタルノミナラス詳カニ時々ノ敵情ヲ觀察報告シ聯合艦隊ノ作戰ヲ利セシコト少ナカラス其功績大ナリトス仍テ茲ニ感狀ヲ授與スルモノナリ

（注意）設問及ビ作文ヲ通シテ四時間トス

答案ハ問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

國文漢譯ハ師範學校女子部高等女學校ノミノ教員志願者ニハ課セズ

習字、裁縫、體操、音樂、手工　豫備試驗問題中國語ノ部（五時間）

師範學校、中學校、高等女學校教員志願者ハ左ノ問題ニ答フベシ

講讀

一、左の文章を口語文にて解釋せよ

今日教育ある人士は決して少からざれども一箇の紳士として適當なる禮文を修得したるものは甚だ多からざるが如し猶介孤立自ら高しとするものあり弊衣垢面自ら潔しとするものあり喜怒色にあらはさず寡言危坐自ら正しとするものあり或はおもへらく大丈夫は小節を顧みず區區たる禮容吾に於て何かあらんと是れ東洋古來の風習に本くものなりと雖も文明國の紳士としては或は粗野なるなからんや媚悅自ら甘んじ人に遇うて輙ち叩頭するは素より不可なれども事に應じ物に接し適當なる容止を保つことは即ち是れ他人の感情を重んじ公衆の幸福を進むる所以にして文明社會に缺くべからざる禮文なり

二、左の文句を解釋せよ

立つ島あとを濁さず
二兎をおふものは一兎をもえず
瓜田に履をいれず李下に冠をたださず
徳孤ならず必ず鄰あり
雪の日やあれも人の子櫛拾ひ

三、左の語の中(甲)は其の意義を解釋し(乙)は其の讀み方を假名にて示し(丙)はこれに相當する漢語をあてよ

(甲) 理想　協贊　需要　雀躍
(乙) 普請　活る　自業自得
(丙) おどけること　すなほ　かるはずみ

文法

一、左の文章に誤あらば訂正せよ

苦し御差支なく候えば御同道下されべく候
大砲の音は天地を震ふばかりにぞ響けり

二、左の口語を文語に改めよ

どうして知らないといはれよう

なんと恐ろしいことではないか
これをお見せ申しませう

三、左の文章は文法上幾樣に解釋せらるるか理由を擧げて説明せよ

何人もカントの如く正確に時間を守ること能はざるべし

作文

目下の戰役につきて感ずる所を記す

女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校ノミノ教員志願者ハ左ノ問題ニ答フベシ

講讀

一、左の文章を口語文にて解釋せよ

熱帶地方の人は天地の恩波を被ること多く飽食逸居して一生を送ることを得るが故に生活の爲に心身を勞するを須ひず從つて其の發達を促すべき機會に乏しこれに反して寒帶地方の人は自然の恩澤を享くること甚だ少く終歳孜孜として生活を營む事にのみ從ひ毫も其の他を顧みるに遑あらざるが故に亦徐に思慮を凝らすべき機會を有することなし獨り温帶地方の人に至りては然らず逸居するときは其の生を遂ぐることを能はざれども勤勉するときは優に其の生を送ることを得べし故に人人奮つて諸種の業務に心身を勞し從つて人文の進歩も他の二帶の人民に比して顯著なるものとす

二、左の文句を解釋せよ

立つ鳥あとを濁さず
能ある鷹は爪をかくす
二兎をおふものは一兎をもえず
過ぎたるは猶及ばざるがごとし
雪の日やあれも人の子樽拾ひ

三、左の語の中(甲)は其の意義を解釋し(乙)は其の讀み方を假名にて示し(丙)はこれに相當する漢語をあてよ

(甲) 理想　協賛　需要　雀躍
(乙) 普請　捨る　自業自得
(丙) おどけること　すなほ　かるはずみ

文法

一、左の文章に誤あらば訂正せよ

若し御差支なく候えば御同道下されべく候
大砲の音は天地を震ふばかりにぞ響けり

二、左の口語を文語に改めよ

どうして知らないといはれよう

なんと恐ろしいことではないか
これをお見せ申しませう

作文

目下の戰役につきて感ずる所を記す

明治卅九年九月一日印刷
明治參拾九年九月五日發行

省部文
教員檢定試驗問題集
不許複製

編纂者　島村東洋
東京市神田區表神保町七番地
發行者　辻本末吉
東京市本郷區湯嶋一丁目二番地
印刷者　椿市太郎
東京市本郷區湯嶋一丁目二番地
印刷所　株式會社葵社光社
發賣所　東京市神田表神保町三番地　電話局一五七三番　振替口座二八
修學堂書店

259
152

會頭正四位子爵戸田忠義母堂戸田愛子

●女子學藝全書

●長谷川吉次郎著
△女子算術講義　全一冊　價六十錢　小包料六錢

●大和田建樹校訂　北川博愛著
△女子文のしをり　全一冊　價一冊錢　郵税六錢

●大谷貞子著
△和洋料理栞　全一冊　價一冊錢　郵税六錢

●大谷貞子著
△女子諸禮の栞　全一冊　價一冊錢　郵税六錢

●大谷貞子著
△女子家政の栞　全一冊　價六十錢　郵税六錢

學術に手藝に苟も女子が學生として良妻賢母として學藝を研き內政を掌り女子の本分を盡すに於て之が良師たらん事を期して生れ出でたる此書なり此書の類世に少なからすと雖も何れも一方に偏するか憾むさて著者の實驗上に成りしものなれば最も適切ならん事を期せり世の婦奴たるもの之に依りて以て講究せば得る所大なるべし

●巡査看守受驗案内

後藤本馬先生著

◎全一冊◎紙數五百頁◎價四十錢◎郵税六錢

警官優待ハ朝野ノ輿論ナリ俸給及ヒ人員ノ增加ハ既ニ決議セラレタリ本書ハ時下ノ必要上巡査看守ノ受驗準備ニ供セン爲メ試驗ノ手續及志願ノ事ヨリ試驗問題ノ各科目ニ付逐一答案ヲ附シ又受驗上、職務取扱上必要ナル諸法令ヲ蒐集シタレバ受驗人ハ勿論現任巡査看守ノ爲メニ缺クヘカラサルノ良書也

農學博士本田幸介先生校閲並序
農家之母主筆 井關十二郎
農學士 豊田虎次合著

教育新論

農家の副業と其方法

大本全一冊
上製美本
正價金壹圓廿錢
郵税金八錢

本書は戰時の農家、戰后の農家、特に農家たるの本務を盡し、勞働と勤勉とを資本として清き富を作らんとする農家諸氏必讀の一大要書也

元東京府立第四中學校講師 長谷川吉次郎 編纂

女子算術講義

大本全一冊
上製美本
正價金六十錢
小包拾錢

女子に對して數學中の論を明らかにせば精心を緻密にし思考力を附發ならしめ從て之を諸種の事柄に應用する力增進するに至る是れ方今女子教育上、數學科に重きを置かれたる所以なり然るに生徒中往々理論と應用との間題の解に苦しむ者あるが如し、これ本堂が先生に此書の編纂を懇請せし所以にして書中集錄せられたる解說の懇切なるは是等學生に採りては直接師につきて講義を聞くに異らず、依て高等女學校、女子師範學校及びこれと同時の程度なる諸學校の在學生又は入學志願者には必須の參考用のみならず苟も數學を研究する者は常に座右に備へて之を繙かば又自修に適切ならん請ふ一讀の榮を賜へ

文部省

教員檢定試驗問題集

初回ヨリ拾九回マテ

獻　　育　　科

259
152

東京修學堂書籍目錄

普通教育學會編纂

◉近世受驗全書

全卅冊（一冊一圓卅五錢○廿冊二圓六十錢○卅冊三圓六拾錢○郵稅每冊二錢宛）

（最新形袖珍携帶至便○一冊價拾五錢全十冊一圓卅五錢○廿冊二圓六十錢○卅冊三）

中學校、師範學校、高等學校、女學校、其他是等の學校に在學せらるゝ諸氏及び普通學を修めて以て之が試驗に應ぜられんとする筆備の爲めに缺くべからざるは蓋し本書の外之あらざるべし本全書は斯道專門家の執筆に成りしものなるにて繁冗宜しきを得たる表的に編成せられたるものなるも簡潔に過ぎて事理明晰なる缺くが如ききらなく文章は平易にして說明は親切を旨とし携帶至便の最新形にして製本の堅牢紙質の佳良なるは勿論無二の低價世に流在する類書と沿同せらるゝなかれ。

（各篇書目）

日本歷史　上下全
西洋歷史　上中下全
日本地理　全
西洋地理　上下全
東洋地理　上中下全
化學　全
地文學　全
物理學　全
算術　全
生理衛生學　全
動物學　全
植物學　全

鑑物學　上下全
本邦年表　上中下全
西洋年表　上中下全
東洋歷史年表　全
代數學　全
幾何學　全
三角法　全
作文典　全
英文典　全
國文及會話　全
英作文　全
立體幾何學　全

◉新撰大代數學講義

英國　チャールス　スミス氏原著
日本　上野　清　譯述

全一冊（洋裝金文字入○紙數一千五百頁○正價壹圓五拾錢○小包拾五錢）

現今代數學は數學全科目の大部分を占め數學の知識及び應用は代數學に因るに至れり而して代數書中に於て最も正確に最も簡明に最も完全に新知識を得へき最大便利の書は「チャールス、スミス」氏の大代數學書とす故に現今中學卒業程度の學生或は數學研究者の爲めに世に行はるゝ書は同氏の法式によらさるものなし本書は講述者が多年の經驗によりて「スミス」氏の最新版大代數書を增補講義せられたるものにして一般受驗生及ひ數學專門自修者の爲めに代數學の要領を精細に講述し原書の欠を補ひ且つ最初に於て代數學の綱要を示したり故に原書の出版元倫敦「マクラミン」會社の承諾を得て廣く代數學の必要を世に知らしむるの便利を與へられたり依て本書を「新撰大代數學講義」と題せり是れ講述者の自稱の題名にあらさるなり。

第一回教育科

一　普通學校教育ノ目的如何

二　教師ノ品行ハ甚ダ大切ナル者ナルヿヲ述ベヨ

三　何故ニ教育者ニハ特ニ心理學ノ知識ヲ要スルカ

四　幼者ヲ教育スルハ年取レル者ヲ教育スルヨリハ却テ六ケシキコトヲ說明セヨ

五　德行ト知識トノ關係ヲ論シ兼テ智情意ノ特性ヲ略記スベシ

六　學校ニテ生徒ニ罰ヲ加フルニ當テ生徒ヲシテ其罰ノ當然ナルコトヲ悟ラシムルコトノ必要ナル理由如何ヲ述ベヨ

七　學校ニ於テ德育ヲ爲ス方案ヲ述ブベシ

八　辨當ハ無言ニテ急ギテ喰フベキ者ノ如クニ思フ者尠ナカラザルガ其利害如何

九　學校ニ於テ褒賞ヲ與フルノ利害如何

十　子供ノ情ヲ激勵スルノ利害如何

十一　男子ト女子トヲ教育スルノ利害ヲ述ベヨ

十二　生徒ノ注意ヲ維持スル方案ヲ述ブベシ

十三　理學ト語學トノ價格ヲ論ズベシ

明治 39 9 7 文内

十四　教ヘ方ニヨリテハ理學ハ教ヘザル方却テヨキコトヲ説明セヨ

十五　理學諸科ヲ教授スル方法ノ概略如何

十六　幼者ニ理學ヲ教授スルノ効能如何

十七　語學ヲ教授スル方法ノ概略如何

十八　普通學校ニテハ如何ナル目的ヲ以テ試驗ヲ施スベキカ

十九　普通學校ニテハ如何ナル目的ヲ以テ生徒ヲ管理スベキカ

二十　今日我邦普通學校ノ教授時間ハ多スギハセヌカ各自ノ考ヲ述ベヨ

第二回　教育科

一　教育トハ如何ナルモノニシテ其事業ニハ如何ナルヿヲ包含スルヤ

二　知力ヲ開發スル爲ニハ如何ナル方便ヲ用フベキカ

三　現今我邦ニ行ハルヽ讀本中ニハ幼者ノ心ニテハ決テ理解シガタキ概括的ノ語多クアル如ク思ハルガ二三ノ例ヲ擧ゲテ其不適當ナル所以ヲ示セ

四　小學讀本第一ニ鷗鷺鵜鶴等ノヿヲ説キアルガ斯ル島ノヿヲ六七才ノ小兒ニ學バスル必要ヲ述ベヨ且ツ其島ノ何樣ノモノタルカヲ小兒ニ解得セシムル爲ニハ如何ナル法ヲ用フベキカ委ク其法ヲ述ベヨ

五　積込主義利害ヲ述ベヨ

六　幼兒ヲ教授スルニハ如何ナル教授法ヲ以テ最モ適當ト考フルカ

七　問答法ノ教育上裨益アル所以ヲ述ベヨ

八　理性ヲ發達セシムルノ法ヲ述ベヨ

九　幼年及壯年ノ生徒ニ課スベキ學科ノ種類及其毎日ノ授業時間數ニ關シテ各自ノ意見ヲ述ベヨ

十　學問ヲ好マシムルニハ如何ナル方便アリヤ

十一　生徒ヲ罰スルニ當リ如何ナル目的ヲ以テ之ヲ施行スベキカ

十二　幼者ヲ責罰スルニ當テハ如何ナル事ニ最モ注意セザルベカラヌカ

十三　女子ノ教育ハ何樣ノモノタルベキカ今日我邦ニ行ハルヽ女子教育ノ欠點ヲ擧ゲヨ

十四　唱歌ノ教育上裨益アル所以ヲ述ベヨ

十五　教員ノ資格ノ重ナル者ヲ擧ゲヨ

十六　教員ノ常習トシテ日々實踐スベキ行爲ノ重ナル者ヲ擧ケヨ

十七　生徒ノ德育ヲ爲スニハ如何ナル方便ヲ用フベキカ

十八　体育ノ目的及其方便ヲ述ベヨ

十九　人ノ知識ト道德トハ互ニ如何ナル關係ヲ有スルモノナルカ

二十　教育ノ觀念(即チ教育ハ如何ナル者ナルカト云フヿノ思想)ニ就キテハ古代ヨリ今代ニ至ルマテ如何ナル沿革進歩アリシカ其著シキモノヲ擧スベシ

右二十問ノ中十問ヲ撰テ之ニ答フベシ

第三回　教育學問題　（心理學ノ部）

一　心神ノ現象ヲ攻究スルニハイカナル理法ヲ用フベキヤ

二　五官及ビ筋肉ノ作用ヲ辨別シ且ツ物体ノ形狀大小及ビ位置ハ如何シテ覺知スベキヤヲ說明セヨ

三　現實ノ感應ト觀念トノ區別及ビ特別ノ觀念ト普通ノ觀念トノ區別ヲ示シ次デ觀念ト判斷ト推論トノ關係ヲ述ベヨ

四　心ト物トノ區別

五　實躰論ト名稱論ト概念ノ區別ヲ說明シ其最モ取ルベキモノヲ示セ

六　記憶力及ビ追求ノ情ニ關シ教育上特ニ注意スベキコトハ如何

七　相對律ハ心神活動上イカナル作用アルモノナリヤ複雜聯合トハ如何ナルコトヲヤ例ヲ設ケテ其規律ヲ說明セヨ

八　知ト情トヲ辨別シ且ツ自己ノ情ノ種類ヲ枚擧シ一々之ヲ解釋セヨ

九　正當ノ意志ヲ障碍スル事項ヲ詳論セヨ

十　思慮決斷及ビ願望ヲ定義シ其ノ意志發動ニ關スル所所ヲ明示セヨ

教育學　（心理學ノ部）試驗

一　心ナル觀念ハ何ヨリ生ズルヤ

二　主觀經驗ト客經驗觀ト之別

三　筋肉感ノ性質トハ

四　記憶作用ノ方法

五　抽象歸納演繹發明想像等ノ作用ヲ誘述セヨ

六　年齡ト知力トノ干系ハイカン

七　情緒ヲ定義シ及ビ其ノ性質ヲ說明セヨ

八　相對ノ情及ビ憤怒ノ情ヲ講述セヨ

九　能想ノ情ト現實ノ情トヲ比較セヨ

十　意志カ成長ノ順序ハ如何

十一　意志ト知力トノ干系

十二　信向ナル心態ヲ說明セヨ

教授法

一　教師トナルニハ教授スヘキ諸學科ノ知識ヲ有スルコトノ外ニイカナル須要ノ事項アルカ悉シク之ヲ記スヘシ

二　如何ナル心意ノ有樣ハ識得ナナスニ最モ適當ナルカ

三　問答法ニテ教授スルトキノ心得イカン

四　學校ニテ体操ヲナス目的イカン

五　學校ニテ手ノ修練ト腦ノ修練トヲナスコトニツキ各自ノ考ヲ述ブベシ

六　實物教授ヲナストキニ注意スベキコト何々ナルカ

七　道德教訓ノ方法イカン

八　善良ノ習慣ヲ作ルニハイカニスベキカ

九　訓練ニハ如何ナル方便ヲ使用シイカナル方便ヲ避クベキカ

十　智育德育体育ハ互ニイカナル干系ヲ有スルモノナルカ

第五回　教育科

心理ノ部

第一　心理學研究ノ方法如何

第二　知覺作用ノ發達ハ如何ナル順序ニ由ルカ

第三　接近聯合ノ理法ヲ説キ五乃至十ノ例ヲ擧ケテ其心意上ニ行ハルヽ範圍ヲ示セ

第四　知覺想像推理ノ諸作用ヲ説明シ其相互發達ノ順序及關係ヲ述ヘヨ

第五　注意ノ作用及之ヲ誘起シ又ハ之ヲ助クル事情ヲ述ベヨ

第六　情緒ノ普通ノ性質ヲ記セ

第七　同情ヲ説明シ其發動ヲ助クル事情ヲ説明セヨ

第八　競爭ノ動機トナルベキ情緒及競爭ニ由リテ發生シ又ハ增長スル情緒ヲ論述セヨ

第九　道義的情操ヲ説明セヨ

第十　意志成熟ノ次第如何

問題課

第一　德行ト智識トノ關係

第二　孝弟ハ德ニ進ムノ本ナル所以ヲ論セヨ

第三　家庭及ヒ學校ノ兒童ノ德育ニ於ケル關係ヲ詳論セヨ

第四　兒童ノ教育者ヲ景慕シ之ニ心服スルハ如何ナル事情ニヨルカ且教育上ニ於ケル効用如何

第五　身體ノ養育修練ト德育トノ關係如何

第六　男女心性上ノ差異ヲ擧ケ且ツ之ニ對シテ教育者ノ注意スヘキ事項ヲ示セ

第七　德川氏覇政ノ間世ニ行ハレタル學校教育法トヲ比較シテ其利害得失ヲ論セヨ

第八　歐洲近世ノ教育大家中三名ヲ揚ケ其教育上ノ意見ノ大要ヲ記セ

問題課

第一　普通教育ヲ施ス學校ニ於テ諸學科教授ノ論進統一ヲ要スル所以及其方案ノ大要如何

第二　小學讀本中左ノ一章アリ之ヲ尋常小學校ノ第四學生ニ授ケ教師ノトガテ詳細ナル教授案ヲ作リ教授上主眼タルヘキ事項教授ノ分段教授上特ニ注意スヘキ條件教師生徒問答ノ次第ヲ示セ

醍醐天皇

醍醐天皇ハ宇多天皇第一ノ皇子ニシテ御年十三ノ時位ニ即キ給ヘリ

天皇政ヲ爲スニハ寛仁ヲムネトシ給ヒテ百性ヲ憐ムノ御心殊ニ深ク曾テ冬ノ寒キ夜ニ御衣ヲ脱ガセラレテ民ノ寒苦ヲ察シ給ヘリサレバ天皇ノ御時ハ天下無事ニシテ民其業ニ安ジ上仁德天皇ノ御代ニ比シテ世ノ泰平ヲ樂メリトゾ

冬ノ夜サムノ　月冴エテ　臨モル風サヘ　身ヲキルバカリ　民ヲヲモホス　ミココロニ
ヲホミコロモ　ヤ　ヌガセタマヒシ

第三　尋常小學校ノ第三年生ニ授クベキ作文一節ヲ掲ケ前問ノ例ニ準セテ詳細ナル教授案ヲ示セ

第四　高等小學校ノ生徒ニ始メテ整數ヲ除スルコトヲ授クルニハ如何ナル順序方法ニ由ルヤ教授案ヲ作リテ之ヲ示セ

第六回　教育科

一　概念ハ如何ニシテ發生スルカ

二　三種ノ聯想ヲ説明セヨ

三　興味ノ强弱ハ如何ナル事情ニ依ルカ

四　歸納的論理法ノ重要ナル法則ヲ記シ例ヲ擧ゲテ之ヲ説明セヨ

五　愛情ト同情トノ關係及兩者ノ區別ヲ記セ

六　知識ハ如何ニ意志ニ影響スルヤ

七　意志ノ智力作用ニ及ホス影響如何

八　兒童ノ精神ト教育アル大人ノ精神トハ如何ナル個條ニ於テ異ナルカ

第七回　教育學問題

一　心理學ノ教育者ニ必要ナル理由ヲ問フ

二　精神現象ト物質現象トノ別如何

三　注意ノ性質及其發達ノ順序ヲ説明セヨ

四　兒童ノ年齡ニ應シ構造作用達ノ順序ヲ述ベヨ

五　各種ノ事物ニ對シ各人ガ有スル興味ノ多少ハ如何ナル事情ニ由ルカ

六　欲望ノ感情的及活動的性質ヲ説明セヨ

七　執意的（ッツヨナル）運動ノ發達ヲ説明セヨ

八　意志ト道德トノ關係如何

九　推測式ノ種類及性質ヲ問フ

右九題トス

教育學問題

一　教育ト教授トノ別如何

二　學校ニ於テ教場外ノ教育トハ如何ナルコトヲ云フカヲ詳說セヨ

三　孝弟ハ德ニ進ムノ本ナル所以ヲ說明セヨ

四　教育上遊嬉ノ効用ヲ論ゼヨ

五　本邦武士道ノ教育上ニ及ボシタル影響ヲ述ベヨ

六　私家教育ト學校教育トノ得失ニ關シ内外二三ノ教育家ノ說ヲ擧ゲテ評論セヨ

右六題トス

教育學教授法問題

一　小學校ニ於テ教授材料ヲ撰擇スル際其標準トスベキモノヲ問フ

二　小學校ニ於テ教授上問答法ヲ用ヰルヲ可トスル場合ト之ヲ用ヰサルヲ可トスル場合トヲ區別シ且教育ニ關シテ注意スベキ條々ヲ擧ゲヨ

三　高等小學第一學年修身科ニ於テ義勇公ニ奉スヲ教授スル教案ヲ作ルベシ

四　尋常小學校ニ於テ第三學年及第四學年ノ兒童ヲ合シテ編成セル學級ノ生徒ニ作ラシムヘキ記事文一章若

クハ二章ヲ撰ビ之ヲ教授スル目的教授及練習ノ順序方法教授ニ要スル時間ヲ詳記セヨ

第八回　教育科（第一次）

一　觀念ノ聯合作用ヲ分類シテ各類ニ付キ其性質及ビ發達ノ事情ヲ述ベヨ

二　言語ト思想トノ關係如何

三　他愛ハ自愛ヨリ發達シタルモノナリトノ說アリ其ノ當否ヲ論ゼヨ

四　意思ト知情欲望及ビ不隨意運動トノ區別ヲ一々說明セヨ

五　習慣養成ニ付テ必要ナル注意ヲ心理學上ヨリ說明セヨ

六　ヘルバルト心理學ノ特有ナル點ハ如何

七　思想ノ三大法ト三段論法ノ規則トノ關係如何

八　二重體論式ノ一例ヲ作リ幷ニ之ニ對スル抗答ヲ附セヨ

仝（第二次）

一　維新以來教育ノ沿革ノ大要ヲ記述セヨ

二　教育ハ自然ニ從フベシト云フコトニ就キテ諸大家ノ意見ヲ擧ゲテ之ヲ評說セヨ

三　教科統一ヲ必要トセル教育家ノ論據如何

四　五段教授法ノ心理學的基礎ヲ述ベ併セテ其ノ實地應用上注意スベキ事項ヲ記セ

五　教育上賞與ヲ用フル利害如何

六　現時我國ノ中小學ニ於テ行ハルヽ教育ノ方法ニ付キテ改良ヲ要スベキ事項アラバ之ヲ論述セヨ

仝　（第三次）

一　尋常師範學校ニ於テ教育科ヲ授クル方法如何

二　尋常小學校第四學年ノ生徒ニ授クベキ記事文一則ヲ作リ之ヲ授クル目的、方法及ビ教授ニ要スル時間ヲ詳記セヨ

三　小學校ニ於テ始メテ分數ヲ授クルニ用フル詳細ナル教案ヲ作レ

第九回　教育科

第一次

一　心理學研究ノ方法ヲ述ベ心理學ト教育學トノ關係ニ論及セヨ

二　所謂能力說ヲ說明シ且ツ之ヲ批評セヨ

三　想像ノ種類ヲ擧ゲ其應用ヲ示シ而シテ教育者ガ之ニ就キテ注意スベキ諸要點ヲ述ベヨ

四　自識ノ性質及ビ其ノ發達ノ順序ヲ記述セヨ

五　意志ト智的活動トノ關係及ビ意志ト情緒トノ關係ヲ說明セヨ

六　高等小學校兒童ノ性質ヲ觀察スルニ當リ心理學上特ニ注意スベキ諸要點ニ就キ各自ノ意見ヲ述ベヨ

八　歸納推理ニ關シテ注意スベキ要點ハ何ゾ

第二次

一　維新前普通教育ノ狀況ノ概略ヲ記シ且ツ其ノ長所ニシテ則トルベキモノアラバ之レヲ擧ゲヨ

二　維新以來教育思想ノ變遷ニ影響ヲ及ボシタル歐米諸大家ノ學說ニ就キテ概概ヲ叙述セヨ

三　授業ノ際生徒ノ注意ヲ換起シ且ツ之ヲ持續セシムル方法ヲ詳述セヨ

四　兒童教育上家庭ト學校トノ分擔スベキ事項及ビ兩者ノ協力スベキ事項ヲ各別ニ論述セヨ

五　現今我國民一般ニ受ケシムベキ學校教育ハ各個人智德ノ發達上如何ナル効果ヲ得ルコトヲ目的トスベキカ

六　中小學校ノ體育ニ就キテ各自ノ意見ヲ陳述セヨ

第三次

一　小學校ニ於ケル歷史教授ノ要旨及ビ教授法ヲ說キ教課一則ヲ掲ゲテ之ヲ教授スル方法ヲ示セ　但シ掲ゲル所ノ教課ハ第何學年ノ兒童ヲ以テ編成セル學級ニ於テ學年ノ始ヨリ大略幾週日ノ後ニ幾時間ヲ以テ教授セントスル見込ナルカヲ附記スルヲ要ス

二　高等小學校第一學年ニ於ケル理科教授ノ要旨教程及ビ教授法ヲ說キ教課一則ヲ掲ゲテ之レヲ教授スル方法ヲ示セ　但シ學年ノ始ヨリ大略幾週日ノ後ニ幾時間ヲ以テ教授セントスル見込ナルカヲ附記スルヲ要ス

三　單級尋常小學校ニ於ケル教授時間割ヲ編製シ尚ホ特ニ讀書科教授ニ就キテ時間ノ配分方ヲ詳細ニ記セ

以上三題

教授法

一「恭儉己ヲ持シ」トイフコトニ就キ高等小學校第二學年ノ兒童ニ教授セヨ

一「博愛衆ニ及ボシ」トイフコトニ就キ高等小學校第三學年ノ兒童ニ教授セヨ

右二題中ニ就キテ一題ヲ撰ベ

第十回　教育科

豫備設問課

一　神經系統ノ解剖并ニ生理ヲ略說セヨ

二　兒童ハ概シテ記臆スルヿ速ニシテ忘ルヿ速ナリ其理由

三　感情ト意志トノ區別及ヒ兩者ノ相互ニ影響スル有樣如何

四　論理學上ヨリ分類并ニ定義ヲ說明セ

五　歐洲ニ於ケル文學再興ノ由來ヲ略叙シ并ニ其ノ教育史上ニ於ケル影響ヲ說述セヨ

六　教育ハ各個人ノ特質ニ注意スルヲ要スト云フ所謂特質ノ何タルカヲ說キ而テ其注意ヲ要スル所以ヲ說明セヨ

七　世ノ教育學ヲ無用ナリト云フ人ハ如何ナル理由ニ據リテシカ云フカ其理由トスル所ヲ評論セヨ

本試驗設問題

第一回

一　教育學ノ所謂與味ヲ心理學上ヨリ說明セヨ

二　意志修練ノ方法ヲ心理學并ニ教育學上ヨリ說明セヨ

三　我カ國維新前ノ教育法ニ就キテ今日値フベキモノハ何等カ

四　教材ノ撰擇并ニ排列ハ何々ニ基ツキテ定ムベキカ

五　遊戲并ニ體操ノ教育的價値ヲ述ベ併セテ時間表中ニ於ケル其ノ配置法ヲ論セヨ

六　幼稚園ノ目的ヲ論シ其ノ家庭并ニ小學校ニ對スル關係ニ及ベ

七　本邦歐行ノ視學制ヲ述ベ視學ノ職務ニ於テ尤モ注意スベキ點ヲ擧ゲヨ

第二回

一　教式ノ種類ヲ列擧シ并ニ各式適應ノ場合ヲ示セ

二　文部省編纂尋常小學校讀本卷ノ七第四課「螢雪ノ功」ノ教授案ヲ作リ并ニ之ヲ教授スルニ要スル巨細ノ注意ヲ附記スヘシ

三　高等小學科四學年ヨリ成ル單級學校ニ於ケル時間割ヲ製スヘシ　但教科目ハ成規ニ從ヒ適宜加除スルヿトヲ得

第十一回　教育科

豫備試驗問題

一　感覺ノ種類ヲ分チ各種類ニ就キテ簡單ナル説明ヲ與ヘヨ

二　兒童ノ好ンデ寓言ヲ聞クハ何故ナルカ

三　論理學上比論（洋名又類推ト呼ブ）ト歸納トノ別ニ就キテ例解セヨ

四　平安時代ト江戸幕府時代トニ於テ教育上理想トスル所ニ相違アリシトセバソハ何等ノ點ナリシカ

五　ペスタロッチーノ出デタル時ニ當リ歐州ノ形勢ハ如何ナリシカヲ簡單ニ説明セヨ

六　教育上體育ノ價値如何

七　訓育的教授トハ如何ナル意義ナルカ

右四時間

本試驗問題

一　概念ノ性質ヲ説明シ其發達ノ順序ヲ記シテ教授上ノ注意ニ及ベ

二　兒童ハ如何ニシテ外界ノ知覺ヲ得ルカ之レニ關スル精神作用ノ發達ノ順序ヲ説明セヨ

三　教育史上人文派實學及自然派ノ別ヲ設クルコトアリ各派ニ就キテ代表者ヲ擧ケ且其ノ主義ノ要領ヲ述ベヨ

四　教授ノ段階ニ關スル諸大家ノ意見ヲ掲ゲ實地應用ノ上ヨリ論評セヨ

五　教授上用フル問題ニ就キテ心得ベキ事項ハ何々ナルカ

六　試驗ノ目的及ビ其施行上注意スベキ要件ヲ問フ

七　教育上用フベキ賞罰ノ種類ヲ擧ゲ各種類ニ就キテ方法ヲ略述シ簡單ナル評論ヲ附セヨ

八　本邦小學校教員ノ養成并ニ補習ニ關スル製度ノ沿革ヲ略述シ尚ホ若シ現在ノ狀態ニ就キテ改良ヲ加フル可トスト認ムル所アラバ擧示セヨ

右四時間

本試驗問題

一　教育上地理科ノ價値ヲ論シ小學校ニ於ケル其材料ノ撰擇當配及ビ教授ノ方法ヲ略述セヨ

二　暗算ノ必要ヲ論ジ并ニ之レヲ課スルニ方リテ注意スベキ要件ヲ述ベヨ

三　單級組織ノ便ヲ論ジ特ニ學科組合セ上ニ於ケル注意ヲ述ベテ一例ヲ表ニ作リテ示セ

右二時間

第十二回　教育科

豫備設問課

一　交感神經系統トハ何ゾ又其ノ心的作用ノ上ニ於ケル關係ハ如何

二　衝動本能及ビ願望三者ノ區別及ビ相互ノ關係ヲ詳說セヨ

三　宗教改革ノ歐州教育上ニ及ボシタル影響

四　左ノ人人ニ就キテ知レル事ヲ記セ　但必ズ其年代國所ヲ附記センコトヲ要ス

張載　僧玄懸　董仲舒　南淵請安

クインチリアン　パセドウ

五　分解法ト總合法トノ區別如何例ヲ揭ゲテ之レヲ示セ

六　教育上体操并ニ遊戯ノ價値ヲ論セヨ

右三時間

本試驗設問課

一　「アッパルセプション」(類化又ハ認容等ノ譯語ヲ用フル者アリ)トハ何ゾ教授法ノ基礎トシテ之レヲ簡單ニ說明セヨ

二　兒童氣質(或ハ稟賦トモ云フ)ノ分類法及ビ教育上各氣質ノ取扱法ヲ問フ

三　本邦ト歐州ト各封建時代ニ於ケル武士ノ氣風及ビ其教育法ニ就キテ異同ヲ比較セヨ

四　教授ノ形式ヲ列擧シ且各形式ノ特ニ適用セラルベキ場合ヲ示セ

五　國語科教科書ノ撰擇ハ何ヲ標準トスベキカ

六　小學校一個教室ニ於ケル衛生上并ニ教育上主要ナル設備ヲ記載セヨ

第二場問題

一　小學校ニ於ケル歷史教授ニ關シ先ヅ如何ナル材料ヲ撰擇スベキカヲ說キ併セテ其排列上注意スベキ個條ヲ擧ゲヨ

二　小學校ニ於テ日用文ヲ教授スル順序及ビ方法ヲ問フ

三　小學校ニ於テ必要ナル物理化學實驗ノ種類程度及ビ其ノ授業上ニ於ケル準備ト實施トノ方法ヲ問フ

第十三回　教育科(本)

一、美感發達ノ次第及其道德トノ關係如何

二、「ヘルバルト」「チルラー」學脈ノ教授統一ノ理論及方法ヲノベ且ツ其ノ可否ヲ論セヨ

三、男女共同教育ノ利害ヲ論セヨ

四、尋常小學校必須教科ノ價値ヲ論セヨ

五、寄宿舍ノ利害ヲ論ジ併セテ之ヲシテ有効ナラシムル方法ニ及ベ

六、兒童ノ學業ノ優劣ヲ表スル諸方案ニ就キ得失ヲ表セヨ

七、尋常小學校第四年生ノ兒童ニ儉約ノ重ンズベキコトヲ教授スル教案例ヲ作ルベシ

(右四時間)